

I 基本方針と目標の設定について

1 文化財施策の基本的な方針

「5館一体・再構築・裾野の拡大」 次の10年を切り拓く3つのキーワード

横浜市ふるさと歴史財団はこれまで3期20年にわたり、横浜市歴史博物館等の指定管理施設を運営してきました。この間、資料の収集保管、調査研究、展示普及と言った基本的な博物館活動はもとより、安定的な施設運営と指定管理者制度との調整、新型コロナウイルスの影響に対する社会と一致した行動や、文化庁が主導する次代の文化施設に求められる対応なども、専門職員や事務職員、臨時職員、ボランティア、多くのステークホルダーとともに対応し、経験や知見を蓄積してきました。

第4期指定管理期間には横浜市三殿台考古館は開館60年、横浜開港資料館は開館50年、横浜市歴史博物館は開館40年、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館は開館30年を迎えます。これら歴史資料や研究情報の蓄積はまさに歴史系博物館の活動の中核であり力の源でもあります。一方でその力を蓄える各施設は老朽化が進み、その対応に休館を余儀なくされることも増えています。

こうした状況に加え、将来の予測が困難な現代において、また未来に向けて安定的な施設運営を実現するためには、これまでの事業運営の総合的な再構築が必要です。具体的には、5館連携の運営への変更に注力した前期指定管理期間から今期は**5館一体**の運営に進化させるためにも、事業面・予算面・組織面の**再構築**をおこないます。

各施設に蓄えられた歴史の力を最大限に活かすことは、博物館施設の運営のみならず横浜市や市民の活動を支えることに繋がります。第4期指定管理期間では、博物館の**裾野を拡大**し運営に必要な強固な運営基盤を、市民をはじめとした多様な利用者やステークホルダーとともに築いていきます。



基本方針

半世紀にわたる横浜の歴史関連事業に関する 知識と技術、経験と人脈、伝統と信頼性を次代につなげる

横浜市ふるさと歴史財団は、財団設立（平成 4 年 9 月）以前の歴史系諸機関・諸団体の活動——港北ニュータウン開発・金沢海岸部埋め立て等にともなう調査、二度にわたる横浜市の自治体史編纂、横浜市の文化財行政や歴史アーカイブの基盤形成など——を継承し現在に至っています。

昭和 62 年に制定された横浜市文化財保護条例にもとづき横浜市が進める文化財の保存・活用施策はもとより、令和 6 年に認定を受けた「横浜市文化財保存活用地域計画」や「横浜教育ビジョン 2030」に基づく「横浜市第 4 期教育振興基本計画」に関わる取組まで、次期指定管理期間も変わらず当財団はその継承している高度な専門性、蓄積を生かし、新たな時代の文化財行政や横浜の歴史文化の普及に寄与していきます。

—5 つの指定管理施設と支援組織

それぞれの施設が現在果たす役割と目指す将来像—

〔指定管理施設〕

横浜市歴史博物館 【歴博】

原始から開港期までを中心とする 3 万年の市域の歴史を伝える博物館です。隣接して国指定史跡大塚・歳勝土遺跡があり、遺跡公園は近隣住民の憩いの場であり、市内外の小学校の歴史学習の拠点となっています。

良好な展示環境の維持、長年にわたる実績から、国の指定文化財の公開承認施設、重要有形民俗文化財の公開事前届出免除施設となっています。これにより、国宝や重要文化財に接する機会を多くの市民へ提供することができ、文化財の普及啓発に寄与してきました。開館 30 周年を迎えた 2025 年には、こうした活動の集大成ともいえる特別展「横浜の文化財 Yokohama Heritage —まもり伝える地域の記憶」を開催しました。

開館 40 年やその先を見据え、財団の基幹施設として、調査・研究や展示活動、資料保存活用を促進させ、市民へ質の高い幅広いジャンルの展覧会をこれまで以上に提供していきます。近年は立地する港北ニュータウンの文化ゾーンの中心施設として、都筑民家園や都筑区民文化センターとともに地域の活動にも大きく貢献しており、こうした地域の中での役割も同等に果たしていきます。

横浜開港資料館 【開港】

開港以来の横浜の歩みを次の世代に伝えるアーカイブズとして非常に大きな役割を果たしている施設です。開港期から関東大震災に至る時期の、日本だけでなく諸外国を含む地域の資料を収集・保管、整理し、調査・研究を行い、その成果を市民や国内外からの来館者に対し「近代横浜の記憶装置」として閲覧、展示、出版等を通して公開・発信しています。

近年は、豊富な収蔵資料を活用した特別公開に加え、旧英國総領事館の歴史的建造物やペリー上陸を見守った生き証人である中庭のたまくすの木といった歴史的観光資源の価値を

高める取組として、文化庁が認定する文化観光拠点計画による事業も実施してきました。デジタルアーカイブや YouTube チャンネル等オンラインコンテンツに加え、バリアフリーデッキを整備した中庭やリニューアルしたミュージアムショップ＆カフェまで、市民の多様な利用空間として、賑わいや観光拠点の場として今後も活用していきます。

横浜都市発展記念館 【都発】

現在の横浜市の骨格が形成された昭和戦前期から戦後期を中心に、「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の3つの視点から、都市横浜の歩みを伝える博物館です。横浜の都市形成に関する資料の収集・整理、調査・研究を基礎として、企画展示、出版、講座などの普及事業に努めています。

これまで公開してきた絵葉書や地図データベースに加え、2022年に「映像でたどる戦後の横浜」、2024年に「戦後横浜写真アーカイブズ」を公式ウェブサイトで公開したことを行なう。2025年には戦後80年の戦争の記憶を伝える特別展を開催するなど、時代や社会の要請にこたえる歴史資料を数多く収集保管し、オンライン・オフラインを問わず発信しています。

横浜の都市形成を多様な歴史的視点から伝える博物館として、その個性を今後一層磨きあげていきます。

横浜ユーラシア文化館 【ユ文】

東洋学者江上波夫氏から横浜市に寄贈された資料を核に、ヨーロッパとアジアを合わせたユーラシア諸地域の歴史、考古、美術、民族等、「民族や文化の交流」に関する調査・研究、公開を行い、国際都市横浜の発展に寄与している博物館です。

「横浜で世界とつながる」をコンセプトに、国際文化都市横浜の多文化共生社会の進展と、市民のユーラシア文化への理解促進に寄与する活動を展開しています。今後さらに重要度を増す国際文化都市としての横浜市の発展を、ヨーロッパやアジアとの交流を軸にした歴史的視点から支えるとともに、コロナ禍でスタートした「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」のイベントは立地する日本大通りの秋の風物詩としても定着するなど、他の指定管理施設とは一線を画す個性的な事業を今後も展開していきます。

横浜市三殿台考古館 【三殿】

国指定史跡三殿台遺跡の出土品の展示公開、縄文・弥生・古墳の三時代の復元竪穴住居、発掘現場を保存した保護棟を基本に、展示解説や体験学習など、考古学を中心とした普及活動を実施しています。

立地する磯子区を中心とした近隣小学校の歴史学習の場としても多く活用されているだけでなく、近年は丘の上の立地を生かしたダイヤモンド富士観察会や夜景観賞会などの企画を実施し、新たな魅力の創出に努めています。

また、隣接する岡村小学校との交流も永年にわたって継続しており、同校OBのロックデュオゆづの聖地としても知られる三殿台考古館は、地元住民や歴史ファンだけでなく国内外の多くの人々に親しまれており、今後もそうした幅広い人々に愛される施設を目指します。

〔支援組織〕

横浜市ふるさと歴史財団総務課 【総務】

前述のとおり、横浜市ふるさと歴史財団はこれまで3期20年にわたり、横浜市歴史博物

館等の指定管理施設を運営しています。第4期指定管理期間においても事業面・予算面・組織面の支援や調整を担い、円滑な5館一体での運営に向けた支援の中心的な役割を果たしていきます。

各館の個性を伸ばす支援をするだけでなく、設立30年経過した財団自体についても、横浜の歴史文化の中核を担う組織としての認知向上を同時に目指します。

横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 【埋文】

埋蔵文化財の発掘、調査・研究と整理事業を専門とする機関です。発掘調査報告書の刊行や調査成果の公開、展示、講座、体験学習など、埋蔵文化財に関する普及啓発を通じた保護と継承の重要性について、市民理解を深めつつ地域文化の振興に貢献しています。

古代から近代にいたるまで、指定管理施設が開催する展覧会やイベント等に、発掘調査の成果を提供するだけでなく、職員の交流を通じた専門知識の共有や人材育成面でも貢献しています。今後も財団各施設の事業を支援する役割を果たしていきます。



横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターは指定管理全施設の活動を支援しています



横浜市八聖殿郷土資料館外観

横浜市八聖殿郷土資料館 【八聖】

幕末から明治にかけての本牧、根岸地域の暮らしを伝える写真や漁具、市内で使われていた農具を収蔵展示し、指定管理施設の展覧会等への資料提供をおこなっています。三渓園に隣接する地域の郷土資料館として今後も役割を果たしていきます。

—指定管理3期20年を踏まえた将来の予測が困難な時代へ対応していきます—

横浜市三殿台考古館は開館60年、横浜開港資料館は開館50年、横浜市歴史博物館は開館40年、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館は開館30年と指定管理施設は節目となる年を第4期指定管理期間に迎えます。

資料の蓄積と相反するように施設の老朽化は進む状況ではありますが、歴史研究は過去の歴史から人間の英知を探ることが目的のひとつにあります。5館が一体となって行う研究によって明らかにされる横浜の歴史は、予測が困難な将来を見通すための大きな指針となります。

これまでにも歴史を活かした街づくりの系譜が横浜市にはありますが、令和6年には「横浜市文化財保存活用地域計画」が令和7年には「横浜市歴史的風致維持向上計画」がそれぞれ国の認定を受け、歴史を活かす取組の前提がかつてないほどに整いつつある状況です。これまでに蓄積した知見を活かし、教育委員会をはじめ、横浜市各区局の計画や協力を得つつ、第4期の指定管理期間に対応し、市政や歴史を活かした取組に貢献していきます。

I 基本方針と目標の設定について
2 文化財施策の基本方針と当面の重点課題に対する目標設定

基本方針

～ 「歴史」を横浜のチカラに ～

歴史は人々の活動の力を生み出します。

横浜市民のアイデンティティを形成するという財団のミッションは、まさに歴史を通して、人づくり、まちづくり、文化づくり、市民意識づくりに貢献していくことに他なりません。これまで多年にわたって当財団が管理する各施設が築いてきたことは、その力の源です。

この先、未来にわたって横浜市が世界とつながり、そのプレゼンスを発揮していくためにも、ふるさと横浜を想う人々を一人でも増やし、歴史の力を大きく育てる必要があります。10年という長い指定管理期間において、目指すべき姿を基盤に置きながら、短中長期の見通しをもった目標設定を行い、不断の磨き上げをしつつ事業運営を行っていきます。

具体的な取組・目標

散逸のおそれのある、横浜に関する文化財や歴史資料の保存と継承

横浜の歴史資料の収集や保管は横浜の歴史を伝え、ふるさと意識の醸成を図る指定管理施設の調査研究の基盤となる活動です。現在も新たな資料が発見され続けるいっぽうで、貴重な資料がひっそりと散逸、廃棄されるケースは多くあると推測されます。また、指定管理各施設の収蔵庫は開館以来の蓄積により狭隘化が進んでいます。こうした状況を鑑み、将来的な資料の効率的な収蔵に向けた各取組を実施します。

3年：資料収集・受入方針・整理計画等の再構築

5年：民間倉庫も含む、指定管理施設所蔵資料の再配置

10年：市史資料のうち民間資料等、横浜市各局の歴史資料受け入れ検討

指定、登録等による文化財や歴史資料の保護

昭和63年の横浜市文化財保護条例の制定以降、令和6年度までに指定された文化財は177件、登録文化財は99件にのぼります。指定管理施設では、その歴史的価値を明らかにし記録するための所管課の文化財調査に毎年専門職員を派遣しています。また、歴史博物館では毎年、指定・登録文化財展を開催し、県指定文化財、国重要文化財、国宝も含めて、横浜市ゆかりの貴重な文化財を観覧できる機会を設けています。指定や登録に限らず、文化財の修復や保存には多額の費用が掛かります。文化財の保護や保存の意義を訴えつつ、支援の裾野を拡大するためのこうした着実な取組みを継続していきます。

横浜に関する文化財や歴史資料の調査研究

横浜の文化財や歴史資料に関する調査研究は、専門職員の専門性の向上に資するだけでなく、研究成果は成果の発表の場としての書籍の刊行や展覧会を通じてふるさと意識の醸成に繋がる大切な活動の一つです。

しかしながら近年は、科学分析など調査手法の多様化にともない、調査研究費用の不足か

ら研究の継続や体制維持が難しい場面が増えていきます。

こうした状況を踏まえ、科学研究費等の外部の研究費の獲得に向けた検討を進めるだけでなく、積極的に外部の研究機関との共同研究などを進めます。

文化財や歴史資料を活用し、調査研究の成果を市民に還元する展示や講座などの普及事業

指定管理各施設の常設展示室は、文化財や歴史資料を通じて横浜の歴史を多くの方に伝える拠点です。開館から三殿台考古館は 60 年、開港資料館は 50 年、歴史博物館は 40 年、都市発展記念館・ユーラシア文化館は 30 年を第 4 期指定管理期間に迎えます。

この間、多くの新たな調査研究の成果によって横浜の歴史が明らかになっていますが、いずれの施設も常設展示室の更新ができていない状態です。研究成果をより多くの市民や来館者に伝えるため、常設展示室の更新について計画を提案し、あらたな展示室の魅力を伝えるための講座等、普及事業を展開していきます。

3 年：常設展示室の更新計画の検討と費用の積算

5 年：所管課への提案

10 年：順次各施設の常設展示室の更新



歴史博物館の開館 30 周年を記念した特別展「横浜の文化財 Yokohama Heritage」(令和 7 年開催)

横浜の歴史に関する情報の収集、整理及び発信

資料の収集は、横浜の歴史を伝える調査研究の大切な素材を集める重要な業務です。整理はその価値を明らかにする基礎的な作業として情勢によらず継続して実施しなければいけないものです。近年、市内の旧家からの膨大な資料群の整理や寄贈の相談が相次いでいる一方で、最低賃金の上昇から人件費予算が目減りし、整理業務が停滞するなどの支障が出ています。また基礎的な整理作業に従事できる人材の育成も課題です。

今後、資料整理の基本的な方針や計画の策定を行い、限られた予算や人材を効率的に活用できるように資料の収集や整理に関する体制を 5 館一体となって再構築していきます。あわせて、通常は表に出ないそうした業務に関する情報などをウェブサイトや SNS を通じて発信し、資料の整理を通じた新たな歴史の発見といった魅力を伝えます。

学校教育における歴史学習や総合的学習への支援

指定管理施設では、第 3 期指定管理期間のコロナ禍において訪問授業を進めました。専門職員や学校教員 OB のエデュケーターだけでなく、支援組織の埋蔵文化財センター専門職員、所管課の教育委員会の専門職員が一体となって取り組んだ訪問授業は、アフターコロナの現在においてもニーズが高く、実施件数は増加傾向です。

現在、年間 120 校を実施目標にしていますが、ニーズへの対応や効率的な実施に向けた体制の再構築など、必要に応じて取組を強化していきます。

こどもから高齢者まで市民による歴史、文化財学習活動への支援

これまで当財団の各施設では、団体見学を通じて多数の小学生を受け入れています。中学校については社会科の研究作品展の会場提供、高校には、高等学校文化連盟の社会科専門部会の研究発表会場提供や審査員の派遣などに協力してきました。また、横浜市内 18 区には、郷土史に興味関心をもち学習活動を行う団体が多数あります。歴史博物館では考古から近世、民俗までの各時代や各分野を学ぶ市民による関連団体が活動しています。

このように多様な世代の歴史や文化財の学習活動に貢献していますが、活動場所の確保

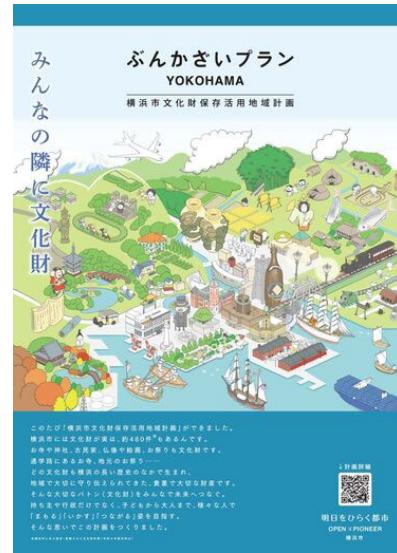
や専門職員の助言、会員の高齢化、役員の成り手不足など、団体によってさまざまな課題を抱えている現状もあります。

当財団や各施設では、こうした歴史の理解者である市民に寄り添い解決に向かうための支援を行うことで、施設を支えていただける裾野の拡大に努めます。

横浜市の周年事業や、まちづくりなど歴史を踏まえた施策に対する学術面からの支援

当財団では半世紀にわたる横浜の歴史関連事業に関する知識と技術、経験と人脈、伝統と信頼性を活かし、第3期指定管理期間には所管課による「横浜市文化財保存活用地域計画」や都市整備局の「横浜市歴史的風致維持向上計画」について、その策定を支援しました。

第4期指定管理期間中にも、2027年には国際園芸博覧会の開催や鶴見・神奈川・中・保土ヶ谷・磯子の5区が区制100周年を迎えるなど、横浜市を挙げての取組や周年の機会が多数予定されています。歴史をそれぞれの取組の力にしていただけるよう、指定管理施設が5館一体となって、支援組織も含めて協力していきます。



横浜市ふるさと歴史財団が策定を支援した「横浜市文化財保存活用地域計画」

埋蔵文化財発掘調査や文化財関係施設との連携について

埋蔵文化財の調査については指定管理ではない支援組織の担当業務ですが、調査報告書として刊行された成果については、これまでにも歴史博物館や都市発展記念館などの企画展等に活用するべく調整を随時行っています。

また国史跡である大塚・歳勝土遺跡、三殿台遺跡の復元住居や、横浜市地域史跡である玉楠の木など、指定管理施設に隣接または付置された文化財関係施設は、かやぶき屋根の修復ボランティアや樹木医会との協力体制の構築など、これまでの取り組みを継続し、維持管理の普及啓発とコストの低減に努めます。また運営面では、大塚遺跡や三殿台遺跡ではガイドボランティアによる解説をおこなっており、市民参加型で魅力を発信しています。

評価制度を改修し再構築します

これまで財団内では、事業評価手法としてP D C Aサイクルによる評価制度を運用いてきました。多くの職員が習熟し、サイクルに基づく事業の企画立案を進めているところですが、現在おもに扱っている事業内容面や集客面だけでなく、予算決算の収支面や適切な事業スケジュールによる運営面など、多面的な評価制度を改修します。

あわせて、平成21年6月の当財団理事会・評議員会で決定し継続使用してきた評価基準も見直し、わかりにくさが指摘されているS～Dの定量評価を、定性評価項目とあわせて基準値を再定義して、統一した目標を設定し実効性を担保するとともに、結果に異論が出ない仕組みを検討します。また、評価制度には既に外部理事の意見を反映させていますが、より多くの声が反映できるよう、あわせて再構築していきます。

3年：現行評価制度の見直し検討・試行

5年：新評価制度の本格実施

10年：新評価制度の見直し

点検や振り返り、評価結果を次の事業に活かす仕組み

前項の評価制度の再構築により、事業目標や基本方針に立脚した、より質の高い事業運営を進めるため事業の点検・評価と改善が一体的に行われることで、評価結果の「A（改善）」から次の事業の「P（計画）」へ繋げていく仕組みが整います。

そのためには、展覧会担当者だけでなく、財団全体として結果を次に活かす意識を全職員がもち、好結果の事業を次の事業に反映させやすくする仕組みを検討します。

これまででは「A（改善）」の実行状況が見えにくい部分があつたため、各館の取組結果が他館へ効果的に伝わっていなかつた面もあり、5館一体の強みを出していくためにも、スケジュールの策定や進捗管理自体を評価項目として、適切な事業運営に結びつけ点検や振り返りの評価結果を次に活かす仕組みの構築を優先課題として取り組んでいきます。

I 基本方針と目標の設定について
3 文化財施設の政策的位置づけ及び課題に対する取組

基本方針

—提案する組織へ—

指定管理施設の運営だけでなく、博物館や文化財をめぐる社会にも近い将来の予測が困難な時代が到来しています。

文化庁を中心に、改正博物館法をもとにさまざまな改革が行われていますが、それらへの対応だけでなく、資料の収集や保存、調査研究面でも新しい技術が登場し、日進月歩の状況となっています。指定管理施設の運営にあたっては、こうした新たな知識や技術の獲得やアップデートは欠かせないものと認識しています。

いずれの指定管理施設も開館から長い年月を経ており老朽化も進んでいます。また、それぞれに史跡や歴史的建造物の管理もおこなっていることから、小さな不具合が運営に支障を及ぼす事態に発展する可能性も少なくありません。

第4期指定管理期間においては、安定的な指定管理施設の運営に向け、横浜市や国の文化財施策を推進、支援するとともに、横浜市の歴史系博物館という公益と信頼の両立が求められる施設運営について、専門的な最新の知見による先を見据えた提案を所管課に対して積極的におこなっていきます。

具体的な取組

横浜市の文化財施策推進と支援【5館一体】

指定管理を行う5施設は前述のとおり、開館以来の収蔵資料や専門職員の学術的な知見だけでなく、いずれの施設も国指定史跡や歴史的建造物を含む管理運営となっています。各館ともに「横浜市文化財保存活用地域計画」や「横浜市歴史的風致維持向上計画」に基づく取組においてもすでにその活動拠点として利活用が進んでおり、今後もより多くの市民の拠点となるよう、裾野の拡大に向けた取組を推進します。

各施設は資料収集や調査研究、展覧会等の個々の拠点である一方、歴博と三殿台では遺跡の復原堅穴住居を、開港と都発、ユ文では昭和期の歴史的建造物を長年にわたって管理しています。また支援組織である財団では称名寺境内や市が尾横穴墓群や稻荷前古墳群を管理しており、これらの史跡や建物の文化財としての価値の向上を、経費の節減に対応しながら実現するには各館の努力だけでは不可能です。所管課に対し、5館一体となって修繕や活用方法なども含めた新たな提案を行います。

高度な専門性のさらなる向上と伝承【5館一体】

当財団は、横浜市が戦前から実施してきた歴史に関する資料収集・発掘・調査・研究の伝統を継承しており、高度な専門性を有する多数の人材を擁している財団です。第3期指定管理期間も、施設間で連携し、横断的に研究を進めることにより、こうした人材の個々の専門性は一層生かされ、歴史的研究及び展覧会や普及事業に一層幅広い視野と深みをもたせてきました。

財団も設立から30年以上が経過し、専門職員の入れ替わりも急速に進んでいます。財団

の支援施設である埋蔵文化財センターや財団外の横浜市内・神奈川県内の博物館等の専門職員のネットワークも時に活かしながら、専門性を向上させつつ、確実にその知見を継承できるような技術的な仕組みも第4期指定管理期間に構築していきます。

あわせて、専門職員の人材交流や育成、また5館一体となった事業運営に資する取組として、専門分野にとらわれない人事異動や支援組織も含めた学芸担当係長会議を実施します。これにより課長経由よりもタイムラグのない現場の情報共有にも繋がります。新採用時には、配属予定以外の施設での一定期間の研修を必須とするなど、施設や事業への理解を深める取組も実施します。

経年施設での安定的な施設運営に向けて【5館一体】

指定管理施設がこれまでに収集保管してきた文化財は、専門職員の研究対象だけでなく、現代の市民、未来の市民にとっても共有の財産です。その保管には高い公益性と信頼性が求められることは言うまでもありません。

一方で、経年による収蔵資料の増加、収蔵スペースの狭隘化は全国的な博物館の課題でもあります。また、巨額の評価額を有するこれらの収蔵資料にとって適切な保管環境を維持するために欠かせない空調設備の老朽化、更新も大きな課題です。

業務の基準を順守した点検作業、小さな不具合情報であっても早期に関係先へ共有（設備担当（施設・財団）・委託先業者・所管課）することはもとより、故障が発生した際は、修理までの保全対応や大規模な工事予算獲得に向けた準備（専門性を反映した展示リニューアルプランと経費見積）を積極的に提案していきます。

故障発生時の保全対応について、ハード面については、小破修繕の範囲内における現状の機器類の長寿命化、機能の維持はこれまで通り実施します。また、ソフト面では、常設展示室の空きスペースを活用し企画展・特別展の関連コーナーを設けることや、解説アプリやウェブコンテンツと常設展示室を連動させる企画などにより、常設展示室が提供すべき情報の発信に努めます。



歴史博物館「歴史劇場」リニューアルでは改修プランを提案（令和6年4月オープン）

横浜市の教育政策に対する取組【5館一体】

教育施設としての役割を持つ本財団施設において、児童・生徒、ときに教員といった学校教育の学びを支えることは非常に重要な使命です。「横浜市中期計画 2022～2025」「横浜教育ビジョン 2030」「第4期横浜市教育振興基本計画」には、これから求められる児童・生徒の育ちや学びの姿や、それを実現する環境として市民の生き方を支える生涯学習の学びの姿が示されています。

第3期指定管理期間では、団体見学の受け入れという「待ち」の姿勢ではなく、団体見学をよりよく活かすため、事前に学校を訪問して授業を行うなど、積極的に動くことで児童や生徒の学びの質の向上に努めてきました。財団の学校教員OBのエデュケーターを中心に専門職、所管課の職員、他の市局、区との連携をこれまで以上に充実させ、児童・生徒・市民の学びを支えていきます。歴史博物館では、小学生に配布されたタブレットに常設展示室の解説アプリをインストールする取組を令和6年度より進めてお



エデュケーターによる訪問授業の様子（令和6年）

り、事前学習の訪問授業だけでなく、常設展示の見学が深い学びにつながる取組を推進します。

市民サービスの向上及び市民との協働の新たな提案【5館一体】

市民サービスの向上を実現するためには、コロナ禍を経て時代にそぐわなくなってきた既存の事業の改廃、再構築、磨き上げあるいは管理施設の活動を支える人々や団体、企業などの、裾野の拡大が欠かせません。

これまでの歴史ファンを対象とした展覧会や関連イベント中心の BtoC 事業だけでなく、各施設や所蔵資料の利活用を検討・希望する団体や企業との BtoB 事業の新規展開も視野に入れ、これまでの「歴史ファン」を大切にしつつ、これまで認知していなかった歴史ファン以外の「市民」の解像度を上げることで、よりきめ細やかな広報 PR やプロモーションを開発し、サービスの向上やこれまでにない新たな協働から収益が生み出せる可能性を拓きます。



プロバスケットボールクラブ「横浜エクセレンス」との連携パネル展示（令和7年）



交通事業者「横浜高速鉄道みなとみらい線」との広報連携 横浜駅等でのポスター掲示（令和6年）

市民の声を聴く仕組みを再構築し迅速に対応【5館一体】

令和 7 年度末の完成予定で、当財団が管理運営する施設すべてのウェブサイトのリニューアルをすすめています。現在の各館のウェブサイトでは、お問い合わせ方法や記載の有無に差がありますが、リニューアルを機に、お客様の現状のニーズにあわせて、統一した窓口フォームを設け、皆様の声を聴く仕組みを統一します。また、統一窓口に寄せられた意見や要望などは、課長・係長に即座に共有する仕組みも構築し、対応の迅速化を図ります。

経費の節減と収益の向上の新たな提案【5館一体】

多くの市民が想像するように、博物館施設の中心となるのが展覧会事業であることは変わりません。しかし、展覧会の開催経費だけでなく、その前提となる資料の収集・保管・調査・研究の各局面で必要となる経費は人件費や資材費を中心に近年極端な高騰が続いています。

経費の節減は健全な法人運営、引いては指定管理委託料の節減につながります。財団の財産でもある人件費を確保しつつ、持続可能な施設運営を維持するため、収益の重心となる集客の専門担当の設置や、これまでに実施例がない大型巡回展の開催、大型委託業務などの発注合理化（施設横断の共同発注・プロポーザル提案）などの諸施策を実施します。また、所管課に対しては、収入の多様化につながる利用料金の見直しや商業利用の推進についての積極的な提案を行います。



歴史博物館のコルネードを活用して開催されている「みなきたマルシェ」（令和5～7年）



歴史的建造物「旧英國総領事館」を活用した商業撮影イメージ（令和3年）

II 重点方針について
1 5施設の連携に関する方針と計画

基本方針

— 5館連携から5館一体へ、執行体制の強化 —

指定管理5施設の運営には、支援組織・支援施設も含めた一体的な運営が欠かせません。第3期指定管理期間は5館連携や埋蔵文化財センター等の支援施設も含めた多館連携に恒常に取り組んだ期間でした。これにより資料の収集や調査研究、その成果発表の場としての展覧会など、全期間を通じて多くの成果を生み出しました。第4期指定管理期間においては、さらに歩みを進め事業の実施、研究成果の共有、人材の交流や育成といった運営の基盤を5館一体でおこなう体制を早期に整備します。

これにより、各館の個性を伸ばしつつ、従来はさまざまな場面で施設ごとの壁といった制約を受けていた部分を乗り越え、強固で柔軟性のある執行体制を再構築していきます。

具体的な取組

執行体制の強化に向けた組織再編【5館一体】

第3期指定管理期間においては、多くの連携事業を進めた経緯から組織横断的な共同研究や展覧会を数多く実施し、専門職員の連携意識の向上はもとより、結果としての展覧会の開催や出版物の刊行など、成果の充実に繋がりました。

第4期の指定管理期間においては、こうした取組を一層推進し、5館一体として事業を進めていくために、専門職員だけでなく事務職員の配置を見直し、財務会計や文書事務等の執行体制を再編します。これにより、限られた人員を有効に配置し、効率的な事業運営を実現するとともに、これまで各館独自に培われたノウハウを全体で共有し、職員の交流や育成を進めます。

予算等経営資源の有効活用【5館一体】

第3期指定管理期間後半から事業費に含まれる委託費（人件費、資材費等）の著しい高騰が続いている。政府の最低賃金目標や日銀の物価安定目標（2%）も踏まえると、第4期の指定管理期間においても同様の傾向が継続、またはさらなる上昇が見込まれます。

こうした状況を踏まえ、安定的な組織運営を損なわないように、令和7年度予算編成から指定管理委託料の配分について財団にとって最大の資源である人材を確保する方針とし、その上で、委託料は指定管理事業の原資として配分し、基本的な指定管理施設を運営する方針としました。

第4期指定期間においても、この方針を堅持し、5館一体となった予算執行により引き続き経費の節減に努めるとともに、自主事業による財源の確保も推進します。



広報・収益事業担当の設置【5館一体】

5館一体となった施設運営や第4期指定管理期間において特に注力すべき、自主財源

中区を中心としたコミュニティFM「横浜マリンFM」では、横浜の歴史を紹介する財団提供番組「横濱歴史のタイムマシーン」を毎週放送（金曜日 20:30～21:00・再放送土曜日 7:00～7:30）

比率の向上に大きく関わる担当を支援組織である財団総務課に設置します。主担当課長を置き、専任職員を配置するほか、事業規模や内容により必要に応じて各施設の担当者とチームを構成します。

担当業務は、これまで施設ごとに行われていた広報や収益事業全般を集約して担当します。担当職員育成のための研修の企画・実施、展覧会や各施設のイベント等の広報戦略の企画・実施、会員制度の推進、施設の休眠資産の有効活用の検討、ミュージアムショップ等の業務・運営、商品開発、その合理化策の検討、立案、実施などを行います。

外部人材や多様なステークホルダーとの協働【5館一体】

次項「II 重点方針> 2 自主財源比率の向上に関する方針と計画」にも記載しているように、指定管理委託料以外の財源確保の取組等を進めていくためには、積極的な外部人材の活用やステークホルダーの協働が不可欠です。

第3期指定管理期間において積極的に進めた、民間企業、大学等の教育機関、スポーツチームや各種専門団体との覚書の締結による事業協働は、歴史に特化した当財団の専門性を活かしつつ、未開拓な分野への対応や新たな利用者の裾野拡大の局面において、効率的かつ高品質な取組を低コストで実現する重要なスキームです。今後も各施設の個性を伸ばしつつ5館一体のメリットを活かすことができるよう、事業にあわせて積極的な協働事業を開いていきます。



歴史博物館や近隣の文化施設を会場とする歴史未来フェスは、地域のイベントとして定着（令和5～7年）



「横浜の歴史と文化」の普及啓発に関して、財団と連携した取り組みを推進してきた株式会社三陽物産と連携強化のため協定を締結（令和5年）



中区に本拠地をおくプロバスケットボールチーム「横浜エクセレンス」と、横浜の歴史およびスポーツ文化の普及に関する協定を締結（令和5年）



横浜中華街 160 年の歴史についてローズホテルを会場にパネル展示（令和5年）

II 重点方針について
2 自主財源比率の向上に関する方針と計画

基本方針

—財団オリジナルのファンドレイジングを新たな段階へ進める—

指定管理者として、第3期指定管理期間には、国庫や民間の補助金・助成金の獲得、クラウドファンディングをはじめ、寄附や有料会員制度の導入、企業協賛の獲得など、外部資金の確保について多様な取組を展開しました。

第4期指定管理期間では、こうした前提を踏まえ、博物館等の文化施設におけるファンドレイジングを次のステップに進めるべく、前期の取組の拡大や充実、この方針に協力が得られるステークホルダーとの協働等、さらなる資金確保によって自主財源の比率を向上させます。

具体的な取組

有料入場者数の増加に向けた戦略【5館一体】

展覧会等の集客が収益に直結する事業については、事前のスケジュール管理とそれに基づく広報やプロモーションが必要です。そのため広報セクションを一元化し再構築することで、調査・研究や企画展担当者と常時連携し、歴史ファンや市民の解像度を高め、興味や関心にこたえる広報・プロモーションを展開します。また、これまでに各施設に来館したことがない、新たな来館者、施設の利用者の獲得に向けた諸施策の重点を置いて取組みます。

【目標 各施設の入場者数総計】 ※現状 468,789 人（令和6年度協約成果）

3年：620,000 人（有料 80,000 人、無料 540,000 人）

5年：640,000 人（有料 82,000 人、無料 558,000 人）

10年：650,000 人（有料 85,000 人、無料 565,000 人）

収益力強化、自主財源比率の向上に向けた体制の強化【5館一体・支援組織・支援施設】

これまで財団施設では、資料収集や調査研究の成果として数多くの展覧会図録・調査報告書等の書籍を刊行・販売してきました。第4期指定管理期間では、利用者の入口となる各館のショップやカフェの個性を活かしつつ、商品在庫の集約やオンラインショップ規格統一等の効率化を進めます。

寄附金・協賛金・補助金の確保に向けた体制強化としては、事務局運営の再委託あるいは他団体との協働を視野に新たな体制を構築します。同様に、収益力の強化に欠かせないミュージアムショップのモノづくりについても、商品化だけでなくその原資となる資金の確保に向けてステークホルダーとの協働など、これまでにない体制を検討し、実現可能な部分から着手します。

【目標：[指定管理委託料：自主財源比率]】

3年：[90：10] 5年：[89：11] 10年：[87：13]



ミュージアムショップでは、専門性を活かしたオリジナル商品による売上の向上を目指します

有料会員や寄附会員制度「レキハク・パートナーズ」【歴博】

令和7年3月よりスタートした有料会員・寄附会員制度について、基本的な運営方針の策定、特典内容や会費金額、手続き方法等の不断見直しを含めた充実を図り、歴博の支える基盤の裾野の拡大を通じてさらなる会員や資金の獲得に結びつけます。

ミュージアムショップやカフェの収益力強化【歴博・開港・都発・ユ文】

開港については、文化観光拠点計画によるミュージアムショップ・カフェのリニューアルが完了し、第3期指定管理期間中より収益力が向上しています。さらに収益を向上させるため、ハマフェス等の近隣イベントへのブース出店、デジタルアーカイブを活かした高価格帯のミュージアムグッズの開発や、開港広場に面した立地を活かし季節に応じた閉館後の夕刻から夜にかけての営業等を検討します。

一方で展覧会への来館者が利用の中心となる歴博・都発・ユ文についても、これまでの運営の課題を分析し、経営的な視点から収益向上に向けた運営体制を再構築します。前提となるミュージアムショップ等の運営業務委託についても、開港も含めて一體的な収益向上を前提とした公募型プロポーザルとする方針です。

歴博では、第3期指定管理期間中、正面玄関脇のコロネードについて行為許可による貸し出しを通じ料金収入を得ることができました。こうした手法を用いて、これまで長期間にわたって活用されていない休憩室厨房設備の資産活用による新たな収益源の育成に努めます。



歴史博物館の会員制度がスタート（令和7年）



リニューアルオープンした開港資料館のミュージアムショップ＆カフェ PORTER'S LODGE（令和5年）

歴史をいかしたモノづくり、魅力的な商品開発と販売力の強化【5館一体】

開港における拠点計画で実践した、歴史を活かしたモノづくりや販売力の強化を、全体に広げます。展覧会の図録だけでなく各館が所蔵する歴史資料の商品化や店頭・オンラインの販売力の強化につながる施策を実施します。

ミュージアムショップの商品開発は公益法人会計の収益事業にあたる場合が多く、開発費の回収が課題・支障となることがあります。魅力的な商品造成に向けて、所蔵資料をモチーフに民間企業の資金やものづくりのノウハウを活用した共同開発を積極的に進めること、販売力の強化に向けてミュージアムショップの委託業務の5年以上の長期契約、オンラインデマンドによる商品生産などに取組みます。これらは、これまでにも開港資料館の拠点計画に関する取組の中で、若年世代の目線を活かすため市内在住の学生・生徒から商品アイデアを募るコンテストを開催し商品化した他、横浜の老舗やメディアとタイアップした商品開発を行うなど、近年、注力する事業でもあり、支援組織に広報・収益事業担当を設けるのはそのためです。

撮影料金規定の公開と誘致の推進【開港・都発・ユ文】

開港（旧英國総領事館や中庭のたまくすの木）、都発・ユ文（旧第一玄関）の管理する魅力的な歴史的建造物について、新たな収益の柱として育成するため、テレビ・CM撮影や雑誌の撮影など、商業撮影に関する料金設定について所管課に提案し、ホームページや観光協会を通じて情報を発信していきます。

寄附金受入施策、関内施設版のサポートー制度等の検討【開港・都発・ユ文】

既出の通り、令和7年3月より歴博では有料会員・寄附会員制度がスタートし、徐々に会員数を増やしている状況ですが、そのノウハウや仕組みをベースに、関内方面の施設においても、寄附を受け付ける仕組みや立地や施設内容に応じた会員制度の導入を検討します。

II 重点方針について

3 市民の学習支援に関する方針と計画

基本方針

～学習機会の多様化を踏まえ、ともに学ぶ豊かな学習の場を創造します～

財団が抱える専門職員の専門分野は、考古学・歴史学・民俗学・美術史学など多岐にわたり、原始・古代から近現代にいたるすべての時代をカバーしています。

社会教育施設、生涯学習機関である財団諸施設にとって、市民への学習支援は事業の大きな柱のひとつです。財団専門職が進める調査研究の成果をもとに、市民の幅広い関心や学習意欲に応えて、丁寧な支援・コーディネートをおこなうことで、新鮮で豊かな学習の場を創造していきます。

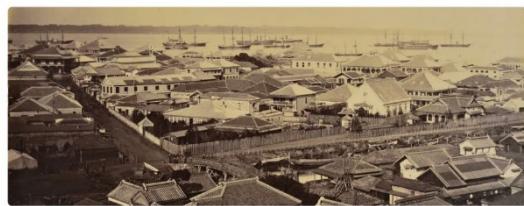
これまで対面を前提とした学習の場の提供が中心でしたが、新型コロナへの対応の経験は、オフライン・オンラインを問わず、よりきめ細やかで多様な学習ニーズに応えるノウハウの蓄積に繋がりました。財団の多様な資料を活かす多彩な専門職員によるや最新の研究成果をより多くの利用者に還元するため、これまでの形にこだわらず、5年や10年の中長期的な見通しをもって幅広い学習メニューの提供を再構築します。

具体的な取組

最新の調査研究の成果をすべての人に【5館一体・支援施設】

各館では、これまで多彩なテーマで講座・講演会などを開催し、専門職員の調査研究の成果を市民に還元してきました。これらの講座・講演会はあわせてオンライン配信（後日）をおこなうことで、当日会場に来られなかつた方にも広く受講していただけるようにしています。また各館の公式YouTubeチャンネルでは、過去に開催した展覧会の見どころ解説や、館蔵資料の知られざる魅力を解説する動画など多様なコンテンツを公開しており、各館ウェブサイトでは、これまで発行した研究紀要のPDF公開も順次進めています。

市民の多様な学習ニーズに応えられるよう、初心者向けの内容から高度な専門性をもつ内容まで、対面事業とオンライン事業の双方を組み合わせながら、誰もが手軽に横浜の歴史を学ぶことができる環境づくりを一層進めます。



幻の写真家 チャールズ・ウイード

知られざる幕末日本の風景

20万回再生と一躍ヒット動画となった開港資料館のYouTubeチャンネルの「幻の写真家チャールズ・ウイード」（令和5年）

地域の文化財を活用したコンテンツ制作【5館一体・支援施設】

歴史博物館や開港資料館では、大塚・歳勝土遺跡（都筑区）や神奈川台場（神奈川区）、横浜外国人墓地（中区）など、地域の史跡や文化財を紹介する動画を制作・公開してきました。また埋蔵文化財センターでも、舞岡熊之堂の戦争遺跡（戸塚区）や小机城跡（港北区）の発掘調査の成果を紹介する解説動画を制作・公開しています。

地域の人びとに、その地域の文化財について広く知っていただき、地域の将来を考える素

材としていただきため、豊富な歴史資料と発掘調査の実績をもつ諸施設が連携して、地域の文化財を活用したコンテンツを制作・公開していきます。

専門性の高いレファレンス情報の共有【5館一体・支援施設】

閲覧室をもつ歴史博物館と開港資料館を中心に、各館では、市民や行政、団体・企業から寄せられる、横浜の歴史や資料に関するさまざまな質問や相談に対して、高度な専門知識をもつ専門職員が対応にあたって、レファレンスや助言をおこなってきました。

これらの質の高いレファレンス情報を、各館ごとに蓄積するのではなく、全館を横断するレファレンス体制を構築することで一元化し、すべての時代や資料に対する質問に対応できるようにします。



開港資料館閲覧室での利用状況

デジタルアーカイブを活用した資料公開【5館一体・支援施設】

開港資料館では、文化観光拠点計画の一環として、令和6年1月から「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」の公開を開始しました。これまでに約20万点の館蔵資料の情報を公開しており、そして浮世絵や古写真・古地図など約8,800点の画像データが利用できるようになっています。

今後10年間では、歴史博物館をはじめ他館でもデジタルアーカイブの構築を進め、各館が所蔵する50万点を超える多彩な資料を、横断的に検索できるようにします。各館のデジタルアーカイブを連動させることで、各館への問い合わせで大きな割合を占めている資料の収蔵情報について、すべての時代や資料種別に対応できるようにします。



20万点を超える館蔵歴史資料を公開している開港資料館デジタルアーカイブ（令和6年）



開港資料館デジタルアーカイブやデジタル画像の利用を促進させるためのPR動画（令和6年）

・歴史に興味のない方も楽しめる企画の展開【5館一体】

歴史博物館では近年、考古学の発掘調査や民俗学の民間信仰をテーマにしたミュージカルや朗読劇を市民団体と協力して実施しています。稽古や発表の場を通じて、また、考古遺物をモチーフにしたお菓子作り講座など、従来の歴史ファン向けの座学の講座イメージにとらわれない、多様な学習メニューの提供に取り組んでいます。こうした歴史をテーマにした裾野の拡大につながる取組を強化します。

II 重点方針について

4 学校教育との連携に関する方針と計画

基本方針

～小学校から大学まで、年代別に多彩な博学連携を推進～

財団では学校連携事業として、エデュケーター（学校連携担当）と専門職員が連携しながら、各施設が所蔵する歴史資料・文化財を、教育資源として活用するさまざまな博学連携のプログラムを実践してきた実績があります。

令和2年策定の「横浜市におけるGIGAスクール構想」にもとづいた端末の普及やクラウドサービスの活用など、ICTの活用により学校現場での教育環境が大きく変わりつつあります。この現状をふまえて、それぞれの年代の児童・生徒に対応した教育メニューを一層充実させ、あわせて授業に携わる教員の学習・研究への支援をおこないます。また各施設で培ってきた市民協働事業を学校教育の現場と結びつけることで、学校連携の裾野を広げていきます。

具体的な取組

小学校向け教育プログラムの充実【5館一体】

財団では、小学校各学年の課程にあわせて、大塚・歳勝土遺跡と弥生時代（小6）／吉田新田（小4）／昔のくらし（小3）／スホの白い馬（小2）などの教育プログラムを実施してきた実績があります。エデュケーターによる訪問授業、教育委員会と連携した埋蔵文化財訪問授業、「吉田新田の開発」の現地解説、開港記念日の講話などのほか、平成25年度から歴史博物館が中核となって実施した博物館デビュー支援事業では、市内の小学校が所蔵する資料調査をもとに「学校内歴史資料室」を整備してきました。これら学校資料室への訪問授業も軌道に乗り、あらたな展開を模索しているところです。

コロナ禍を経て、オンラインコンテンツも充実させました。歴史博物館では、「昔のくらしと道具」をテーマにした教材動画を作成・公開して、小学校の教員を中心に高評価をいただいています。また常設展示を解説した「横浜市歴史博物館公式解説アプリ」を制作して、団体見学時に生徒たちが展示室内でタブレットを操作することで、より詳しい解説が音声つきで学べるよう、新たな試みを始めました。

今後は、他館でも館蔵資料を活用したオンラインコンテンツの作成に取り組み、施設見学との相輪で博物館の学校利用を高めていきます。



専門職員による小学4年生にむけた訪問授業（令和6年）

中学校、高校の歴史学習への支援【5館一体】

中学校を対象とした学校連携は、歴史博物館を中心に、職場体験の受け入れや社会科研究発表会の開催などに対応してきました。歴史博物館のウェブサイトでは、各施設が所蔵する

資料を活用して、原始から近代までの各時代に対応した中学校の「社会科学習指導案」を作成・公開していますが、これに加えて、博物館見学を取り入れたグループでの校外学習や、エデュケーターによる中学校への訪問授業も提案していきます。

また神奈川県高等学校文化連盟（高文連）とは、毎年秋の社会科研究大会を共催し、財団から審査員を派遣するなどの連携をおこなってきましたが、こうした未来の歴史研究者となる可能性を秘めた中学生・高校生たちに対して、彼らの歴史への関心からより学びを深められるよう、学校の教員を通じての学習支援をおこなっていきます。

学校教育との協働の裾野の拡大【5館一体】

これまで各施設ではさまざまな市民協働事業を実施してきましたが、地域の郷土史団体との活動のなかで、高齢化による後継者不足の課題が明らかになっています。地域の歴史に詳しい市民団体と、その地域の歴史を学ぶ意欲に溢れる若い世代（中学生・高校生）とをつなぐ役割を博物館施設が果たすことで、学校連携の裾野を広げていきます。



専門職員による中学生に向けた講演会（令和7年）

大学や専門教育機関との連携【5館一体】

各施設では、毎年大学からの学芸員実習やインターンシップ、学外演習などの受け入れをおこなっていますが、そのほか双方の専門性を活かした事業連携として、文化財資料の教育活用（東海大学と歴史博物館）、文化財建造物の公開事業（横浜国立大学と歴史博物館、協定締結）、輸出スカーフ展の開催（関東学院大学と歴史博物館、協定締結）、サウジアラビア展でのワークショップ開催（秋田大学とユーラシア文化館）、連携パネル展示の開催（神奈川大学と都市発展記念館）など、さまざまな取り組みをおこなってきました。

今後も学術的な側面から大学や専門学校とのネットワークを広げていき、地域の歴史・文化に根ざした事業連携を推進していきます。



秋田大学の学生によるサウジアラビアの衣装体験ワークショップ（横浜ユーラシア文化館）

教員の学習・研究に対する支援【5館一体・支援施設】

教員を対象とした研修や教材研究への支援は、歴史博物館と都市発展記念館を中心に実施してきた実績があります。エデュケーターを歴史博物館（北部）と都市発展記念館（都心部）に配置し、「吉田新田の開発」研修会や、各区の小学校社会科研究会の研修会、ハマ・アップ（横浜市授業改善支援センター）の研修会など、教員向けの各種研修を実施してきました。

こうした実績をもとに、教育現場の実情にあわせて体系的に「横浜の通史」が研修できるよう、エデュケーターと専門職員が連携して支援体制を組み、より充実した教員の学習・研究支援をおこないます。

II 重点方針について
5 市民協働の推進に関する方針と計画

基本方針

～多様な担い手とともに地域の文化創造へ～

令和4年の博物館法の改正により、博物館施設は「地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動」に取り組むことで、より一層地域の活力の向上に寄与することが期待されています。

これまで各施設では、歴史博物館を中心に、市民や地域に「開かれた博物館」を目指して、市民団体や博物館ボランティアとともにさまざまな調査研究や普及事業などの博物館活動を展開し、市民協働に一定の成果を挙げてきました。また開港資料館や都市発展記念館・ユーラシア文化館でも、令和3年度から実施している「開港資料館における文化観光拠点計画」の取り組みのなかで、地域の諸団体・企業との連携を一層強めています。

地域の歴史資料を豊富に所蔵する各施設が拠点となり、市民団体や地域企業など多様な担い手と一緒にになって事業を展開することで、地域のあらたな賑わいと文化の創造に貢献します。

具体的な取組

市民に開かれた博物館活動【5館一体】

歴史博物館では、古文書を読む会や横浜縄文土器作りの会、横浜さいかちの会、横浜歴博もりあげ隊など、多くの市民団体とともに博物館の調査研究事業や普及事業に取り組んできました。また歴史博物館や三殿台考古館では、遺跡ガイドボランティアや展示解説ボランティア、資料整理ボランティアなどの市民ボランティアが活発に活動しており、イベントやワークショップなどの普及事業を支える活動支援ボランティアは、活動の拠点となる歴史博物館だけでなく、都市発展記念館・ユーラシア文化館でも活躍しています。

各施設の活動を支える市民ボランティアは欠かせないものとなっており、開港資料館を含めて、今後も活動の場を広げていきます。



活動支援ボランティアによるセンター北まつりへの対応（令和7年）



展示解説ボランティアによる常設展示室ワンポイント解説（歴史博物館・令和7年）

市民団体との事業連携【5館一体】

開港資料館と歴史博物館が事務局を担当している「横浜郷土史団体連絡協議会」(郷土史協)は、市内で活動する郷土史団体相互の交流促進と、財団諸施設と各団体との協働事業の推進を目的として平成18年度に設立された組織で、特別講演会や研修会、史跡めぐりなどの自主企画を継続して実施してきました。郷土史協は今年で設立20周年を迎ますが、20年のあいだに加盟各団体の高齢化が進んで、活動の活性化が課題になっています。設立20周年を記念して開催を検討しているシンポジウムでは、20年間の活動を総括し、こうした各団体が抱える課題解決のための議論の場を提供します。

またNPO法人横浜シティガイド協会との協働事業も、長年の実績があります。各館が開催する企画展にあわせて、展示担当による解説講座ののち展示テーマに関連してシティガイド協会が独自に設定したコースをめぐるガイドを実施しており、ガイド協会による集客力と魅力的なガイドによる相乗効果で、つねに参加者からは好評をいただいています。

こうした協働事業の蓄積を基盤として、今後も市民団体とのパートナーシップを強化していきます。

地域諸団体との事業連携【5館一体】

各施設では、地域の諸団体・企業との事業連携にも精力的に取り組んでいます。

歴史博物館では、大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野と連携して、北部4区(旧港北区4区:港北区、緑区、青葉区、都筑区)に所在する文化遺産に関するイベントや情報発信をおこなう「よこはま縁むすび講中」を実施してきました。地域文化遺産と市民とをつなぐ取り組みが評価され、令和7年に地域再生大賞優秀賞を受賞しています。

また令和5年度からは、都筑区で活動している諸団体とともに、歴史博物館や遺跡公園、都筑民家園などを会場として「歴史未来フェス」を企画・開催しており、マルシェやキッチンカー、音楽イベント、アートパフォーマンスなどの多彩なイベントによる賑わいが定着してきています。

関内地区では、開港資料館・都市発展記念館・ユーラシア文化館の3館が、地域の事業者で組織される日本大通りエリアマネジメント協議会、山下公園通り会に加盟しており、これらの活動を通じて、地域の一大イベントであるハマフェス(5月)や日本大通りイルミネーション(12月)などに参加しています。

街なかに繰りだした博物館イベントとして、ユーラシア文化館では、中華街にあるローズホテル内に、横浜中華街160年の歩みを紹介する観光スポット「ホテルdeミ



地域再生大賞を受賞した「よこはま縁むすび講中」
(令和7年)



オリジナルスタチュー「ペリー提督像」はクラウドファンディングによる支援で制作

ュージアム 横浜中華街 歴史回廊」を展開したほか、コロナ禍の令和 2 年からは、歴史的空间である日本大通りを舞台として「横浜ユーラシア・スタチューミュージアム」を開催しており、界隈の秋の風物詩として定着してきました。

今後もこうした地域の諸団体との連携を強化しながら、地域の賑わいとあらたな文化の創造を担っていきます。



クラウドファンディングによる支援の拡大は広報にもつながっています

III 施設運営に関する取組について

1 組織運営・職員配置の方針と計画

基本方針**安定的かつ効率を追求した運営体制の再構築と課題の強化**

5館一体の円滑な事業運営に向け、迅速な意思決定・意思伝達を図るとともに財団外部の地域やステークホルダーとの連携や協働も図り、幅広い情報や意見を得ながら事業の推進、内容の充実を図ります。また、今後の事業の核となる担当を設置し、人材育成や広報・収益事業等の集約化を進め広報 PR の強化、集客収益の増加、業務の合理化を一体的に行います。加えて財団の財産でもある人材については、退職者の積極的な補充をはじめ、新採用者の研修、係長以上の管理職研修等を確実に実施し、専門分野だけでなく財団全体が見渡せる視野の広い職員を育成していきます。

横断的な組織体制の検討・移行

平成 23 年の公益財団法人化以後、これまで総務課ほか各施設を母体とする 5 課体制をもって各施設を運営していましたが、5館一体をより強固にし、専門知識の一層の共有、体制意思決定の迅速化、事務の効率化を総合的に図り、5館連携から5館一体を実現しつつ、持続的な組織運営を実現するため、組織の再編を検討し、施設運営に支障をきたさないよう準備が整った段階から順次移行し再構築を果たします。

広報・収益事業担当の設置【5館一体】(再掲)

5館一体となった施設運営や第 4 期指定管理期間において特に注力すべき、自主財源比率の向上に大きく関わる担当を支援組織である財団総務課に設置します。主担当課長を置き、専任職員を配置するほか、事業規模や内容により必要に応じて各施設の担当者とチームを構成します。

担当業務は、これまで施設ごとに行われていた広報や収益事業全般を集約して担当します。担当職員育成のための研修の企画・実施、展覧会や各施設のイベント等の広報戦略の企画・実施、会員制度の推進、施設の休眠資産の有効活用の検討、ミュージアムショップ等の業務・運営、商品開発、その合理化策の検討、立案、実施などを行います。

公益法人法を順守した組織体制

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」の規定に従い、理事選任・定款変更等の重要事項の決議、決算承認などを行う評議員会を設置し、理事会は業務執行機関として事業を運営します。日常業務は、副理事、業務執行理事のもと各施設の実務責任者である副館長が行い、最終的には代表理事（理事長）がその責任を負います。

迅速な意思決定、執行体制

理事長、副理事長、事務局長（以下「業務執行責任者」という。）と館長（専門系非常勤職）、副館長（課長級）からなる役員会議を設置し、各施設の運営状況、事業企画、評価などを経営的視点から協議、調整を行います。業務執行責任者は、各職員の日頃の業務への取

組や各人の能力を活かし、また構成人員の状況をみて組織の機能が十分発揮できるよう人事配置・業務調整を行い、検討や指示命令の場として副館長（課長級）が中心となって構成される課長会議を設置します。

学芸等専門人材と管理、運営人材との適切な関係等マネジメント強化

5館一体の強みを最大化し、魅力ある事業を推進するため、専門職員・事務職員に広報・収益担当を加え、財団全体を意識しながら常にチーム運営を基本に業務・事業を進めていく体制とします。

また、対外的な関係では、市民団体、民間企業、大学や高校等の教育機関など、これまで第3期指定管理期間においては多様な組織や団体との連携を進めてきました。こうした取組は外部人材・能力の活用を行なながら文化施設の事業推進、その成果の地域社会への還元に資するものです。今後も積極的に双方にとってメリットのある形で多様なステークホルダーとの関係強化を図ってまいります。

通常時の勤務シフト及び週間ローテーション表（1か月分）の考え方

各施設で共通して使用するローテーション表は以下の通りです。日曜起算で週休2日となるようになっています。これに祝日休暇を適宜割り振り、各施設の職員数や果たすべき機能に応じてカスタマイズしています。

1～2週目	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
A班	○	休	○	○	○	○	休	休	休	○	○	○	○	○
B班	休	休	○	○	○	○	○	○	休	○	○	○	○	休
3～4週目	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
A班	休	休	○	○	○	○	○	○	休	○	○	○	○	休
B班	○	休	○	○	○	○	休	休	休	○	○	○	○	○

・歴博、都発、ユ文の職員配置

職員は2班体制のローテーションを組み、週休2日の勤務の上、緊急時の対応にも支障のない体制を組みます。近隣地域との協働事業など、全館を挙げて実施するイベント開催日については、全員出勤の体制とし、休暇を振り替て取得するように調整します。A班B班いずれにも係長以上の責任職を1名以上配置し、責任体制を担保します。

臨時開館や開館時間延長等を実施する場合は、早出と遅出のシフトの組成またはフレックス勤務制度を活用し開館業務に支障がなく、かつ、超勤時間が発生しないように運営していきます。

・開港の職員配置

職員は原則、歴博、都発、ユ文と同様の2班体制のローテーションを組み、週休2日の勤務の上、緊急時の対応にも支障のない体制を組みます。近隣地域との協働事業など、全館を挙げて実施するイベント開催日については、全員出勤の体制とし、休暇を振り替て取得するように調整します。A班B班いずれにも係長以上の責任職を1名以上配置し、責任体制を担保します。また閲覧室の運営にあたる専門職を各日1名以上配置し、レファレンス対応体制を担保します。

臨時開館や開館時間延長等を実施する場合は、早出と遅出のシフトの組成またはフレッ

クス勤務制度を活用し開館業務に支障がなく、かつ、超勤時間が発生しないように運営していきます。

- ・三殿の職員配置

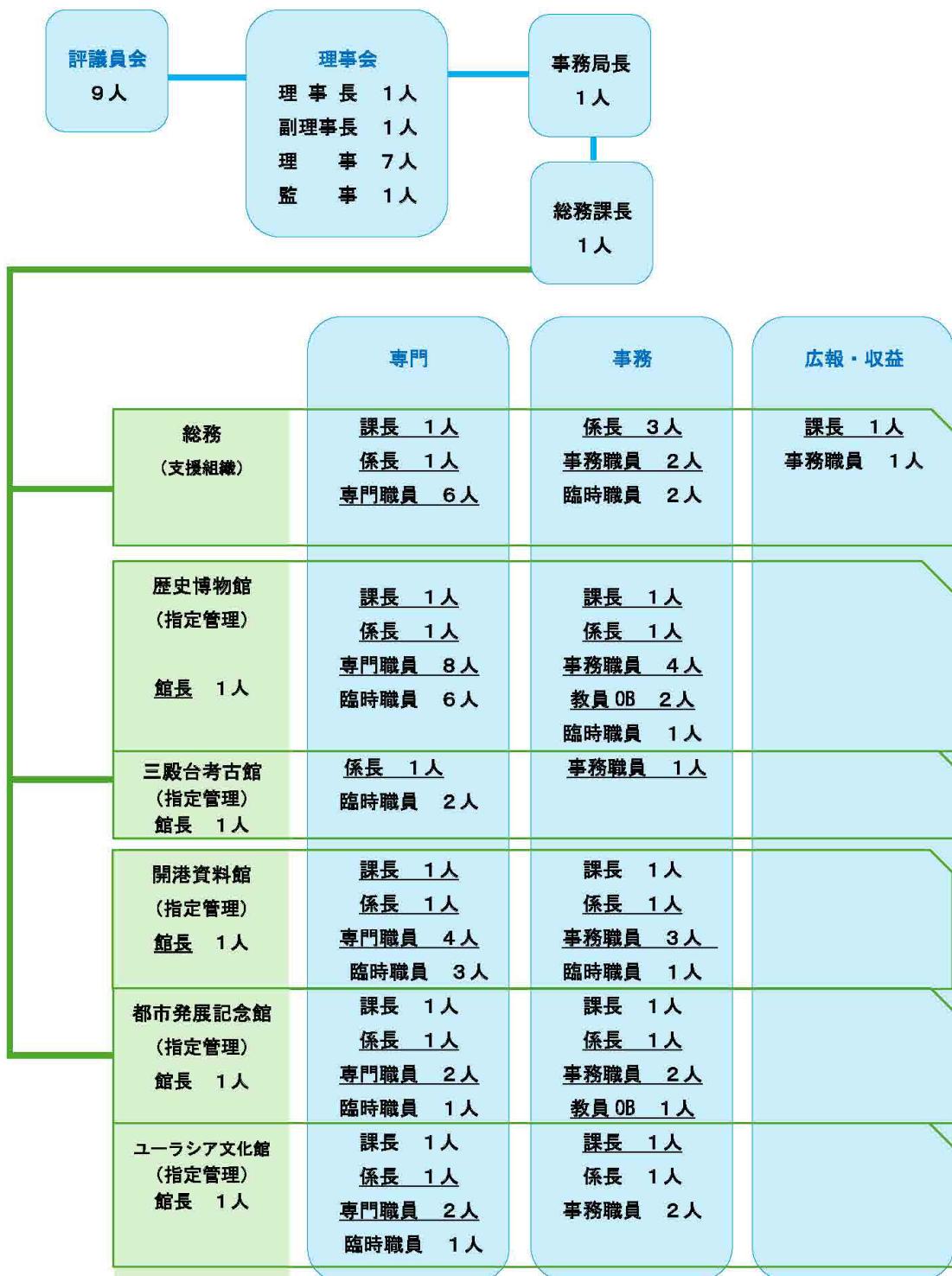
正規職員 3 名とアルバイト職員 2 名の体制をとっています。正規職員には係長職の専門職員を館長として専任で、また事務職員も配置しています。専任職員の勤務は週休 2 日を確保しています。

- ・その他

夏季休暇やその他の事情、あるいは地域のイベントへの総出の対応など、万一、各施設で係長以上の責任職が 1 名以上配置できない場合は、支援組織である総務から応援職員を派遣し、施設運営の安定を図ります。三殿については埋文を管轄する考古資料課の職員のローテーションを組み、業務に支障のない支援体制をとっています。

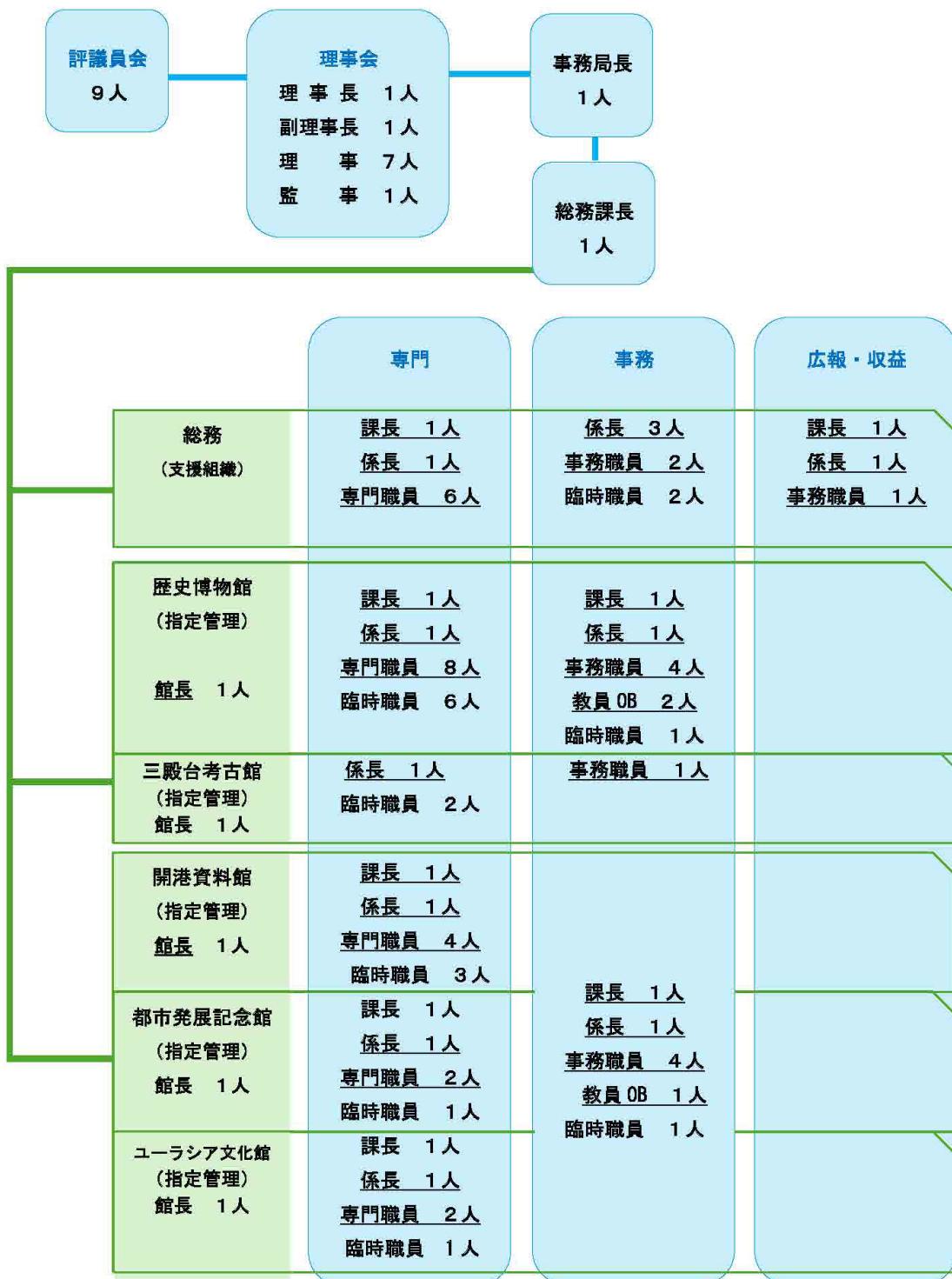
組織図(R8~R9)

※下線は正職員の兼務人員の主務



組織図(R10~R17)

※下線は正職員の兼務人員の主務



III 施設運営に関する取組について

2 必要人材の配置と職能

基本方針

—歴史を継承しつつ、さらに強固な組織を目指して—

当財団は発足以来 30 年以上の長きにわたり、横浜の歴史に関する研究を継続し博物館等の文化施設を運営する専門集団として活動してきました。今後も、横浜市内唯一無二の団体として、その歴史や蓄積を着実に継承し、社会や時代のニーズに応える事業を遂行するため、必要となる人材を確保し組織体を維持していきます。

さらに、近い将来の予測が困難な時代に差し掛かる中、安定的な組織運営を可能にするため、必要とする人材の確保や獲得した人材の育成を一層強化していきます。

具体的な取組

必要な人材の職能とその確保

当財団の常勤職員は次の職能を有することが必要です。中途採用の職員についても、必要な職能が着実に備わるよう人材育成・開発を行っていきます。(支援組織に関する職能も含みます)

- ① 横浜の歴史・文化に関する知見
- ② 埋蔵文化財の発掘調査、出品の整理や情報発信に関する知見
- ③ 歴史資料・美術作品・文化財の取扱技能(収集・整理・保管・展示等) や知見
- ④ 管理施設と関わる学校教育、社会教育に関する知見
- ⑤ 人事・人材育成等の組織マネジメント
- ⑥ 広報 PR・プロモーション、マーケティング、ファンドレイジング
- ⑦ 庶務・労務(労働基準法および関連法)
- ⑧ 公益財団法人経営・経理(公益財団法人会計)
- ⑨ 収益事業(ミュージアムショップ・カフェ等の飲食・物販)

財団全体で効率的な運営ができるよう、外部人材の活用や、業務委託による確保も検討していきます。

施設運営に必要な人員の確保・配置の基本的な考え方

各施設には運営に理想的な人員数を想定しています。定年退職者や再雇用満了等の予見可能な人材の減少に備え、施設運営に必要な人員数や施設の特性に応じて必要となる職能を満たす人材の確保に向け常に状況の監視と対応を継続しています。

しかし、指定管理施設・支援組織も含めて財団の専門職員は、必要とされる専門の時代や分野が常に流動的で、人材市場から恒常に供給・確保できるわけではありません。また、事務職員についても、必要とされる職能について民間企業での豊富な勤務経験を有する人材が常に獲得できるとは限りません。

こうした状況かつ人口減少時代を迎える現代に対応するため、専門職員については文化施設間や出身大学等のネットワークを活かした人材の紹介、事務職員については人材派遣会社等からの紹介予定派遣などを活用し、優秀な人材の安定的な確保に努めます。

様式 2

専門人材一覧

職員No.	雇用形態	専門分野	担当職務
1	正職員	日本考古学	埋蔵文化財センター・三段台考古館事業の統括、発掘調査事業・普及啓発事業等の全体調整、埋蔵文化財の調査・研究・保存及び収集、設備・施設維持管理
2	正職員	日本考古学	埋蔵文化財の調査・研究・保存及び収集、港北ニュータウンの整理及び調査報告書の刊行、埋蔵文化財に関する図書文献の収集・整理・保管及び閲覧、普及啓発事業
3	正職員	日本考古学	施設（都市発展記念館・ユーラシア文化館）の維持管理、企画普及事業の実施、ショップ、ボランティア等事業の実施
4	再雇用職員	民俗学	管理運営事業の統括および参画、関連団体連絡調整・地域連携事業の調整および実施
5	正職員	日本考古学	収蔵庫維持管理・保存環境・焼蒸、企画普及事業の立案・実施、資料の収集保管、調査研究及び企画展の実施
6	正職員	日本古代史	ユーラシアにおける古代・中世日本の研究、地域連携活動の実施、企画普及事業の立案・実施、広報誌の編集発行、大学連携事業の実施
7	正職員	日本中世史	常設・企画展示室維持管理、社会研修事業、中世資料の収集保管、調査研究（中世）及び企画展（中世）の実施、普及事業、ボランティア、学校連携、画像利用、郷土史協当事業の実施
8	正職員	日本近世史	学芸系事業の統括および参画、企画展全体計画立案、近世資料の収集保管、調査研究（近世）及び企画展（近世）の実施広報、ショップ、ボランティア、情報、レキハクパートナーズ等事業の実施
9	正職員	民俗学	資料整理計画立案、体験学習室企画運営、博物館レビュー支援事業、民俗資料の収集保管、調査研究（民俗）及び企画展（民俗）の実施
10	正職員	日本考古学	普及事業企画運営、野外施設・工房維持管理事業、考古資料の収集保管、調査研究（考古）及び企画展（考古）の実施、保存環境・焼蒸、展示室維持管理、学校連携等事業の実施
11	正職員	日本近世史	近世資料の収集保管・整理・調査研究、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施、収蔵庫管理
12	正職員	司書	図書資料収集保存、図書閲覧室維持等事業管理、ボランティアの主担当、HP、情報等事業実施
13	再雇用職員	日本近代史	新聞・雑誌の収集保管・整理・調査研究、閲覧室の管理運営、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施
14	再雇用職員	東洋史	学芸系事業（ユーラシア文化館）の統括、東アジア開港都市、華僑・華人の歴史関係資料の収集保管・整理、調査研究、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施
15	正職員	日本近現代史	近現代資料の収集保管・整理・調査研究、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施、収蔵庫管理
16	正職員	日本建築史	課事業（開港資料館・都市発展記念館）の統括
17	正職員	日本近現代史	学芸系事業（開港資料館・都市発展記念館）の統括、近現代資料の収集保管・整理・調査研究、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施
18	再雇用職員	日本近現代史	行政文書・行政資料、近現代資料に関する資料の収集保管・整理・調査研究、普及啓発事業の企画及び実施
19	正職員	西アジア工芸史	西アジア工芸史に関する調査研究、収蔵文献の整理、分類、公開、企画普及事業の立案・実施、ミュージアムショップの商品開発、広報誌の編集発行
20	正職員	日本美術史（絵画）	保存環境・焼蒸、情報システム事業、写真撮影調整、美術資料の収集保管、調査研究（美術）及び企画展（美術）の実施、普及事業、出版、神奈川県博物館協会等事業の実施
21	正職員	民俗学	資料収集保管、学校連携、スカーフ閲覧事業、民俗資料の収集保管、調査研究（民俗）及び企画展（民俗）の実施、画像利用、社会研修等事業の実施
22	正職員	日本美術史（彫刻）	集客イベント、HP事業管理の主担当、美術資料の収集保管、調査研究（美術）及び企画展（美術）の実施、広報、レキハクパートナーズ、資料収集、企画展示室維持管理、画像利用等事業の実施
23	正職員	日本近世史	画像利用、ボランティア事業、近世資料の収集保管、調査研究（近世）及び企画展（近世）の実施、広報、普及事業、集客イベント、社会研修、出版等事業の実施
24	正職員	日本近世史	近世資料の収集保管・整理・調査研究、デジタルアーカイブの管理運営、閲覧室の管理運営、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施
25	正職員	欧米近代史	欧米関係資料の収集保管・整理・調査研究、閲覧室の管理運営、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施
26	正職員	日本近現代史	近現代資料の収集保管・整理・調査研究、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施、ホームページ管理
27	正職員	日本考古学・東南アジア考古学	発掘調査事業の全体調整、埋蔵文化財の調査・研究・保存及び収集、港北ニュータウンの整理及び調査報告書の刊行、普及啓発事業
28	正職員	日本考古学	埋蔵文化財の調査・研究・保存及び収集、港北ニュータウンの整理及び調査報告書の刊行、埋蔵文化財センター収蔵資料保管・管理、普及啓発事業
29	正職員	日本考古学	発掘調査事業の調整、埋蔵文化財の調査・研究・保存及び収集、港北ニュータウンの整理及び調査報告書の刊行、普及啓発事業
30	有期雇用	日本考古学	埋蔵文化財の調査・研究・保存及び収集、港北ニュータウンの整理及び調査報告書の刊行、埋蔵文化財センター収蔵資料保存事業、デジタル化事業、普及啓発事業
31	有期雇用	日本考古学	埋蔵文化財の調査・研究・保存及び収集、港北ニュータウンの整理及び調査報告書の刊行
32	有期雇用	日本考古学	埋蔵文化財の調査・研究・保存及び収集、港北ニュータウンの整理及び調査報告書の刊行
33	有期雇用	日本考古学	考古資料の収集保管・整理・調査研究、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施
34	有期雇用	日本近現代史	近現代資料の収集保管・整理・調査研究、普及啓発事業の企画及び実施、企画展の実施

構成職員の担当業務と雇用形態

部署	構成職員	人数	担当業務	雇用形態
	副理事長	1	財団統括	市OB
	事務局長	1	全体統括	市OB
総務(支援組織)	総務課長	1	業務統括	市職員
	課長	1	業務統括(学術系)	正職員
	課長	1	業務統括(広報・収益)	正職員
	係長	2	学術系	正職員
	係長	3	事務系	正職員
	学術系職員	7		正職員
	事務系職員	2		市OB
	事務系職員	1	広報・収益	正職員
歴史博物館	館長	1	施設全体統括	正職員
	課長	1	業務統括(学術系)・副館長	正職員
	課長	1	業務統括(事務系)	市OB
	係長	1	学術系	正職員
	係長	1	事務系	正職員
	学術系職員	8		正職員
	事務系職員	4		正職員
	エデュケーター	2		市OB
三殿台考古館	係長	1	学術系・三殿台考古館館長	正職員
	事務系職員	1	事務	正職員
開港資料館	館長	1	施設全体統括	正職員
	課長	1	業務統括(学術系)・副館長	正職員
	(課長)	(1)	(業務統括(事務系)・兼務)	正職員
	係長	1	学術系	正職員
	係長	1	事務系	正職員
	学術系職員	5		正職員
	事務系職員	3		正職員
都市発展記念館	(館長)	(1)	(施設全体統括・兼務)	正職員
	(課長)	(1)	(業務統括(学術系)・副館長・兼務)	正職員
	(課長)	(1)	(業務統括(事務系)・兼務)	正職員
	係長	1	学術系	正職員
	係長	1	事務系	正職員
	学術系職員	2		正職員
	事務系職員	2		正職員
ユーラシア文化館	エデュケーター	1		市OB
	(館長)	(1)	(施設全体統括・兼務)	正職員
	(課長)	(1)	(業務統括(学術系)・副館長・兼務)	正職員
	課長	1	業務統括(事務系)	市OB
	係長	1	学術系	正職員
	(係長)	(1)	(事務系・兼務)	正職員
	学術系職員	2		正職員
(事務系職員)	(事務系職員)	(2)	(兼務)	正職員

管理職一覧

職員	職能	担当業務	専門分野	年齢	経歴	保有する資格
					現職の経験年数	
1	事務局長	事務局長	事務 (横浜市O B職員)	62	令和5年4月採用	博士 (工学) 学芸員
					令和7年4月から現職	
2	部長	担当部長兼近 現代歴史資料 課長	学術 (日本建築史)	53	平成13年9月採用	博士 (工学) 学芸員
					令和6年4月から現職	
3	課長	総務課長兼前 近代歴史資料 課長	事務 (横浜市職員)	53	令和7年4月派遣	博士 (史学) 学芸員
					令和7年4月から現職	
4	課長	考古資料課長	学術 (日本考古学)	52	平成20年9月採用	博士 (史学) 学芸員
					令和4年4月から現職	
5	課長	ユーラシア文 化資料課長	事務 (横浜市O B職員)	64	令和4年4月採用	修士 (歴史民俗資料 学) 学芸員
					令和4年4月から現職	
6	課長	拠点計画推進 課長	学術 (民俗学)	47	平成23年8月採用	修士 (歴史民俗資料 学) 学芸員
					令和6年4月から現職	

様式 2

平成28年度から令和7年度指定管理運営期間における構成職員の担当業務と雇用形態 年度別一覧

部署	担当業務	構成職員	雇用形態	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	事務局長	市職員	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	市OB	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
総務課	業務統括	課長	市OB	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	業務統括	課長	市職員	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1
	業務統括	担当課長	正職員	1	1	1	1	0	0	0	0	0	(1)
	事務	係長	正職員	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2
	事務	係長(学術系)	正職員	0	(1)	(1)	(1)	1	1	(1)	(1)	(1)	0
	事務	学術系職員	正職員	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	事務	事務系職員	正職員	1	1	2	2	1	2	2	3	1	1
	事務	事務系職員	有期雇用	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	東アジア美術・工芸史	学術系職員	再雇用	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
	学校連携	エデュケーター	有期雇用	0	0	1	1	2	2	2	2	2	2
	学校連携	エデュケーター	市OB	2	2	1	1	0	0	1	1	1	1
八聖殿郷土資料館	館長・事務	係長	正職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	事務	事務系職員	正職員	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
埋蔵文化財センター (考古資料課)	業務統括	課長	正職員	1	1	1	1	1	(1)	1	1	1	1
	考古学	係長	正職員	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	事務	係長	正職員	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	考古学	学術系職員	正職員	2	3	4	4	4	3	4	4	5	4
	考古学	学術系職員	有期雇用	1	0	0	0	1	1	1	2	1	1
	事務	事務系職員	正職員	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
三殿台考古館 (考古資料課)	三殿台考古館館長	係長	再雇用	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	三殿台考古館館長	係長	正職員	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	三殿台考古館館長	係長	市OB	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	事務	事務系職員	正職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	事務	事務系職員	正職員	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
歴史博物館 (前近代歴史資料課)	業務統括	担当部長	正職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	業務統括	担当部長	市OB	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	業務統括	課長	正職員	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0
	業務統括	課長	再雇用	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	業務統括	課長	市職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
	業務統括	担当課長	正職員	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	業務統括	担当課長	市OB	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	民俗学	係長	正職員	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	近世史	係長	正職員	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	事務	係長	正職員	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	事務	係長	再雇用	0	0	0	(1)	1	1	1	1	1	1
	考古学	係長	正職員	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	考古学	学術系職員	正職員	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	古代史	学術系職員	正職員	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	中世史	学術系職員	正職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	近世史	学術系職員	正職員	2	2	1	1	1	1	0	0	0	1
	近世史	学術系職員	有期雇用	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	民俗学	学術系職員	正職員	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	民俗学	学術系職員	有期雇用	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
	美術史	学術系職員	正職員	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2
	美術史	学術系職員	有期雇用	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0
	近代史	学術系職員	再雇用	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0
	司書	学術系職員	正職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	写真	学術系職員	正職員	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	写真	学術系職員	再雇用	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0
	事務	事務系職員	正職員	4	5	5	5	5	3	3	3	3	4
	事務	事務系職員	有期雇用	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都市発展記念館 (近現代歴史資料課)	業務統括	課長	市OB	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	近代史	係長	正職員	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	事務	係長	正職員	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0
	事務	係長	再雇用	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	近代史	学術系職員	正職員	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2
	近代史	学術系職員	有期雇用	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	事務	事務系職員	正職員	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
	事務	学術系職員	正職員	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
	事務	事務系職員	再雇用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	事務	事務系職員	有期雇用	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0
	事務	事務系職員	市OB	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
ユーラシア文化館 (ユーラシア文化資料課)	業務統括	課長	正職員	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	業務統括	課長	市OB	0	0	(1)	(1)	(1)	(1)	1	1	1	1
	東アジア美術・工芸史	係長	正職員	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

様式 2

平成28年度から令和7年度指定管理運営期間における構成職員の担当業務と雇用形態 年度別一覧

部署	担当業務	構成職員	雇用形態	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
				平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	
近代史	係長	正職員	正職員	0	0	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0
近代史	係長	再雇用	再雇用	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
考古学	係長	正職員	正職員	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務(都市発展記念館兼務)(係長)	正職員	(1)	(1)	0	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	0	0	0	0	0	0
事務(都市発展記念館兼務)(係長)	再雇用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
東アジア美術・工芸史	学術系職員	再雇用	再雇用	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西アジア文明史	学術系職員	正職員	正職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
古代史	学術系職員	正職員	正職員	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
事務(都市発展記念館兼務)(事務系職員)	正職員	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
事務(都市発展記念館兼務)(学術系職員)	正職員	0	0	0	0	0	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
事務(都市発展記念館兼務)(事務系職員)	再雇用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
事務(都市発展記念館兼務)(事務系職員)	有期雇用	(1)	(1)	(1)	(1)	0	0	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	0	0	0
事務(都市発展記念館兼務)(事務系職員)	市OB	0	0	0	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
開港資料館 (近現代歴史資料課)	業務統括	担当部長	正職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	業務統括	課長	再雇用	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	業務統括	課長	正職員	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	業務統括	担当課長	正職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	近代史	係長	正職員	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
	近世史	係長	正職員	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事務	係長	正職員	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
	事務	係長	再雇用	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	近代史	学術系職員	正職員	3	3	2	2	2	2	3	2	3	3	3	3	3
	近代史	学術系職員	再雇用	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	近代史	学術系職員	有期雇用	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	歴史情報	学術系職員	正職員	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	歴史情報	学術系職員	再雇用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	事務	事務系職員	正職員	3	3	2	3	3	4	3	2	1	1	1	1	1
	事務	事務系職員	再雇用	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	業務統括	課長	正職員	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1
	事務	事務系職員	正職員	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1
	事務	事務系職員	有期雇用	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1	1	0	0
横浜市史資料室 (近現代歴史資料課)	近現代史	係長	正職員	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	近現代史	学術系職員	正職員	2	2	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	0
	近現代史	学術系職員	再雇用	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	近現代史	学術系職員	有期雇用	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0
	歴史情報	学術系職員	再雇用	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0
	事務	事務系職員	正職員	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	事務	事務系職員	再雇用	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0

※()内数字は兼務を表す

III 施設運営に関する取組について
3 職員の人材育成・専門性向上の方針と取組

基本方針

—人材は財団にとって一番の財産—

当財団の正規職員は近年 50～60 人程度で推移しています。専門職員は横浜の歴史や文化のスペシャリストであることは言うには及ばず、事務職員も、公益財団法人という特殊な形態や会計ルールの上で、日々施設や法人の運営に当たっています。各施設で管理する文化財が横浜市民にとって共通の財産であるならば、それを取り扱う人材は財団にとっての一番の財産です。

こうした人材が揃いはじめて、指定管理施設はもとより管理受託施設、史跡管理さらには埋蔵文化財の発掘調査等の実施が可能となります。こうした横浜の文化財に関し多岐にわたる業務を遂行できる当財団は、横浜市内で唯一無二の団体であり、それを構成する人材は一朝一夕に獲得できるのもではありません。

人材を一番の財産と位置づけ、安定的な組織運営を可能にするため、その育成計画や質の向上に資する取組を強化していきます。

具体的な取組

ステップに応じた人材の育成

近い将来の予測が困難な時代において、安定的な組織運営を可能にするためには人材育成が不可欠です。第3期指定管理期間中には、職員の研修計画、管理職の研修計画をリニューアルし、必要に応じて順次実施しています。

研修は新採用職員研修、職員研修、担当者研修、管理職研修の別に分けて実施し、新たに設置した担当についても研修計画を策定し実施します。この他、業務マニュアルの整備・ブラッシュアップ、それに基づく OJT を実践し、属人的な業務運営を避け高品質で安定的な業務の遂行が可能となる対応を進めていきます。

内容に応じた研修機会

(1) 新採用職員研修

新採用職員研修は、財団に新たに採用された職員を対象に実施します。なお、人材派遣職員等、業務を実施するにあたって当該研修が必要と所属長が判断する職員も対象者とし、内容は、財団の概要、主要事業、個人情報保護、情報セキュリティを基本とし、その他、勤務に際して必要な事項としています。

また、5館一体となった指定管理施設運営に向けて、新採用職員については、所属する施設での業務を開始する前に、人材交流や業務を知る機会として他施設での勤務を体験し、施設や事業に対する理解を深める機会を設けます。

(2) 職員研修

職員研修は、現に勤務する一般職員を対象に実施します。研修の内容に応じて、管理職員も対象とし、内容は、公益法人制度や個人情報保護等、法人職員として必要な事項、もしくは業務のスキルアップに資する事項としています。公益法人の制度については、公益法人協会

等が主催する研修の活用や、個人情報保護及び情報セキュリティについては、横浜市の研修資料等を活用するなど、多様な研修機会の創出に努めています。

(3) 担当者研修

担当者研修は、特定の業務を担当する職員を対象に実施します。内容は、国の補助事業について所管省庁の研修を活用し、他の業務研修についても、財団担当者によるものだけでなく公益法人協会等が主催する研修を活用します。

(4) 管理職研修

管理職研修は、財団の課長級職員以上を対象に実施します。なお、内容に応じて係長級職員も対象としています。研修内容は、法人運営、組織運営に必要な事項とし、組織運営に必要な知識を得ることを目的としています。

1. 法人運営

- ・外郭団体（協約と横浜市外郭団体等経営向上委員会について）
- ・指定管理者制度（仕組みと財団提案書・管理委託施設について）
- ・各館の設置条例（条例・施行規則について）
- ・公益財団法人（公益事業と収益事業・公益法人会計について）

2. 組織運営

- ・労務管理（労働基準法や関係法令について）
- ・施設管理（建築基準法12条点検や消防法等について）

横浜の歴史に関する専門性の向上

指定管理施設に配置される専門職員は、考古から近現代の各時代や、民俗や美術といった各分野のスペシャリストです。研修者としての自身の専門性に加え、横浜の地理的な専門性をさらに高めるため、各施設では多様な研究事業の企画を通じて、財団内の専門職をはじめ、近隣の大学教員や全国規模の学会組織、あるいは資料所蔵者等が交流する研究機会を創出します。

こうした機会を通じた最新の横浜の歴史に関する専門性の向上に努めることは、研究成果は成績の発表の場としての書籍の刊行や展覧会の開催にまで一気通貫します。まさに横浜の歴史に特化した財団の専門職ならではの取組です。



首都圏形成史研究会との共催シンポジウム「“鉄道史”展示の現状と課題」に当財団から歴博・都発の展覧会担当者が登壇（令和4年）

専門性の向上に資する人材の育成

専門職員に必要とされる知識や技術は、横浜の歴史に関するもの以外にも多岐にわたります。それらは大学や大学院等の高等教育機関の履修だけで得られるものではなく、OJTや各施設の運営の中で学ぶこともあります。また、文化財の取り扱いに求められる知識や技術は、科学技術の進展やICT機器の発達に伴い、日進月歩の状況となっています。

これまでにも実現していることですが、こうした状況に対応し、適切な指定管理施設の運営を実現するため、文化庁や神奈川県博物館協会が主催する専門分野の研修会へ適時参加し、参加者から他の職員へフィードバックの場を組織として設定し、得られた知見の共有を通じて専門性の向上に努めています。

III 施設運営に関する取組について

4 休館日等の設定に関する考え方

基本方針

—経年施設での安定的な運営をめざして—

指定管理各施設の収蔵庫に保管される文化財は、まさに横浜の歴史を物語る市民にとっての時代を超えた財産です。重要物品をはじめ、購入・寄贈・寄託資料も多数保管し、総点数は 50 万点以上に上ります。こうした時代を超越した市民の財産の管理については、適切な施設や設備の維持が不可欠で、そのためには必要なメンテナンスを実施するための休館日を設ける必要があります。

市民サービスとしての開館と適切な財産管理を行うための休館日については、条例や規則に定められた内容を踏まえ、経年施設ならではの不具合などへの対応も含めて、適切に判断し所管課と連絡をとり情報を共有しつつ設定していきます。

また、休館日ならではの業務についても、知られざる博物館の裏側として積極的に情報を発信することで、市民の財産を管理する施設としての必要性を伝える取組を行います。

具体的な取組

休館日における定期的な施設・設備メンテナンス

管理施設では多数の貴重な文化財、歴史資料を展示しています。資料はその特質によって異なりますが、長時間の展示は確実に劣化を進めます。来館者への良好な展示環境の維持と資料の未来への保存の両立には、施設や設備の維持管理、定期的なメンテナンス、日常点検が欠かせません。

そのため、各施設の条例施行規則に基づき、定期的な休館日を設けこうした対応を実施します。また、臨時に休館を要するような施設や設備のメンテナンスの発生が予見される場合はあらかじめ所管課と協議の上、実施するなどの対応を行います。

また、来館者に対しては各館や財団の公式ウェブサイト、公式 SNS 等を通じて、また団体予約者へは個別の連絡など、適切な手段と代替措置の検討が可能なタイミングで情報提供を行います。

施設の利用の状況、周辺環境に応じた「臨時開館」や「夜間開館」

以前の学習指導要領では、4 月から 5 月にかけての時期は、小学校の社会見学ニーズの高まりによって歴史博物館には多数の学校が来館していました。学習指導要領の改訂にともなって、現在は学習時期が 6 ~ 7 月にずれ込み、団体見学が分散傾向にあります。およそ 10 年ごとに改定される指導要領だけでなく、今後さまざまな要因によってそうした団体利用の傾向の変化が発生し、一時的に施設の見学ニーズが高まるような状況が予見される場合は、休館日を臨時に開館し、定期メンテナンスを午後や別日に振り替



6月2日の横浜開港記念日は財団各施設が無料開館

えるなどの対応を図っていきます。

また、令和 7 年 3 月には、6 月 2 日が横浜開港記念日として条例に制定されました。以前より、開港記念日は全施設無料開館の対応をとってきましたが、6 月 2 日が休館日にあたる場合は、ふるさと意識の醸成に資する取組として臨時に無料開館し広く市民とともに横浜の歴史にとっての転換点である記念日を祝します。

また、近隣で開催されるイベントとの連携や、夜間帯が主となるイベントに合わせた開館など、警備や設備の体制整備とあわせてより施設利用のニーズにあわせて対応できるよう検討を進めています。例えば、これまで歴史博物館では夏の夜間イベントとしてナイトミュージアムを開催しています。開港資料館でも近隣のライトアップイベントに参加してきましたが、夜間は無人となるため敷地外からの見学に留まっていました。警備員の勤務時間を延長することで、敷地内にある玉楠の木などもライトアップが可能となり、また、ミュージアムショップ等の営業時間延長も可能となります。



三殿台考古館では、高台にある立地を活かし、9月と3月に開館延長で実施する「ダイヤモンド富士を見る会」が人気です。

閲覧室の運営、実物資料の提供を含むレファレンスについて【開港】

開港資料館の閲覧室では、横浜開港資料館条例施行規則第 2 条第 1 項 (3) の定めにもとづいて、通常の休館日のほかに、下記のとおり資料特別整理期間の休室日を設けます。

施行規則では休館日と定められていますが、閲覧室のみ休室とし展示室は開室することでサービスの停止を最低限に留めます。

(1) 月末整理日

収蔵庫及び閲覧室の清掃、資料の登録作業と新規受け入れ図書の配架をおこなうため、毎月第 4 金曜日を月末整理日とします。

(2) 資料整理週間

整理が終了して公開準備が整った資料をはじめ、継続的に収蔵庫に蓄積されていく資料を効率的に出納できるよう、年 2 回 (6 月および 2 月)、平日 4 日間 (火曜～金曜) の資料整理週間を設けて、資料の再配架をともなう大規模な整理作業をおこないます。

また図書館とは違って、閲覧室で公開されている資料（文書群）は、どれもここにしかない 1 点ものの原文書（実物資料）であり、出納にあたっては慎重な取り扱いを要します。したがって閲覧室の運営にあたっては、二部制（午前・午後）での事前予約制をとることとし、予約の際に、利用を希望される資料や調査内容を伺っておくことで、資料を出納するまでの時間を短縮して、利用者お一人お一人に時間を有効に使っていただけるようにします。コロナ禍で試行したこの事前予約制は、レファレンスサービス向上の面で、利用者の方からは好評をいただいており、現在もこの仕組みで運営しております。

【参考】横浜開港資料館条例施行規則
第 2 条（休館日等）

横浜開港資料館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日。ただし、その日が、国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)第 3 条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときはその翌日とし、当該翌日が休日に当たるときは直後の日曜日、土曜日及び休日のいずれにも当たらない日とする。
 - (2) 1 月 1 日から 1 月 3 日まで及び 12 月 28 日から 12 月 31 日まで
 - (3) 資料特別整理期間 (ただし、毎月の整理日は、閲覧室のみ休室する。)
- 2 前項第 3 号の期間は、教育長がその都度定める。

事業内容に応じた開館時間の延長、休館日の活用

開館時間については関係規則により規定されていますが、第 2 期の指定管理期間中には、開港資料館や都市発展記念館、ユーラシア文化館ではオフィス街の立地に対応し、勤労者などが勤務後に利用できるよう毎週水曜日の夜間開館や、第 3 期の指定管理期間では、ナイトタイムエコノミーの取組として近隣事業者とともに施設のライトアップイベントに協力してきました。今後も、一律ではなく費用対効果を勘案したうえで、事業のニーズにあわせて開館時間を調整するなどの対応を行っていきます。

また、定期メンテナンス等が予定されていない休館日には、CM やドラマなどの映像撮影、雑誌や WEB 媒体などの商業撮影など、他の来館者に影響を及ぼさず、かつ収益の増加につながる取組を推進します。こうした情報についても各施設のウェブサイトで情報を発信し、利用の促進につなげます。

IV 事業に関する取組について

1 文化財施設の運営の方針と取組

基本方針

～横浜の歴史空間を体感しながら、横浜の歴史・文化を学ぶ～

指定管理施設は、国指定史跡である大塚・歳勝土遺跡と三殿台遺跡、横浜市指定文化財である旧英國総領事館（開港資料館旧館）、横浜市認定歴史的建造物である旧横浜市外電話局（都市発展記念館・ユーラシア文化館）、横浜市地域史跡である「玉楠の木」（開港資料館中庭）などの魅力的な文化財で構成されています。これに各施設の顔である常設展示を加えることで、横浜の歴史空間を現地で体感しながら、横浜の歴史・文化を学ぶことができる舞台装置が整っていると言えます。

そして各施設の事業の根幹にあるのは「資料」です。各館の基本理念にもとづいた資料を収集することで、各館の個性となる常設展示をつねに魅力的なものとし、各時代・各分野にまたがる資料を基礎として各館の活動を活性化します。一方で、開館以来の展示内容をアップデートし、柔軟に展示を更新できる空間を実現するために、各館常設展示のリニューアル計画を検討し、提案していきます。

具体的な取組

常設展の運営と修繕【5館一体】

各館の展示を通じて、横浜 3 万年の通史を完結させる「一体的な常設展示」を目指し、市民にとって、横浜の歴史とその国際性を知ることで、横浜に愛着をもち歴史的アイデンティティを形成することができる展示空間を実現します。

近年のインバウンド増加の状況をふまえて、常設展示室の多言語対応を進めていきます。すでに歴史博物館では、英語・中国語・韓国語に対応した「横浜市歴史博物館公式解説アプリ」が導入されていますが、他館でも解説アプリの導入を前提に、展示パネルの多言語対応を進めていきます。

そして、すべての人が快適に展示を見学できるよう、ユニバーサルデザインにもとづく展示空間の実現を目指します。各館とも施設のハード面でのバリアフリー対策は進んでいるものの、展示空間については、カラーバリアフリーの不徹底など、必ずしもすべての人にとって利用しやすい空間になっているとは言えません。あらためてユニバーサルデザインのあり方を議論し、今後検討を進める常設展示のリニューアル計画に反映させます。

リニューアルが実現するまで、小破修繕の範囲内における現状の機器類の長寿命化、機能の維持はこれまで通り実施します。代替機器類の入手が不可能な場合は、解説アプリや



歴史博物館の多言語開設アプリは地域の特性を踏まえて、ドイツ語にも対応

ウェブコンテンツと常設展示室を連動させるなどにより、必要な情報を提供するように努めます。

常設展リニューアル計画の検討【5館一体】

常設展示の活性化にあたっては、たえず展示内容や展示手法の更新が求められます。各施設とも開館以来年数が経っているため、展示内容に最新の研究成果が反映されておらず、また多くの施設で設備面での不具合が顕著になっていきます。常設展示室の構造はさまざまで、簡単に変更がきかない施設もあるため、研究の進展によって古びてしまった展示内容を刷新し、展示技術の進展に応じた展示装置を更新するためにも、段階的に各施設のリニューアル計画を検討し、予算案を含めて、設置者である横浜市に提案していきます。



常設展示室の一部を展示替えして活用（都市発展記念館・令和6～7年）

事業の核となる資料の収集【5館一体】

各施設の事業の核となる資料については、各館が定める収集方針にもとづいて、市民からの寄贈・寄託、また購入やデジタル複製などによって継続的に収集します。収集した資料は、整理・分析のプロセスを経たのちに、展示・出版などの普及事業で広く活用・公開し、また資料目録やデジタルアーカイブを通じて資料へのアクセス促進を図ります。

資料収集計画の策定【5館一体】

博物館事業の根幹である資料収集と、収集した資料の保存管理の問題は表裏一体であり、現状では各施設の収蔵スペースは飽和状態にあり、複数の外部倉庫を財団が費用負担して確保している状況にあります。

無尽蔵に資料を収蔵できるスペースがない以上、資料収集と整理・保管の適切なマネジメントが必要となります。市域の旧家に残された大規模な資料群をはじめ、今後も寄贈・寄託の相談が起こり得ることを想定して、資料整理・保管・公開までのサイクルを適切におこなえるよう、適切な温湿度管理ができる収蔵スペースの取得について設置者である横浜市と協議しながら、中長期の資料収集計画を策定します。

資料の閲覧公開とレファレンス【5館一体】

開港資料館の閲覧室では、古文書や古記録などの資料を直接手に取って閲覧することができますが、各館が所蔵する資料は、資料保存の観点から、原則として収蔵庫に保管されており、直接利用することはできません。研究目的のために原資料を熟覧したい場合には、資料の特別利用の手続きをとって各館で対応します。将来的には、開港資料館の閲覧室で各館の原文書を一元的に閲覧公開できる体制が取れるよう、収蔵スペースの確保、資料の配架・出納の仕組みづくりを含めて検討していきます。

開港資料館では、令和6年1月から「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」の公開を開始し、これまでに約20万点の資料情報と、浮世絵・古写真など約8,800点の画像データを公開していますが、歴史博物館をはじめ他館でもデジタルアーカイブの整備を進めることで、展示公開の機会を除いては普段は見ることができない各種資料の画像データを公開し、

利用者の利便性向上を図ります。横浜都市発展記念館でも、ウェブサイトで従来から公開してきた地図や絵葉書のデータベースに加えて、戦後 80 年に向けた調査研究成果として、戦後の横浜を写した写真資料を紹介する「戦後横浜写真アーカイブス」を令和 6 年 4 月に公開しました。

市民から日々寄せられる、横浜の歴史・資料に関する質問や相談については、各館で個別に対応していましたが、これらのレファレンス情報を各館相互に横断・参照できるよう、一元的な体制を構築します。

文化観光拠点計画に基づく事業成果の活用【開港】

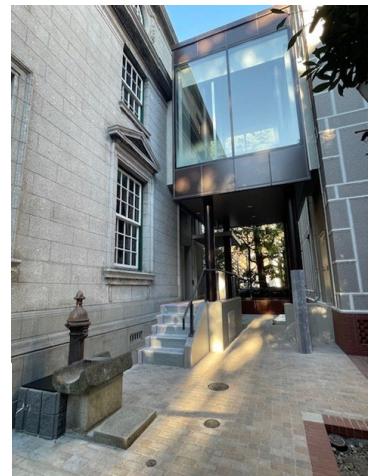
開港資料館が文化観光拠点計画をもとに整備を進める旧英國総領事館 2 階には、拠点からの回遊先となる山下町、山下公園通り、元町商店街。横浜中華街、山手など、近隣のエリアの歴史を紹介する展示を新設するほか、企画展示室の延長コーナーや少人数イベント等でフレキシブルに使用できる空間の整備も進めています。

また、総領事館時代の内外装に甦った旧英國総領事館について、歴史的建造物の魅力を発信しつつ、収益につながる取組の拠点として活用していきます。

文化観光拠点計画による施設整備により、開港資料館新館と展示が新設される旧館（旧英國総領事館）の 2 階がバリアフリーの連絡通路で結ばれました。



都市発展記念館の所蔵資料を公開する「戦後横浜写真アーカイブス」
(令和 6 年)



IV 事業に関する取組について
2 普及啓発等事業の方針と計画

基本方針

～多彩なテーマで利用者の裾野を広げる～

企画展示はもっとも利用者の関心を呼ぶものであり、また各施設の事業収益の重要な柱となるものです。展示計画にあたっては、各施設の調査研究の成果を基礎としながら、横浜の歴史・文化への関心を広く呼び起こすテーマ、大きな周年にあわせたテーマ、歴史ファン以外も惹きつける魅力的なテーマなどを設定し、各施設が企画・広報の両面から連携して取り組むことで、集客と収益につなげていきます。

また令和4年の博物館法改正により、博物館事業として、資料のデジタルアーカイブ化が明記されました。開港資料館では、令和6年1月から「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」の公開を開始し、すでに約20万点の館蔵資料の情報を公開していますが、歴史博物館をはじめ他の施設でも、デジタルアーカイブの取り組みを進めて、誰もが横浜の文化財や歴史資料に手軽にアクセスできる環境を整備します。

具体的な取組

各館事業の柱となる企画展の実施方針（別表）

企画展の開催にあたっては、各館の調査研究の成果を基礎としながら、鉄道開業150年（2022年）、関東大震災100年（2023年）、ペリー横浜来航170年（2024年）などの周年、横浜市新市庁舎竣工（2020年）、東京オリンピック開催（2021年）などの大きなトピックと連動して、各館が連携しながら展示を企画・実施してきました。

今期においても大きな周年事業やトピックに注目して、5館が柔軟に連携の体制をとり、また外部の研究者・研究機関とも連携しながら、多彩なテーマでの企画展を計画・実施します。高い専門性に裏打ちされながらも、来館者にわかりやすく伝える展示手法を磨き、展示ごとにきめ細かく広報戦略を立てることで、歴史に関心が薄い層にも各館の展示とその存在をアピールして、博物館利用者の裾野の拡大を図ります。

おもな周年・トピック

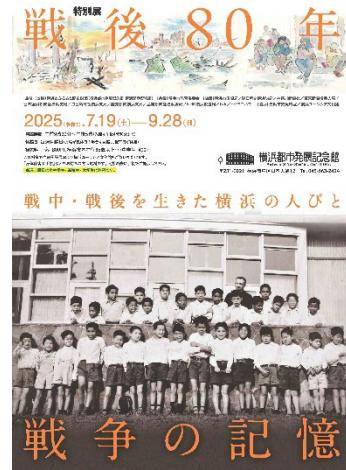
2026年 昭和100年／三殿台開館60周年／横浜・釜山パートナー都市提携20周年

2027年 国際園芸博覧会開催／区制100周年（鶴見区・神奈川区・保土ヶ谷区・中区・磯子区）／吉田新田完成360年

2028年 明治維新160年／金沢区制80周年／横浜市立大学設立100周年

おもな連携展示

2026年 「三殿台開館60周年展」【三殿+埋文+歴博】



市民や社会のニーズに応える戦後80年をテーマにした特別展を開催（都市発展記念館 令和7～8年）

- 「絵図で旅する幕末の横浜・日本」【開港+神奈川県立歴史博物館】
 「ブリキのおもちゃ展」【歴博+ブリキのおもちゃ博物館】
 「横浜絵展」【歴博+神奈川県立歴史博物館】
 「横浜に遺る中世文書」【歴博+開港】
 「昭和 100 年写真展」【都発+開港】
 2027 年 「ユニバーサル・ミュージアム展」【歴博+東海大学】
 「中山恒三郎家」【歴博+都発】
 「サムライたちの技術革新—お台場と蒸気船の歴史—」【開港+埋文】

普及啓発事業のあらたな展開へ（5館一体）

各施設では、これまで横浜の歴史をより身近に感じてもらうための各種の歴史講座やワークショップ、アートイベントなどの事業を、市民や地域の諸団体と連携して開催してきました。大塚・歳勝土遺跡や三殿台遺跡などの史跡でも、夏のキャンプやダイヤモンド富士鑑賞会（三殿台）など、さまざまな体験学習やイベントを実施しています。

歴史の現場に立つことで学びを得る普及事業は、参加者からはつねに好評で、引き続き、これまでの企画をブラッシュアップしながら、都心部では、空（展望台）から都市を見る、海や川から都市を見るといった、視点を変えてのツアー企画もメニューに加えていきます。

またあらたな試みとしては、地域企業の社員をターゲットにした普及事業（レクチャー やまち歩き）を立ち上げます。企業の社員が自身の勤務する地域の歴史を知ることで、地域への愛着を育み、企業活動にフィードバックしてもらうことを目指します。開港資料館では、DeNA ベイスターズやありあけなど地域密着型の企業を招待して、旧館（旧英國総領事館）や玉楠の木をスタートして港周辺の史跡をめぐるレクチャーツアーを試行しており、今後も近隣の企業に広く呼びかけて開催を継続していきます。



開港資料館近隣事業者向けレクチャーツアー（令和 6 年）

広報戦略の一元化（5館一体）

財団では、令和 7 年度から総務課が広報・収益事業を総括することで、これまで各館で個別に対応していた展示広報の一元化を図りました。各施設が実施する企画展や普及事業は、新聞・テレビなどで報道される機会が多く、各施設でメディアとのネットワークを有していましたが、広報組織を一本化することで、これらのネットワークをさらに強固にして、財団が展開する各事業の情報を隨時発信していきます。あわせて、財団の公式情報をインターネット上で発信するため、プレスリリースの配信サービス「PRTIMES」の利用を開始しました。

新聞・テレビなど従来のメディア以外に

財団各施設の公式プレスリリースを配信する PRTIMES

も、PRTIMES からの配信リリースや各館で SNS (X や Instagram など) を積極的に活用して情報発信することで、若い世代に各館の展示や資料の魅力をアピールし、また博物館施設の情報に接することが少ない層にも、各館への来館を促します。

その他、企画展示の開催中だけでなく、展示開催期間以外の来館者の動向（来館の目的、施設の前後でどこに立ち寄るかなど）もアンケート調査から分析して、館の立地と時期に応じた的確な広報を打っていきます。

都心部（開港・都発・ユ文）では、みなとみらい線を運営する横浜高速鉄道との連携を強めており、企画展の開催にあわせたオリジナル一日乗車券の発行や各駅でのポスター掲示など、成果を挙げてきています。こうした交通事業社、観光事業社との広報連携についても強化していきます。



横浜高速鉄道みなとみらい線とのコラボ企画、オリジナル1日乗車券の発売（令和6年）

デジタルアーカイブの整備と活用（5館一体）

各館が所蔵する資料は、各館の条例の定めにしたがって、「複製資料」として画像データを提供しています。とくに浮世絵や古写真・古地図などのビジュアル資料は利用頻度が高く、多くの出版物や映像番組などで利用されてきました。

開港資料館では、令和6年1月から「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」を公開し、これまでに約20万点の館蔵資料の情報を公開していますが、画像データは約8,800点が利用可能になっており、さらなる利用促進を図るため、過去の画像利用の事例（店舗のインテリアやみなとみらい線元町・中華街駅のコンコースなど大規模に活用されているもの）を紹介する広報動画を作成して、デジタルアーカイブの周知に努めています。

他館でも、将来的なデジタルアーカイブの整備・公開を前提として、各種資料のデジタル化を進めています。そして学術利用にとどまらず、公共空間や商品パッケージなど各館の資料が活用される機会を大きく広げていくことで、横浜の歴史・文化財を広く社会に普及させます。

昭和31年度企画展計画

年度	令和8年(2026年)度		
施設	歴史博物館	開港資料館	都市発展記念館
	ユーラシア文化館	ユーラシア文化館	三段台考古館
1 (4月～7月)	「横浜発掘物語」君も今日から考古学者！ 小学6年生の社会科見学に对応した「ア クティフィーナー」を意識した考古学入門 展。	「横浜開港資料館リニューアル記念展示 (仮)」 横浜開港資料館と日英アーチカル展示の公開記念し、 特別 横浜開港資料館リニューアルを開く。	横浜市・金山広域市パートナー都市提携 20周年記念 「韓国の開港工業の世界」 元金山絶縁師夫人・鈴木千香子氏の開港房 工芸品コレクションを紹介する。開港房と は女性たちの生活空間であり、家族の幸 福を願う吉祥紋様や意匠を取り入れた手 工芸品が生み出され、伝統工芸の技本 で製作された豊かで繊細な現代の作 品の数々を展示する。
2 (7月～10月)	「ブリキのおもちゃ展」 ブリキのおもちゃ博物館と連携し、同館の コレクションを紹介。	「絵図で旅する幕末の横浜・日本(仮)」 幕末期の横浜とその周辺を描いた絵図を 集成・紹介する。	世界遺産登録40周年記念、 「聖母マリア像絵画展」 図録「千仏」を中心とした高麗絵画の魅力 によるクロードへの日本人への憧れを紹介 する。
3 (10月～1月)	「横浜絵風」 近生春翁の作品を紹介し、開港以来海 外に輸出された横浜絵をみていく。(神 奈川県立歴史博物館連携)	「横浜に遺る中世文書(仮)」 開港及び座敷が登場する文書で、春翁が書いた中 世文書からどの像が登場するか、春翁が書いた中 世文書や石井光成などの横浜の 郷土史家の活動や横浜の旧家の歴史を 紹介する。	「80周年記念写真展」 平安時代後期の仏像を中心に展示し、素 朴な作風などから、平安時代の横浜市域 の地歴をみていく。
4 (1月～4月)	「近世横浜の領主たち」 横浜市域の領主を治めた領主たちについて 開港資料をもとに紹介する。	「令和8年度指定・登録文化財展」 令和8年度に指定・登録された横浜市の文 化財を紹介する。	(仮称) 三段台開館60周年展

企画展年次計画(令和8年度～令和10年度)
文部科学省

IV 事業に関する取組について

3 調査研究業務の方針と計画

基本方針

～継続的かつ横断的な調査研究の蓄積と発信～

財団では、歴史・考古・民俗・美術など各分野での専門職員を抱えており、原始・古代から近現代まですべての時代に対応する調査研究を進めてきました。その研究成果の蓄積を、さらなる調査研究の継続をもとに磨き上げることで、横浜 3 万年の歴史像に国内外の視点からあらたな光を当てることを目指します。

また指定管理施設間での異なる時代・分野にまたがる横断的な調査研究や、財団外の研究機関・博物館施設との共同研究を積極的に進めることで、専門職員の学術的な視野を広げて、調査研究の質の向上を図ります。

調査研究の成果は、展示や出版、講座講演会などを通じて市民にわかりやすく還元し、専門性の高い調査報告書や研究論文についても、Web 公開により広く発信していきます。

具体的な取組

資料にもとづいた調査研究は、各館の事業の根幹となるものであり、資料収集→調査研究→企画普及のサイクルを基本としながら、これまでの研究成果の蓄積をふまえて、さらなる視野の広がりと質の向上を念頭に、これからも継続して実施していきます。

調査研究事業は、(1) 各館において蓄積してきた資料にもとづいた基礎的な研究、(2) 各館の展示の特性を活かしたテーマ研究にもとづいて進めます。とくにテーマ研究は、周年事業などの時宜を得て実施する展覧会で成果を公開することを前提とし、おもに 3 年ベースで研究事業を設定していきます。

令和 8 年度の主な調査研究事業は下記のとおりです。令和 10 年度までの 3 年間の調査研究計画については、別表を参照してください。その他、5 年後、10 年後を見据えた研究テーマについては、一覧表内の備考欄に「継続的に実施」または「その他指定管理期間に予定される研究テーマ」として記載しています。

(1) 基礎的資料研究（主なもの）

武州金沢藩米倉家資料調査／横浜市域の美術史の基礎的研究【歴博】

横浜浮世絵に関する研究【開港】

横浜カントリー・アンド・アスレチック・クラブ資料の研究【開港】

都市近郊農村の近代化に関する研究【都発】

バジル・グレイ氏旧蔵書に関する研究【ユ文】

三殿台遺跡出土資料の基礎整理【三殿】

(2) テーマ研究（主なもの）

大塚遺跡の水田・食糧に関する研究【歴博】

都筑区川和町中山家に関する研究【歴博】

幕末期の洋学・医学史研究／横浜の食文化に関する研究【開港】

横浜の写真師に関する社会経済史的研究【都発】

- 戦後横浜の戦争被害者保護に関する研究【都発】
騎馬民族征服王朝説の再検討／日本における華僑の服飾文化【ユ文】
三殿台遺跡の再評価に関する研究【三殿】

施設間連携および外部の研究者との連携研究（別表）

高度な専門性をもつ研究者としてより研鑽を積むために、他施設や他機関、他分野の研究者と積極的に交流・研究をおこなうことで、研究の質を高め、幅広い視点での研究成果につなげます。

(1) 施設間での連携研究（主なもの）

- 横浜開港資料館アーカイブに関する研究【5館】
上郷深田遺跡展に関連した古代製鉄技術の研究【歴博・埋文】
市域所在の中世資料の調査【歴博・開港】
神奈川台場と幕末の技術革新【開港・埋文】
関東大震災復興史に関する研究【開港・都発】

(2) 外部の研究者・市民団体との連携研究（主なもの）

外部機関との共同研究

- 文化財資料の教育活用についての研究【歴博+東海大学】
横浜絵の研究【歴博+神奈川県立歴史博物館】
幕末期の開港都市と対外関係史の研究【開港+外部研究機関】
横浜の河川・港湾開発に関する研究【都発+大学機関】
横浜に根ざす多文化共生社会に関する研究【ユ文+外部研究機関】

市民団体との共同研究

- 三殿台遺跡出土資料の基礎整理【三殿】
土器の制作・使用に関する実験考古学的研究【歴博】
市民協働古文書整理解読【歴博】

調査研究成果のアウトプット（5館一体）

調査研究の成果については、各館で実施する展示や出版物、講座講演会などの普及事業を通じて、市民にわかりやすく還元します。専門性の高い学術成果については、報告書・論集など研究の質的評価が得られる刊行物のかたちで成果を公開し、あわせて各館で刊行する研究紀要の掲載論文や調査報告書については、「横浜市ふるさと歴史財団リポジトリ（仮）」を構築して一括公開し、横浜に関する幅広い専門分野と時代におよぶ調査研究の成果を、一元的に発信できる仕組みを整えます。

調査研究費の獲得に向けた検討

調査研究の実施とその成果の展示・出版での公開というサイクルのなかで、調査研究のための予算の確保は、年々厳しくなっています。これまで外部の研究機関との共同研究や、民間の研究助成の獲得など、さまざまな方法で調査研究費の確保に努めてきました。今後も科学研究費をはじめ外部の研究費の獲得に向けて積極的に検討をおこない、質の高い調査研究を維持するよう努めます。

□各施設の調査研究の計画

■横浜市歴史博物館

施設	時代	テーマ	8年度	9年度	10年度	備 考	連携関係
歴博	考古	大塚遺跡の水田・食糧に関する研究	○	○	○		弥生・古墳時代の水田復元研究会
	考古	土器の制作・使用に関する実験考古学的研究	○	○	○	継続的に実施	横浜縄文土器づくりの会
	考古	上郷深田遺跡展に関連した古代製鉄技術の研究	○				埋文
	中世	中世・高橋家文書の調査研究	○				
	中世	市域所在の中世資料の調査	○	○	○		開港
	近世	市内旧家所蔵資料調査	○	○	○	継続的に実施	
	近世	武州金沢藩米倉家資料調査	○	○	○		
	近世	市民協働古文書整理解読	○	○	○	継続的に実施	横浜古文書を読む会
	美術	横浜市域の美術史の基礎的研究	○	○	○	継続的に実施	
	美術	横浜絵の研究	○				神奈川県立歴史博物館
	美術	市内彫刻文化財の研究	○	○	○	継続的に実施	
	美術・考古	文化財資料の教育活用についての研究	○	○			東海大学
	民俗	八聖殿資料調査	○	○	○	継続的に実施	
	民俗	市内民俗行事調査	○	○	○	継続的に実施	
	民俗	都筑区川和町中山家に関する研究	○	○	○	継続的に実施	

■横浜開港資料館

施設	時代	テーマ	8年度	9年度	10年度	備 考	連携関係
開港	近代	幕末期都市横浜の社会史的研究	○	○	○		
	近代	幕末期の洋学・医学史研究	○	○	○		
	近代	幕末期の開港都市と対外関係史の研究	○	○	○		長崎歴史文化博物館等
	近代	横浜開港資料館アーカイブの研究	○	○	○		都工・歴博・埋文
	近代	幕末の技術革新に関する研究	○	○		神奈川台場	埋文
	近代	横浜の食文化に関する研究	○	○	○		
	近代	横浜浮世絵に関する研究	○	○	○		
	近代	横浜カントリー・アンド・アスレチック・クラブ資料の研究	○	○	○		
	近代	横浜の郷土史家に関する研究			○		
	近現代	横浜開港資料館戦時関連資料の研究	○	○	○		都発
近現代	近現代	関東大震災復興史に関する研究	○	○	○		都発

◆その他指定管理期間に予定される研究テーマ

- ・横浜外国人居留地の形成と外国人社会の実像に関する研究
- ・アーネスト・サトウ・萩原延壽の研究

■横浜都市発展記念館

施設	時代	テーマ	8年度	9年度	10年度	備 考	連携関係
都発	近現代	横浜の河川・港湾開発に関する研究	○	○	○		大学機関
	近現代	横浜の製材業者に関する研究	○	○	○		
	近現代	横浜の写真師に関する社会経済史的研究	○	○	○		
	近現代	都市近郊農村の近代化に関する研究	○	○	○		大学機関
	近現代	横浜の展覧会に関する研究	○	○			開港
	近現代	関東大震災復興史に関する研究	○	○	○		開港
	近現代	戦後横浜の戦争被害者保護に関する研究	○	○	○		開港

◆その他指定管理期間に予定される研究テーマ

- ・都市における水上生活者の研究
- ・近代横浜における社会事業の研究
- ・横浜における貨物輸送網の研究
- ・都市横浜の消防・災害史に関する研究
- ・徴兵制度と横浜市民の研究
- ・京浜工業地帯と都市移住者に関する研究

■横浜ユーラシア文化館

施設	時代	テーマ	8年度	9年度	10年度	備 考	連携関係
ユ文	古代	騎馬民族征服王朝説の再検討	○	○	○		適切な外部研究者や外部機関と連携
	古代・中世	ユーラシアにおける古代・中世日本の研究	○	○	○		
	-	ユーラシアの工芸品に関する研究	○	○			
	-	バジル・グレイ氏旧蔵書に関する研究	○	○	○		
	-	収蔵資料の整理・研究と関連資料の研究	○	○	○		
	近現代	日本における華僑の服飾文化	○	○			
	近現代	横浜に根ざす多文化共生社会	○	○			

■横浜市三殿台考古館

施設	時代	テーマ	8年度	9年度	10年度	備 考	連携関係
三殿	原始	三殿台遺跡出土資料の基礎整理					市民協働
三殿	原始	三殿台遺跡の再評価に関する研究	○	○	○	継続的に実施	

V 施設管理に関する取組について

1 建物および設備の維持保全並びに管理に関する方針と計画

基本方針**—市民の文化財を未来に伝える文化財取扱い施設の管理—**

これまで指定管理者として管理してきた5施設は、市民や児童・生徒が利用する教育機能を持つ施設であり、横浜3万年の歴史を伝える各種の歴史資料や文化財を収集、保存し、展示し、次の世代に伝える役割を担う文化財施設でもあります。「横浜市公共施設等総合管理計画」に沿って、財団各施設の「保全・更新計画」の策定・見直しや、点検・診断の確実な実施、施設情報のデータベースの構築などにより、施設の安全確保や長寿命化、効率的な更新などの取組を横浜市と協議の上、着実に進めます。

いずれの施設も開館から長期間が経過し、国史跡や市の文化財に指定されている遺跡、建物も含まれます。これらの施設を長年にわたって管理・修繕してきた豊富な経験やネットワークを活かし、経年劣化等の状況をふまえて日常的な建物や設備の保守管理を行ない、資料の保存とその環境整備に取組みます。

具体的な取組**建築物、施設の保守管理**

歴史博物館は開館から30年、開港資料館は40年、三殿台考古館は50年以上が経過しています。開港資料館旧館や都市発展記念館・ユーラシア文化館は、いずれも昭和初期に竣工した歴史的建造物を利用しています。経年に因って起る建物の仕上げ材の浮きやひび割れ・はがれ等は、外観だけでなく、利用する市民の安全を損ないます。

空調設備や電気設備といった建築設備の不具合は温湿度管理に影響し、次の世代に伝える資料や文化財の保全に影響します。多くの市民や児童・生徒が安心して、また安全に利用できる公の施設として、また収蔵品を適正に保全する文化財施設としての役割を果たすには、中長期的な修繕・改修計画の策定とともに、各施設の状況にあわせた保守管理計画を策定し、所管課に提案します。

これまで各施設を管理してきた当財団の豊富な経験を活かし、それぞれの建物や設備の状況を熟知した職員を中心に、日常点検と定期的な保守点検整備を計画するほか、各種法令に基づく点検を年度毎に実施し、施設の適正な維持管理を行います。

展示物の保守点検【歴博】

歴史博物館では開館から30年が経過し、常設展示の不具合による休止、修繕待ちといった場面が増えてきています。小規模修繕の範囲内でこの間も解説パネル等の更新は続けていますし、これまで進めてきた長期にわたる展示物の保守点検の経験を活かし、今後も定期的な保守点検と部品交換等のメンテナンス、展示物の清掃を確実に実施し、安定した展示状態を維持するよう努めます。

また、第3期指定管理期間においては、制御機器の故障から長らくサービスを停止していた歴史劇場について、所管課の予算措置により既存設備の撤去、マルチシアターとしての改修を行って頂きました。これを受け、歴史博物館では新たな横浜3万年の通史を紹介する動

画を制作し公開しています。今後も適切な保守点検をおこないつつ既存の設備を活用していきます。

備品等の適切な管理【5館一体】

各施設では開館時の初度調査による備品をはじめ、指定管理者として購入した物品類を数多く使用しています。定められた毎年の点検をはじめ、経年劣化や更新等に際しては、所管課に連絡の上、所定の手続きを確実に実施して管理を行います。



歴史博物館の歴史劇場の新動画「レックルとめぐるヨコハマ歴史旅行」(令和7年公開)

V 施設管理に関する取組について
2 施設の管理全般に関する方針と計画

基本方針

—文化財施設として必要かつ良好な衛生環境・美観維持と環境負荷の低減—

各施設について、文化財を取り扱う施設として、良好な環境衛生及び美観の維持を心がけるとともに、利用者にとって快適な空間を保つため、環境に配慮した取組や清掃業務を実施します。

具体的な取組

施設清掃の計画と提案【5館一体】

清掃業務は、日常清掃と定期清掃を励行し、文化財を取り扱う施設としてごみ、埃、汚れがない状態を維持し、従業員にとっても施設利用者にとっても快適な空間を保持します。清掃は、「業務の基準別添資料」を踏まえ、清掃時間、清掃回数などを考慮し、可能な限り利用者の妨げにならないように実施することとし、開館時間中に実施する場合は安全に配慮します。施設の清掃を実施するにあたっては、「業務の基準別添資料」の見直しなど、コストを削減しつつ良好な衛生環境や美観の維持につながる提案を所管課に対して行います。

これまで以上に施設から発生する廃棄物の抑制に努めるとともに、可能な限り資源化できるように分別を徹底し、「ヨコハマ プラ 5.3 計画（横浜市一般廃棄物処理基本計画）」を踏まえ「ごみゼロルート回収」に参加するなどの取組を継続します。

環境に対する負担軽減【5館一体】

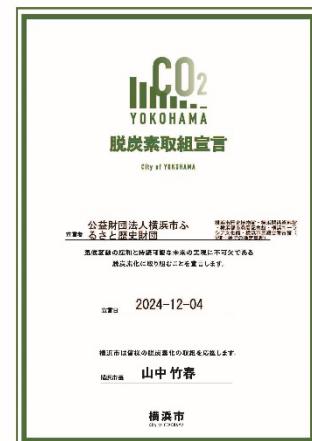
当財団および指定管理 5 施設は、「横浜市地球温暖化対策実行計画」に基づく「脱炭素取組宣言」を令和 6 年 12 月におこないました。今後も公共施設としてそれらを踏まえた環境負荷の低減に資する取組を実施し、公共施設としての役割を果たします。

また、各施設の利用者に対しても、ゴミの持ち帰りの励行と環境への配慮、公共施設の心ある利用を求め、ゴミ削減への協力を啓発していきます。

植栽管理の計画【歴博・開港・三殿】

各施設の敷地内には、植栽や緑地が多く含まれます。これまでにも「業務の基準別添資料」を踏まえた草刈りや樹木の剪定を職員や委託業者の作業で実施してきましたが、開館からの経年によって樹木の巨大化や老木化が進行しています。適切な維持管理は、利用者にとって憩いの空間の提供につながる一方で、近年増加する異常気象等への対応の誤りは植栽に端を発する事故に直結します。

また、歴史博物館が管理する大塚・歳勝土遺跡公園は国指定史跡、三殿台考古館は屋内屋外を問わず敷地が国指定史跡、開港資料館の中庭には市地域文化財の玉楠の木があるなど、



指定管理施設5館一体となった「脱炭素取組宣言」（令和6年）

文化財の取り扱いを含む植栽の維持管理については、樹木医や樹種等に精通した専門業者と連携して対応していきます。

保安警備の計画と提案【5館一体・開港】

現在各施設では「業務の基準」に示された内容を踏まえ警備会社に委託し、有人・機械警備を実施しています。施設内の秩序や安全を維持し、事故、盗難、器物損壊等の犯罪及び火災等の発生を防止し、利用者の安全や財産、さらには時代を超越した市民の財産である歴史資料・文化財の保全を図るため、定期的な巡回・警備を徹底しています。

第3期指定管理期間では、施設ごとに危機管理マニュアルを整備しました。不斷の見直しを図りつつこれをもとに、天災をはじめ不審者・不審物などへの対策として、あらゆる事態をシミュレーションした訓練を実施していきます。

また、開港資料館についてはこれまで歴博や都発・ユ文とは異なり、開館時間中のみの有人警備、夜間は建物の機械警備のみという体制でしたが、令和6年度には夜間の敷地内への不審者の侵入事案が発生した経緯も踏まえて、24時間の有人警備を提案します。



かながわ樹木医会による、開港資料館中庭のたまくすの木周辺の土壤改良作業の様子（令和7年）

駐車場の管理【歴博・開港】

各施設の管理運営と同様に駐車場内における事故、盗難、破壊等の犯罪から利用者を守るために、保安警備業務委託先と連携し、適切な対応に努めます。

また、駐車場設備についても「横浜市公共施設等総合管理計画」を踏まえた劣化状況の把握に努め、点検・診断の確実な実施などにより、施設の安全確保や長寿命化を図っていきます。

自己負担の範囲での小規模修繕と所管課との連携【5館一体】

各施設の修繕については、決められた自己負担額の中で対応する「小規模修繕」については、予算の範囲において、優先順位や緊急度を勘案して適切に対応していきます。

また、自己負担額を超える修繕については、事故を未然に防ぐとともに市民サービスの低下に繋がらないよう緊密に所管課と連携し対応していきます。

施設の長寿命化のための日常の保守や中長期の修繕・改修計画の提案【5館一体】

各施設ともに開館から長い期間が経過する中で、突発的な不具合が想定されます。博物館の展示室や屋外展示、歴史的建造物や復元史跡の効率的かつ効果的な環境を保つために「業務の基準別添資料」を踏まえた各種機器の日常的なメンテナンスを実施しますが、さらなる長寿命化に向け、中長期的な修繕・改修については、具体的な内容と概算費用を見積り所管課に提案します。

V 施設管理に関する取組について

3 資料の保存に関する方針と計画

基本方針**～横浜 3 万年の歴史を伝える資料を、確実に次世代へ～**

各施設が所蔵する資料や文化財は、横浜 3 万年の歴史を伝える市民の貴重な共有財産であり、私たちだけでなく、未来の人びとのために継承しなければなりません。

これらの資料は、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料と多種多様であり、それぞれ資料の性質に適した管理方法が求められます。これまで各館の施設運営のなかで培ってきた資料保存の知識・技術・経験を活かして、資料の状態を損ねることなく、確実に後世へ引き継いでいきます。

具体的な取組**資料の特性に応じた保守管理【5館一体・支援施設】**

各施設は対象とする時代や地域がそれぞれ異なりますが、各施設で定める収集方針にもとづいて、施設ごとに必要な資料を選択し、原始・古代から近現代にいたる横浜の歴史を明らかにできる資料を、5館全体として収集、保存します。

各施設が収蔵する資料は、土器や石器などの考古資料、古文書や浮世絵、古写真といった歴史資料、農具や生活用具などの民俗資料、絵画・彫刻といった美術資料などさまざままで、求められる保存環境も資料によって異なります。各施設では、それぞれの分野の専門職員によって、資料の特性をふまえた保存環境を整えます。

もっとも厳格な管理が求められる収蔵庫は、24 時間 365 日を通じて、一定の温湿度管理のもとに資料が保管されており、収蔵庫内は専門職員が定期的に清掃をおこなって環境を維持しています。新規に受け入れた資料については、文化財害虫の発生を防ぐために、二酸化炭素を利用した燻蒸による殺虫殺卵をおこなったのち、収蔵庫に収蔵します。

文化財害虫から資料を守る【5館一体・支援施設】

貴重な資料や文化財を保管するには、文化財害虫とその対策への十分な知識が必要とされます。財団では、「文化財 IPM (Integrated Pest Management : 総合的有害生物管理) コーディネータ」や「文化財虫菌害防除作業主任者」の有資格者を抱えており、各施設においては、年間を通じて環境調査を定期的に実施し、収蔵庫だけでなく展示室や館内の各所を細かく点検することで、資料にとって適切な保存環境を維持します。

**災害時に備えた対策【5館一体・支援施設】**

各施設の収蔵庫では、地震の発生時に資料

工事で休館した都市発展記念館・ユーラシア文化館
資料の一時保管のため歴史博物館、5F 歴史収蔵庫の
棚を上方に延長・増設する工事を実施（令和5年）

が棚から落下して破損する事がないよう、棚に転落防止設備や耐震ベルトを設置しています。また各施設の収蔵資料の情報を共有することで、万が一、災害時に施設が被害を受けた際に、他館収蔵庫への緊急避難等の対策がとれるよう備えます。

同様の対策として、各施設が加盟している神奈川県博物館協会が策定した「神奈川県博物館協会総合防災計画」(平成 27 年)にもとづき、災害時の近隣博物館での情報共有とレスキュー対応を想定した情報伝達訓練(年 1 回)に参加し、日頃からの交流と情報交換に努めます。

資料の再配置計画の検討【5館一体・支援施設】

令和元年秋に発生した東日本台風では、川崎市市民ミュージアムが被った甚大な浸水被害が世間に大きな衝撃を与えました。横浜港に面したエリアに位置する開港資料館・都市発展記念館・ユーラシア文化館(中区日本大通)は、横浜市の浸水ハザードマップ(洪水・内水・高潮)では、高潮 0.5m 未満、内水 2cm 未満道路冠水相当の被害が想定されています。

とくに都市発展記念館・ユーラシア文化館では、地下に資料収蔵庫と全館の空調を制御する機械室が設けられており、浸水被害への対策は喫緊の課題ですが、各館とも収蔵庫に收まりきらずに、別途予算を投じて外部倉庫で資料を保管している現状では、収蔵庫そのものの移転は容易に解決できる問題ではありません。

近年では、災害時に備えて「資料の避難訓練」を実施する博物館も出てきていますが、単館での対策には限界があります。5館一体の強みを活かして、各館が所蔵する貴重資料を、歴史博物館の収蔵庫や開港資料館の貴重書庫に分散して保管するなど「資料の再配置計画」を検討していきます。

V 施設管理に関する取組について

4 緊急時の体制と対応計画

基本方針**—危機管理体制の不断の更新と緊急時の利用者の安全確保—**

事件・事故等が起きた場合は、各施設の利用者、入館者の安全確保を第一とし、迅速に対応します。災害時にはマニュアルに基づき利用者の避難、誘導、安全確保等を的確に行っていきます。

具体的な取組**事故防止体制と急病への対応【5館一体】**

各施設の利用者、入館者の急な病気、けが等に対応できるよう、特に児童・生徒の安全については、学校関係者と連携し、適切に対応していきます。

館内にAEDを設置し、その取扱いに習熟するほか、近隣の医療機関等と連携し、緊急時には的確な初動対応を行います。また、利用者や入館者が重大な事故が起こった場合には、連絡網や第3期指定管理期間で施設ごとに整備した「危機管理マニュアル」に基づき所管課をはじめとして関係各署に連絡・協議・対応していきます。

緊急時の対応【5館一体】

各施設は、利用者や入館者の安全や施設の損害等を最小限に止めるために、事件・事故等の防止及び対応体制等について、職員を指導するとともに、必要な措置を講じます。また、上記と同様に連絡網に基づき所轄の警察署をはじめ関係諸機関に連絡することとします。

災害発生時の対応【5館一体】

災害時発生時については、横浜市「災害対策マニュアル」に沿って、財団「災害対策要綱」及び財団「緊急時地震速報対応行動マニュアル」、財団「火災発生初動対応マニュアル」に基づき対応します。

各施設の館内はモニターにより監視と記録が行われているほか、また地震津波警報機・AEDも設置し、不測の事故に対応していきます。

火災等の防災対応については、毎年防災週間期間中（8月30日～9月5日）には地震発生時の初動対応訓練及び避難誘導実施訓練を行い、防災とボランティア週間中（1月15日～21日）には火災対応の初動対応訓練及び避難誘導訓練の訓練を行います。

施設内の秩序や安全を維持し、事故、盗難、器物損壊等の犯罪及び火災等の発生を防止し、利用者や入館者の安全や財産の保全を図るため、定期的な巡回・警備を徹底しています。また、各施設では不審者などの対策として、あらゆる事態をシミュレーションした訓練を実施していきます。

災害発生時の対応【歴博】

歴史博物館は、「帰宅困難者一時滞在施設」に指定されており、震度5以上の地震が発生し、多数の帰宅困難者の発生が予想されるとき、また長時間にわたる台風や豪雨などによ

り、多数の帰宅困難者が発生したときには、職員が参集していきます。

収蔵資料については、地震により資料が破損する様ないように棚に転倒防止設備や耐震ベルトを設置します。一方、地震や津波に備えるため、都心部と内陸部の施設が資料データを複製して相互に保管する体制を構築します。また、施設が災害を受けた際には、早急に他施設に資料を移管できるようにします。

災害発生時の対応【開港・都発・ユ文】

都市部の各施設は、津波からの避難対象区域に所在することから、随時、津波避難施設への誘導訓練を実施しています。

開港資料館では隣接する神奈川県庁東庁舎との間に令和8年度以降、連絡通路が開設されることから、緊急時の避難誘導先として県庁施設担当者と調整を図ります。

緊急連絡体制【5館一体】

緊急時には、財団本部や全管理職、役員、所管課に連絡が取れるよう緊急連絡網を整備し、参集訓練を定期的に実施していきます。

各施設は、事件・事故等を防止し、及び利用者や入館者の安全や施設の損害等を最小限に止めるために、事件・事故等の防止及び対応体制等について、職員を指導するとともに、必要な措置を講じます。また、上記と同様に連絡網に基づき連絡することとします。

事件・事故等が起きた場合は、各施設の利用者、入館者の安全確保を第一とし、迅速に対応します。災害時にはマニュアルに基づき利用者の避難、誘導、安全確保等を的確に行っていきます。

各施設の利用者、入館者の急な病気、けが等に対応できるよう、特に児童・生徒の安全については、学校関係者と連携し、適切に対応していきます。館内にAEDを設置し、その取扱に習熟するほか、近隣の医療機関等と連携し、緊急時には的確な対応を行います。また、利用者や入館者が重大な事故が起こった場合には、連絡網に基づき横浜市教育委員会をはじめとして関係各署に連絡していきます。

VI 収支予算の方針と計画について

1 利用料金等収入増への取組

基本方針

～新たな収益の増加に向けた取組の加速～

収入については、第3期指定管理期間中に取組を開始した増加策が多くありますが、魅力的かつ市民ニーズを捉えた展覧会の実施、オンライン・オフラインによる講座・講演会の開催、調査研究成果の出版、有料動画の配信等により自主財源を増加させていくとともに、会費収入や寄附金・協賛金の募集拡大や助成金・補助金の積極的な申請により外部資金獲得の多様化を進め自主財源比率向上の目標達成に取組みます。

支出については、予算の一括管理や事務事業の集約化・システム化に取り組み効率的・効果的な予算執行と経費の節減を図っていきます。

具体的な取組

自主財源比率の向上についての考え方【5館一体・支援組織】

第3期指定管理提案書では、10年目となる平成37年（令和7年）時点で自己収入7,100万円と設定しましたが、大型の補助金を除いても7年目の令和4年度には8,500万円、9年目の令和6年度に7,900万円と大きく目標を超える結果となりました。

展覧会観覧料や図録の価格の見直し、クラウドファンディングの実施、寄附金・協賛金・補助金の確保に向けた取組をはじめ、収益の多様化の結果と受け止めています。令和6年度の指定管理委託料と自主財源比率は約8%となっており、今後これを下記の方針に基づき、上記の取組や「II 重点方針について>2 自主財源比率の向上に関する方針と計画」に記載した各取組を通じて向上させていきます。

3年目までに収益事業の拡大や事業経費の捻出に向けたファンドレイジングを推進し、5年目までに安定的な経営を目指した寄附金・協賛金の収入拡大することを実施方針とします。いずれも並走する取組であり、各館にしっかりと浸透、定着させていきます。また、10年目までには、条例改正を前提とした

利用料金の見直しに向けた提案を行うこととし、こうした方針で業務委託経費等の費用の増加をカバーしていきます。

【目標：[指定管理委託料：自主財源比率]】（再掲）

3年：[90：10]

5年：[89：11]

10年：[87：13]



100万円を超える大型のクラウドファンディングの事例も成果が出始めています。（開港資料館・令和6年度）

施設の統制や課題に応じた指定管理委託料・費用の配分

指定管理委託料については、令和6年度より、人件費、管理費（施設維持費）、事業費（資料収集保管事業費、調査研究費）に優先的に配分しています。これにより安定的な施設運営

や来館者のサービスに必要な人材、小破修繕を含めた施設運営費、博物館の要となる資料保管にかかる費用を確保します。また、利用料金、自主事業収入が見込まれる企画展等の事業費については、指定管理委託料の節減に努める考え方としています。

これにより施設の基本的な管理運営やサービス提供、小破修繕によるメンテナンスに必要な予算を配分しています。

指定管理委託料以外に期待される収入

指定管理委託料以外の大きな収入の柱となるのは、展覧会の開催による自主事業収入で、入館料（観覧料）や展覧会図録、関連書籍やグッズの販売収入がそれらに含まれます。

これら以外の収入では、各施設で管理する複製資料（おもにデジタル画像）の貸出による利用料金収入、すでに複数回の実施実績があるクラウドファンディングによる収入、歴史博物館でスタートした会員制度による会費収入、文化庁等の補助金などによる収入が期待されます。いずれも第3期指定管理期間に取組をスタートし、飛躍が期待される取組です。また、収益事業担当を総務課に新設し、各施設のミュージアムショップやカフェなどの一体的な運営など、収益事業の収入増加に繋がる取組を加速します。

収益事業の拡大【歴博・開港・都発・ユ文】

現在収益事業として有料施設ではミュージアムショップを、開港については加えてカフェを所管課に目的外使用許可を申請して運営しています。これらの施設は来館者への良質な体験を提供するだけでなく、自主財源の底上げに大きく貢献している事業です。

開港資料館では拠点計画に基づく事業として補助金を活用し、ミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの複合的な機能を持たせた施設「PORTER'S LODGE」を令和5年7月にオープンしました。開店以降、売上は年々増加し、収入源として成長しています。さらに、従来のミュージアムショップの販売商品とは異なり、拠点計画にもとづいて制作したデジタルアーカイブやデジタル画像を活用した高精細レプリカ浮世絵の販売など、高価格帯の商品のオンデマンド販売を行う新領域の収益事業にも令和7年度から取り組んでいます。

こうしたノウハウや運営や商品制作に協力していただく事業者とともに、10年間の長期の指定管理期間を活かしたかたちで、歴博や都発、ユ文のミュージアムショップ運営を強化し、収益事業のさらなる裾野の拡大を図ります。

利用料金の改定に向けた提案

第4期の指定管理期間に、横浜開港資料館は開館50年、横浜市歴史博物館は開館40年、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館は開館30年を迎えます。これらの有料施設は、開館時の条例制定以来、常設展の観覧料となる利用料金が据え置かれたままとなっています。

低廉な金額によって多くの市民の方に横浜の歴史に関する魅力や情報が伝えられる一方で、各施設の顔であり最新の研究成果等を発信するための常設展リニューアル経費はおろか、日常の維持管理経費に充当する収入としても不足しています。来館者の費用負担を抑えつつ、各館の条例改正をともなう利用料金の改定にむけて、所管課に対して提案をしていきます。

VI 収支予算の方針と計画について

2 指定管理料の収支計画や考え方

基本方針

～将来の予測が困難な時代における予算計画～

第3期指定管理期間後半では、最低賃金の上昇に伴う人件費や、日銀による物価安定目標、ウクライナ危機による世界的な食料・エネルギー価格の上昇を受けた資材費の急激な高騰が続いている。

こうした状況下であっても、公共施設である指定管理5施設の安定的な運営には経費や人材が必要となります。令和7年度予算編成からは指定管理委託料の配分について財団にとって最大の資源である人材を確保する方針を掲げましたが、全体的な支出の削減に向けて、大型の業務委託契約など、抜本的な支出構造の見直しをはじめ、事業計画と連動した予算要求、執行管理方法の再構築を進め、指定管理委託料の圧縮に努めます。

具体的な取組

10年間の収支概要のポイント

第4指定管理期間10年間の収支の考え方は次の通りです。

収入：指定管理委託料以外の利用料金収入、事業収入、その他収入は、令和6年度決算値をベースに、毎年の支出の増加を想定し収入を0.5%ずつ増やしていくことを目標として設定し、それ以外の指定管理委託料を圧縮していく計画です。

支出：管理費、事業費、事務費は、令和7年度予算を据え置きつつ、大型の業務委託に関しては予算編成に与える影響が大きいため、支出構造の見直しを図ります。

事業計画と予算要求制度の再構築

当財団では、第3期指定管理期間の平成30年度より予算要求の仕組みを本格的に導入しました。前年踏襲の事業計画や予算を廃し、真に必要な事業と予算を配分する制度ですが、予算編成時期と計画策定時期がずれるなどの課題があります。

第4期指定管理期間ではこの制度について、事業計画と連動した最適な予算配分が可能となるような仕組みに改善します。

執行状況の常時把握と予算決算の比較の仕組み化

市民の貴重な税金を原資とする指定管理委託料はもちろん、多様な収入も含めた予算について、収入と支出それぞれについて、常時執行状況を把握できるように仕組みを整えます。割り当てられた予算を使い切るといった意識の撤廃や、収入の不足に対して施設や組織を超えてそれを補っていく方策を考えるといった風土を醸成します。

また、計画に基づいて積算した予算と決算の比較を通じ、効率化が図れたもの、予想外に支出が膨らんだものなど、職員がこうした情報を共有する環境を整備し、次年度以降の事業計画や予算作成に反映できる仕組みも整えていきます。

大型業務委託契約等の見直し

現在、指定管理施設では施設の警備や設備管理、清掃、受付やミュージアムショップの運営等について、5年程度の長期の業務委託契約を締結しています。第3期指定管理期間後半では、政府による最低賃金の引き上げや、日銀による物価安定目標を受けて、これらの大型業務委託契約に含まれる人件費や資材費が高騰しています。当財団や受託業者による営業努力により、上昇分を吸収してきました。

今後もこうした傾向は継続していく見通しもあり、サービス品質の向上を図りつつ、仕様の見直しや業務の基準の不要な項目の削除、委託料の低減につながる業者提案機会の設置などをとりまとめ、所管課に提案していきます。

経費節減意識の醸成・徹底

指定管理委託料は横浜市民による納税が原資です。また自主事業収入は来館者や利用者から頂くサービスの対価です。10年間という長期間にわたり、多額の資金とともに指定管理期間を任される当財団としては、予算の執行にあたっては、経費の精査や圧縮を常に意識し、徹底していくとともに、こうした意識の醸成に一体となって取り組みます。

VII その他

1 市の重要施策を踏まえた施設運営への考え方

市の重要施策に関しては、公の施設としての信頼を損なわないよう、財団全体として意識を高め、市の方針を踏まえて適切に対応します。

個人情報の保護

「個人情報保護に関する法律」および「横浜市個人情報の保護に関する条例」の趣旨に則り、財団として個人情報保護規則を制定し、個人情報の取扱いに関して必要な事項を定めています。同規則を順守することにより、必要な範囲を超えた収集や目的外利用の禁止、漏洩や滅失防止のための適正な管理等を徹底していきます。

また、採用時及び定期的に実施する職員研修やコンプライアンス推進委員会の開催等により、財団内の意識啓発にも継続して取り組みます。

情報公開

「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」に準じ、財団として情報公開規則を制定しています。同規則に則って適切に情報公開を行います。合わせて、市民が正確でわかりやすい情報を得られるよう、財団や事業等に関する情報をホームページ等を通じて提供し、公正で透明性の高い施設運営につなげます。

人権尊重

「横浜市人権施策基本指針」の内容を踏まえ、障害のある方への合理的配慮の実施に努めるほか、ユニバーサルデザイン導入の検討等、高齢者やこども、性別、国籍を問わず誰もが気持ちよく利用できる施設の運営を目指します。事業実施にあたっても、常に人権尊重の観点をもってすすめます。

また、相談体制を整えハラスメントのない職場環境をつくるとともに、「横浜市男女共同参画推進条例」に基づく女性の活躍推進、「横浜市カスタマーハラスメント対策基本方針」を参考にしたカスタマーハラスメント対策等、職員にとっても働きやすい施設運営を行います。合わせて、職員の人権意識を高めるため、人権啓発研修を実施します。

環境への配慮

当財団は、脱炭素化に取り組む団体として「横浜市脱炭素取組宣言制度」の宣言事業者となっています。引き続き、日々の業務や施設運営において身近な省エネ活動に取り組むとともに、横浜市が進める ESCO 事業の方針に沿って照明を LED 化し消費電力を削減します。

また、会議は原則、パソコン持込みや資料投影によるペーパーレスでの実施とし、オンライン会議も積極的に取り入れていきます。合わせて、チャット等のデジタルツールの活用により日常的な情報共有においても紙資料を削減していきます。研修の実施等により職員の環境への意識を高め、3R を意識したごみの分別徹底や排出量削減にも取り組みます。

中小企業優先発注

「横浜市中小企業振興基本条例」の趣旨を踏まえ、契約締結方式を問わず、市内中小企業への発注を原則とします。

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 令和6年度事業報告

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

はじめに

令和6年度も引き続き、各施設において積極的な調査研究、普及啓発を行うとともに、施設間や他団体と連携した事業に意欲的に取り組みました。コロナ禍以降に定着した博物館資料のデジタル化や講演会のオンライン配信、SNSを活用した情報発信等のデジタル関連事業を引き続き推進し、動画再生回数やフォロワーの獲得、効果的な広報につなげる等、一定の成果を収めることができました。

第7期の協約目標については、様々な取組の結果、5項目すべてで「達成」または「順調」となっています。

令和7年1月に開館30周年を迎えた歴史博物館では、開館以来の研究成果に関する特別講演会を実施したほか、新動画コンテンツの制作や過去の企画展ポスターを紹介した「ポスター展」の開催、開館30周年記念特別展示開催に向けた準備を進めました。また、寄付・会員制度を通じて歴史博物館をご支援いただく事業として「横浜レキハク・パートナーズ」を立ち上げました。今後、さらに市民や社会のニーズに沿った事業を展開していくための新たな仕組みとして活用していく予定です。

4年目となる開港資料館の文化観光拠点計画では、デジタルアーカイブを作成し、約20万点の資料情報を一元的に閲覧することが可能となりました。旧館整備工事としては、新館と旧館をつなぐバリアフリーの連絡通路付け替え工事等を実施しました。オリジナルグッズの開発等により、ミュージアムショップの売り上げも大きく伸びています。

都市発展記念館・ユーラシア文化館では、空調設備更新工事のため4月～7月の間、休館となりましたが、休館期間を利用して展示室の環境を整備し、都市発展記念館では「河川運河」をテーマとした企画展や関連アウトリーチ展、ユーラシア文化館では横浜市・仁川市パートナー都市協定15周年を記念した韓国服飾関係の特別展を開催しました。

埋蔵文化財センターでは、継続して横浜市等からの発掘調査事業を複数受託し、調査報告書を刊行する等の学術的な成果を挙げるだけでなく、事業収入面でも財団の安定的な経営基盤に大きく寄与しました。

文化庁をはじめとした国庫補助金や協賛金の確保に加え、開港資料館の「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備や「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」等の一部事業へはクラウドファンディングを導入する等、外部資金の確保にも積極的に取り組んでいます。

今後も経営環境の整備とともに、各施設の連携を一層促進することで組織力を強化し、財団一体となってその使命を達成していきます。

I 財団本部事業

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

諸会議の運営や事業調整を実施し、円滑な組織の運営を図るとともに、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を適切に実施しました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	<p>(1) 人材育成を図るための研修</p> <ul style="list-style-type: none">・内部研修個人情報保護研修の実施・外部研修公益法人協会の会計研修、人事労務研修、役員向け研修への参加年末調整、定額減税、算定基礎に関する説明会への参加メンタルヘルス研修、横浜市主催の各研修にオンライン参加 <p>(2) 職員が自らのキャリアパスを意識できる申告制度の実施</p> <p>職員自己申告の実施</p> <p>(3) 役員会議等の諸会議の開催、規則整備</p> <p>役員会議（第1部、第2部） 月2回</p> <p>課長会議 月2回程度</p> <p>担当係長会議 月1回程度</p> <p><主な内容></p> <ul style="list-style-type: none">・人材採用・育成計画について・協約目標（令和6年度～8年度）について・文化庁補助事業について・収支状況について
2	人事労務・財務の管理	<p>(1) 職員の採用、異動等雇用管理</p> <p>(2) 就業規則ほか諸規則の整備及び運用</p> <p>(3) 給与、社会保険、税金関係等</p> <p>(4) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策</p> <p>(5) 職員メンタルヘルスの支援</p> <p>(6) 寄附金・協賛金・クラウドファンディングによる資金獲得の企画調整</p>
3	予算編成と執行管理	<p>(1) 予算要求制度の継続実施</p> <p>(2) 予算編成、執行管理、決算の実施</p>
4	災害対応	<p>(1) 各施設の危機管理マニュアルの見直し</p> <p>(2) 各施設での防災訓練の実施</p>
5	理事会・評議員会の開催	<p>(1) 理事会の開催 年5回（リモートを併用）</p> <p>(2) 評議員会の開催 年3回（書面開催）</p>

		(3) 神奈川県への報告
6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理・委託事業の報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく報告 (3) 課題の共有と迅速な対応を図るための意見交換の実施(毎月)
7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページの管理(情報公開項目の更新等) (2) 財団メルマガ「よこはま歴史かわら版」発行 (3) 提供ラジオ番組「横濱1歴史のタイムマシーン」(マリンFM)の放送 (4) プレスリリース配信システム「PRTIMES」の利用
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器(ソフトウェア等を含む)の更新および保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの円滑な運用
9	事業推進	(1) 事業戦略に係る共通認識の形成 課長会議、管理運営担当係長会議を通じた共通認識の形成 (2) 財団の役割や事業を伝える効果的な広報戦略の実施 (3) 市民協働の推進
10	エデュケーター事業	(1) 学校連携による財団各施設の利用促進 (2) 教職員研修の企画・調整・運営 横浜市教委、小・中社会科研究会、財団が主催する研修 (3) 社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援 (4) 学校から要請のあった訪問授業への対応 ・実施校 183 校、対象児童 15,178 人 (5) 授業コンテンツ動画の制作 ・制作本数 6 本 ・再生回数 134,755 回 (6) 博物館来館校の対応 (7) 子どもの学びのための資料作成

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	公益財団法人として、諸届の事務、業務の調整、諸会議の運営、予算執行管理や人事労務事務等を適切に実施することができました。 エデュケーター事業では、学校への訪問授業を積極的に実施し、協約目標である 120 校を大きく上回る 183 校に対応しました。また、授業コンテンツ動画についても、視聴時に活用できる専用リーフレットを配布する等の工夫により再生回数を 13 万回超まで伸ばすことができました。	A

II 指定管理事業

1 財団全体としての取組及び事業

令和6年度も様々な組織との連携により、幅広い事業を効果的に実施することができました。

都筑区、青葉区の区制30周年を記念して企画展を開催したほか、各区が実施する事業へ講師派遣等の協力を行いました。

横浜美術館のリニューアルオープン記念展への企画協力やワークショップ共同開催、シルク博物館、関東学院大学との協定締結による横浜スカーフ展の企画・監修等、他施設や大学との連携も活発になっています。

企業との取組としては、社屋移転したボッシュ株式会社と関係を構築したほか、「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングに横浜を代表する多数の企業に協力いただき成果をあげることができました。

今後も職員の知識、経験、行動力を集結し、多様な組織と連携しながら、取組を進めていきます。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先	中心となる施設	内 容
区・地域との連携	全区	全管理運営施設	・各管理運営施設の所在区をはじめとして、各区の要請等により、歴史文化に関する助言や執筆活動等による支援を実施
特定テーマや事業を通じた連携	中区	開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま なか区版」の連載記事「なか区歴史の散歩道」に執筆 ・中区職員向け講座への講師派遣
	保土ヶ谷区	埋文センター 歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま ほどがや区版」の連載コラム「保土ヶ谷区のあゆみ～区制 100 周年に向けて～」に執筆
	金沢区	歴史博物館	・「むかし体験」訪問歴史授業を実施
	港北区	歴史博物館 埋文センター	・横浜の遺跡展「発掘された小机城」及び関連イベントの企画・実施で連携 ・「お城 EXPO2024」への参加、小机城発掘成果をパネル展示・動画により紹介 ・小机城跡発掘調査映像の編集 ・区内小学校における小机城址普及業務、小机小学校・城郷小学校の学習成果の掲示 ・区内小学校での出張授業実施
	青葉区	歴史博物館 埋文センター	・青葉区制 30 周年記念事業の史跡ガイドブック制作事業に協力 ・青葉区制 30 周年記念事業への講師等派遣協力および企画展の実施、区役所パネル展の実施 ・勾玉作り教室、遺跡巡りを開催(青葉台コミュニ

			ティハウス、美しが丘西地区センター)
	都筑区	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・広報よこはま都筑区版への連載記事掲載 ・都筑区制30周年記念事業への協力および企画展実施 ・和楽器ワークショップ共催実施 ・都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「丘のよこはま 都筑の谷戸とくらし」と題した都筑区郷土講演会および関連展示を都筑図書館で開催
	栄区	埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> ・栄区地域振興課 横穴墓見学会・勾玉づくり教室等を協働開催 ・栄区郷土資料室入室・受付・案内
市との連携	研修会等	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 市史資料室	<ul style="list-style-type: none"> ・市職員向け講座等の実施 ・区局主催の研修会への協力 ・市新採用職員研修での講話
	市民局	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・広報よこはま全市版の連載原稿「よこはま彩発見」の執筆 ・広報番組TVK「ハマナビ」、FMヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」、ニッポン放送「ようこそ横浜」等への出演
		歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・ニッポン放送「Happy Voice! from YOKOHAMA」内「ハッピーイチ押し情報等への出演
		開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> ・「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」への職員派遣
	賑わいスポーツ文化局	歴史博物館 ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマアートサイト助成事業への協力 ・Live @横浜にスタチューミュージアムで参加
	環境創造局	開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史的建造物（旧太田家住宅）整備に関する有識者懇談会」への職員派遣
	国際局	ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> ・友好都市、パートナーシップ都市などの関連事業で協力。 ・「仁川・横浜交流写真展」開催。
	保土ヶ谷土木事務所	埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> ・保土ヶ谷区「公園愛護会のつどい」への講師派遣
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面教育事務所	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究資料として財団作成資料等を発信 ・歴史博物館「博物館活用研修」の実施 ・教職員研修への協力
	教職員育成課	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・新採用教員への施設年間無料パスを配布

	生涯学習文化財 課	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史博物館「令和6年度横浜市指定登録文化財展」の共同開催 ・文化財総合調査への協力 ・文化財調査への協力(小机城跡埋蔵文化財試掘調査の整理作業および報告書作成・発送業務支援) ・文化財修理協議会への協力 ・遺跡現地説明会への協力(小机城跡発掘調査成果報告会の運営等支援) ・関家住宅公開事業の共催 ・横浜市文化財保存活用地域計画に係る文化庁視察対応 ・小学生向け「昔のくらし」動画の配信 ・歴史博物館「子どもアドベンチャーカレッジ2024」への参加
	都筑図書館	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「丘のよこはま 都筑の谷戸とくらし」と題した都筑区郷土講演会および関連展示を都筑図書館で開催
	中図書館	ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> ・「中区ブックフェスタ」に参加
	栄図書館	埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> ・展示「いたち川流域の横穴墓」で共催
市・区研究会 との連携	社会科研究会 (市・区)	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 ・小学校博物館利用研究会の運営支援 ・中学校教材開発研究会の運営支援
学校との連携	小学校	全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習、社会見学、展示見学の受入 ・学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小学校	埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> ・栄区・金沢区の小学校を対象に出前授業の実施。
	近隣小学校	三殿台考古館	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の地域交流クラブに講師を派遣 ・総合的な学習の時間等への支援
	小学校	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・学校資料室の資料整理及び活用支援
	中学校	歴史博物館 埋文センター 三殿台考古館	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の受け入れ
	神奈川県立高校	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・県立高校インターンシップの受け入れ
	神奈川県高等学 校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会を開催し審査員を派遣
他館等との 連携	神奈川県博物館 協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> ・部会への職員派遣 ・川崎市市民ミュージアムの資料レスキューのため職員を派遣 ・研修会「デジタルアーカイブズの運用と課題」の開催 ・シンポジウム「博物館と学校連携について～博物館の使い方～」の開催

	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> 定例会に職員を派遣
	県立歴史博物館	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会への資料の貸出 展覧会準備や調査研究を目的とした資料熟覧対応 都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業の連携（開港） 調査および講座への協力（間口洞穴調査） 長期休館に伴う資料の長期借用および共同研究の実施
	横浜市技能文化会館	歴史博物館	「横浜芝山漆器一技を伝え、美をつなぐー」展および関連事業実施
	横浜美術館	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会「おかえり、ヨコハマ」への企画協力、図録等執筆、資料の貸出、ワークショップの共同開催
	都筑民家園	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ボッシュホールとの3施設で、今後の連携を図るべく定期的に情報交換会を実施
	(公財)かながわ考古学財団	埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> 講座への講師派遣
	シルク博物館	歴史博物館	関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜スカーフ展「私の、推しスカ」を、企画・監修：KGU横浜スカーフ研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学で実施した。
	古代オリエント博物館・岡山オリエント博物館	ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> Bun Card の共同制作
	仁川広域市立博物館	ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> 「思い出のチマ・チョゴリ」での調査協力、資料出陳
	国立民族学博物館	ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> 企画展開催に向けてのモンゴル関係資料の調査研究
大学との連携	東京大学史料編纂所画像史料解析センター	開港資料館	<ul style="list-style-type: none"> 幕末期に撮影されたガラス板写真の高精細撮影と内容分析および報告書の発行
	関東学院大学	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> 関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜スカーフ展「私の、推しスカ」を、企画・監修：KGU横浜スカーフ研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学で実施した。
	東海大学	歴史博物館 開港資料館	<ul style="list-style-type: none"> 東海大学「地域史演習」への協力 東海大学と協定を締結し、文化財資料の教育活用事業による博物館実習を実施 企画展「君も今日から考古学者」にて所蔵資料展

			示。解説およびワークショップを協働で実施。
昭和女子大学	開港資料館		・生活文化研究専攻によるアーカイブズ実習の受け入れ
神奈川大学	都市発展記念館 埋文センター		・神奈川大学非文字資料研究センターとの連携で河川運河に関する展示を双方で開催 ・エクステンション講座への講師派遣
日本大学	埋文センター		・市内遺跡から出土した動物骨の古DNA分析に関する研究について連携
山形大学	埋文センター		・市内遺跡から出土した遺物の脂質分析による食性解析に関する研究について連携
横浜国立大学	埋文センター 歴史博物館		・大学キャンパスに所在する遺跡及び所蔵遺物に関する助言及び協力 ・シンポジウムへの講師派遣 ・横浜市域北部の地域文化遺産の調査研究及び教育普及活動に関する覚書を都市イノベーション研究院と締結し、以下の事業を実施 ○関家住宅公開事業での展示解説 ○「丘のよこはま」展での模型展示及び講演会の実施
北海道大学	ユーラシア文化館		・オホーツク文化資料の連携調査研究・報告書刊行
学外見学の受け入れ	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館		・大学の博物館課程等、カリキュラムに即した学外見学・実習の受け入れ
市民・関連団体との協働	市民ボランティア	歴史博物館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 三殿台考古館	<p>＜展示解説ボランティア＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説を実施 ・学校団体（6年生）への野外施設1クラス1名でのガイド実施 ・学校団体（3年生）への都筑民家園のガイド実施 <p>＜活動支援ボランティア＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「当日参加型れきし工房」の実施 ・「都ユ開館祭」での衣装試着体験の実施 ・企画展の関連イベントの補助 ・「センター北まつり」等地域行事のイベント補助 <p>＜ガイドボランティア＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土・日・祝日に遺跡・展示室のガイド実施 <p>＜出土品整理作業ボランティア＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三殿台遺跡出土品の整理作業を実施
横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会、記念講演会の開催協力 ・年1回の総会の開催協力 ・協議会News及び会報の発行協力

横浜歴博もりあげ隊との協働	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会の共催・コンサートの共催 ・会報、「つづき人交流フェスタ」等への活動支援
横浜縄文土器づくりの会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の調査研究活動に協力 ・実験考古学講座の指導委託
横浜古文書を読む会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として月2回の講座の開催支援 ・有志による調査研究活動の実施 ・特別講座の共催
横浜古代史料を読む会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・古代史料講読会の開催支援 ・創立20周年講演会の共催
横浜さいかちの会	歴史博物館 埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> ・史料講読講座の開催支援 ・史蹟見学会の開催支援 ・歴史講演会への共催 ・考古学関係研修への協力・講師派遣
スタチューパフオーマンス協会	ユーラシア文化館 開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> ・「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」を実施し、集客と地域の賑わいを創出
遺跡ガイドボランティア及び遺跡整理ボランティア	三殿台考古館 埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡ガイドボランティアによる常設展示、遺跡ガイドを実施 ・ボランティアの協力を得て出土資料や写真の再整理を実施
よこはま縁むすび講中	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・北部4区の(公財)大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野と連携し、実行委員会を組織して実施 ・地域再生大賞優秀賞受賞
よこはま地域文化遺産デビュー・活用実行委員会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁ミュージアムDX助成金を申請
センター中央文化祭	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・「センター中央文化祭」への協力
みなきたマルシェ実行委員会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・「みなきたマルシェ」への協力 ・「歴史未来フェス」の実施委託
横浜シティガイド協会	開港資料館 都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> ・連携ガイドツアーの実施 ・ガイド研修への講師派遣
都筑文化芸術協会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・「つづきジュニアストリングス」への協力 ・「横浜北部 de レジェンドトーク」への協力
きたやまた落語倶楽部	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・「つづき寄席 in 歴博」への共催
紙芝居文化推進協議会	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・「手づくり紙芝居コンクール」に協力 ・「手づくり紙芝居ライブ」共催 <p>※ヨコハマアートサイト助成事業</p>
ロジウラート実行委員会・都筑民家園	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロジウラート2024」に後援 <p>※ヨコハマアートサイト助成事業</p>

つづき地域活動 ホームくさぶ え・つづきアート&ミュージック・ネクスト実行委員会	歴史博物館	・「つづきアート&ミュージック・ネクスト」(テーマ:みんなのまち) 共催
ヨコハマアート サイト事務局	歴史博物館	・ヨコハマアートサイト助成事業への協力
区や地域の郷土 史団体	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・講座、講演会に講師を派遣
横浜商工会議所	開港資料館	・機関誌「Yokohama 商工季報」への寄稿
横浜港振興協会	開港資料館	・機関誌「よこはま港」への寄稿
横浜市防火防災 協会	開港資料館 都市発展記念館	・機関誌「よこはま都市消防」への寄稿
鶴見川流域水協 議会	歴史博物館	・「バクの流域スタンプラリー」開催協力 ・「鶴見川流域学習支援プロジェクト 夢交流会」 共催
日本樹木医会神 奈川県支部 (か ながわ樹木医 会)	開港資料館	・協定にもとづく「たまくすの木」の維持管理に 関する連携 (土壤改良等) ・「たまくすの木」バリアフリーデッキの整備
中区区民利用施 設等	ユーラシア文化館	・「なか区ブックフェスタ」に参加
横浜中華街発展 会	開港資料館 ユーラシア文化館	・「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」 での連携 ・中華街での出張展示の実施
地元商業団体	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・「ハマフェス Y165」に参加し、地域の賑わい創出 に寄与
日本大通りエリ アマネジメント 協議会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・日本大通り周辺の事業所が連携した活性化企画 の実施 ・「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」 の実施 ・「ウィンターイルミネーション」への参加
山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・文化観光ウェブサイト「こい旅横浜」の公開 ・加盟事業者によるイベント等への参加、協力 ・「ハマフェス」実施等についての連絡調整
磯子区館長連絡 会	三殿台考古館	・区内市民利用施設の連携・情報交換 ・「いそっぴGW2024 スタンプラリー」の開催
栄区施設交流会	埋文センター	・区内市民利用施設の連携・情報交換

	青葉区郷土史の会	歴史博物館 埋文センター	・歴史講座・遺跡探訪の講師派遣
	上郷ネオポリス自治会	埋文センター	・上郷ネオポリス夏祭り模擬店出店協力(土器パズル)
	NPO 法人さかえ区民活動支援協会	埋文センター	・上郷地区センターで「埋蔵文化財センター収蔵品紹介展」を開催
企業との連携	横浜マリンFM	全施設	・財団冠番組「横濱 歴史のタイムマシーン」の制作・放送（毎週金曜日放送） ・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力（開港）
	株式会社三陽物産	開港資料館	・第1回ミュージアムグッズデザインコンテストのミュージアムスイーツ部門大賞作品「ロイヤルミルクティーのミルフィーユ」の商品化協力 ・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへの協賛およびリターン商品の協力
	株式会社ありあけ	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへの協賛およびリターン商品の協力
	崎陽軒	開港資料館 都市発展記念館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力 ・企画展「運河に生きる」への協賛
	株式会社 AQUA	開港資料館 都市発展記念館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力 ・企画展「運河に生きる」への協賛
	ホテルニューグランド	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	横浜マリンタワー	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	横浜エクセレンス	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	重慶飯店	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	霧笛楼	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力

タカラダ	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
キャラバンコーヒー	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
タカナシ乳業	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
横浜ビール	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
HARE-TABI SAUNA & INN	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
横濱ハイカラきもの館	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
大川印刷	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
横浜メディアビジネス総合研究所	歴史博物館 都市発展記念館	・企画展前売券の販売協力 ・企業協賛事務局
ボッシュ株式会社	歴史博物館	・新社屋市民利用スペースの活用にむけた検討に協力、所蔵資料の展示
ボッシュホール	歴史博物館	・都筑民家園との3施設で、今後の連携を図るべく定期的に情報交換会を実施 ・「よこはま縁結び講中」パネル展実施
NHK エデュケーションナル	開港資料館 都市発展記念館	・関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施
ローズホテル横浜	ユーラシア文化館	・「ホテル de ミュージアム 横浜中華街歴史回廊」を実施
コーネーテクモゲームス	埋文センター	・埋文センター製作動画「いざ、小机城へ—発掘された調査地をたどる—」への楽曲提供
JR 東日本	三殿台考古館	・JR 東が主催する「駅からハイキング」(共催:磯子区役所) のコースポイントとして協力
その他	相模民俗学会	・特別講演会「循環型社会と景観保全を考える-文化的景観と農業用水の民俗-」(講師:中山正典氏)を共催
	神奈川県考古学会	・神奈川県遺跡調査・研究発表会を共催
	中能登町教育員会	・令和6年能登半島地震に関する銭湯経営者寄進物の被害状況の共同調査

	トルコ大使館	ユーラシア文化館	・トルコ細密画展を共催。
	駐横浜大韓民国総領事館	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力
	神奈川韓国総合教育院	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力、衣装体験協力
	在日大韓民国居留民団	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力、衣装体験協力
	在日本大韓民国婦人会神奈川県地方本部	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力、衣装体験協力
	在日大韓民国基督教団横浜教会	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力
	弥生時代関連 35 遺跡・38 施設	歴史博物館	・「弥生の御朱印巡り 〈全国版〉」への参加協力
	中山恒三郎家	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・「中山恒三郎家」公開事業に共催
	綾瀬市市民環境部生涯学習課	埋文センター	歴史講演会への講師派遣
	三浦一族研究会	埋文センター	史跡めぐりへの講師派遣

2 歴史博物館事業

令和6年度は、前年度に引き続き、利用者の多くを占める学校や団体の利用を促すとともに、講座のアーカイブ配信などコロナ後のニューノーマルを意識した試みを行いました。また、近隣に新たに展開したボッシュ株式会社や都筑区民文化センターなどをはじめ、地域や市民が組織するさまざまな団体と連携して多彩な事業を展開し、地域の活性化や多様性、社会的包摂などの役割を果たす取り組みを進めました。

資料収集では、戸塚区の實方講関係資料、黒須田の豆念佛講資料など、12件を受け入れました。調査研究事業では、基礎資料研究や連携調査研究15本を進め、成果の一部は「仏像入門展」などの企画展や『資料目録』、『紀要』等出版物に反映し、出版物についてはwebで公開しました。

常設展事業では、30周年事業の一環として、従来の歴史劇場番組に代わる、横浜の通史と常設展示室の導入となる新たな番組を制作しました。次年度初めより公開し、小学校6年生の団体見学をはじめ、一般の利用者にもひろく周知につとめていきます。一方で、30年を経過して発生している歴史劇場や展示室内での不具合への対応、設備更新は、引き続き課題として、所管局と共有していきます。

企画展事業は、小学校6年生の歴史の学習に合わせ、アクティブラーニングの手法を取り入れた

企画展「君も今日から考古学者 横浜発掘物語 2024」、ペリー横浜上陸 170 年に関連して、海防にあたった武士に着目した企画展「サムライ Meets ペリー With 黒船—海を守った武士たち」、横浜に胎動した近世禅林にフォーカスし、「寶林寺 東輝庵」を中心に醸成された地域文化を紹介した「寶林寺 東輝庵展」、都筑・青葉両区の 30 周年を記念し、区域の近代の村々の産業、生産物や農政・教育・衛生などを紹介した企画展「丘のよこはま—近代の村の歴史と暮らし—」、同展を引継ぎ、港北ニュータウン開発とそれに伴って実施された大規模発掘調査に焦点を当てた企画展「港北ニュータウン開発と発掘調査」（神奈川県教育委員会との共同主催「かながわの遺跡展 縄文ムラの繁栄—かながわ縄文中期の輝き—」と同時開催）。当館所蔵資料をもとに“仏像”的見かたをわかりやすく解説する企画展「仏像入門展」と「令和 6 年度横浜市指定・登録文化財展」を開催しました。関連事業は、展示を深めるギャラリートークや講演会など、市民の多様な生涯学習のニーズに応える取り組みを進めました。低年齢層の親子でも参加できる「ペリーの似顔絵をかこう・ぬろう」（ペリー展）、寶林寺と協力開催した坐禅ワークショップ（寶林寺展）などの新しい関連事業も試み、好評を得ました。

企画普及事業は、さまざまな団体や市民と連携して、講座・講演会やワークショップのほか、賑わいの創出や多様性、社会的包摂に対応する多彩な自主事業・共催事業を実施しました。昨年度から、みなきたマルシェ実行委員会と協働し、実施している「歴史未来フェス」は 2 日間で約 6,200 人の参加者を得ました。また、1 か月に 1 回、学芸員全員が講座を行う「学芸員講座」、開館 30 年を記念し、これまで博物館に関わった OB がこれまでの研究成果とこれからを展望した特別講演会「横浜 3 万年の歴史の軌跡」を実施しました。学校連携では金沢区小学校のむかし体験の訪問授業、高文連県大会の行動での実施、東海大と連携してのワークショップ開催など、小学校から大学まで多様な連携事業を展開しました。

施設の管理運営では、有料駐車場内の泡消火設備改修工事や、令和 7 年度に実施予定の ESCO 事業（LED 化工事）や ITV 改修工事の準備にあたって、所管局や施工会社と細やかな調整を図り、適切な施工管理に取り組みました。収益事業のうち、ミュージアムショップでは新商品の「はらでぐちくん」ぬいぐるみの販売を開始し、複数のメディアにも取り上げられ、好評を得ているほか、企画展関連のオリジナル商品の開発も行いました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を寄贈・寄託等の方法で収集し、燻蒸を行って分類・整理するとともに、収蔵庫や展示室を適切な温湿度に保ち、保管しました。

本年度の資料収集では、旧家の古文書や民俗資料に加え、「アメリカ舟入着内評書（写）」など企画展をきっかけとした資料受贈の例もありました。實方講資料や豆念仏講資料など、市内の民俗行事にかかる資料の寄贈も受け、一部を開館 30 周年記念特別展で展示する予定です。

（1）資料の収集・管理

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 11 件 1,447 点	主な収集資料：笠木治郎吉画「明治期庶民風俗図」

	購入 2 件 2 点	實方講資料 アメリカ舟入着内評書（写） 黒須田豆念佛講資料 並木家資料（古文書）
資料の整理活用（収集 資料のデータ入力）	1,918 件	図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集 資料の貸出）	13 件 293 点	<p>他機関における展覧会を目的に資料の貸出を行った。</p> <p>①横須賀美術館企画展「驚異の細密表現展—江戸・明治の工芸から現代アートまで—」令和 6 年 4 月 20 日～6 月 23 日 横浜彫刻家具 計 4 点</p> <p>②市原歴史博物館特別展「旅する埴輪—房総の埴輪にみる地域間交流—」令和 6 年 8 月 20 日～令和 7 年 1 月 17 日 北門一号墳出土筒袖表現の人物埴輪全身像 計 1 点</p> <p>③品川区立品川歴史館リニューアル特別記念展「品川の海に御台場ができるまで—日記でひも解く 170 年前の大工事—」令和 6 年 9 月 15 日～12 月 15 日 公郷村永嶋家文書、最戸村笠原家文書 計 3 点</p> <p>④KAAT 神奈川芸術劇場美術展覧会「KAAT EXHIBITION 南条嘉穀展 地中の渦」令和 6 年 9 月 23 日～10 月 20 日 計 26 点</p> <p>⑤真田宝物館特別展示「象山 何者？！」令和 6 年 9 月 25 日～12 月 16 日 佐久間象山関係資料 計 38 点</p> <p>⑥大田区立郷土博物館特別展「矢を放て！」令和 6 年 10 月 8 日～12 月 1 日 花見山遺跡出土 槍 など 計 79 点</p> <p>⑦あつぎ郷土博物館特別展「ドグウ集まれ！」令和 6 年 10 月 12 日～12 月 8 日 大熊中町遺跡出土土偶、原出口遺跡出土土偶 計 4 点</p> <p>⑧横浜スカーフ展「私の、推しスカ」（共催事業、会場はシルク博物館）令和 6 年 11 月 30 日～令和 7 年 1 月 13 日 「横浜輸出スカーフ」計 25 点</p> <p>⑨岩宿博物館企画展「縄文時代の始まりと洞窟遺跡」令和 7 年 1 月 25 日～3 月 9 日 花見山遺跡出土 隆起線文土器など 計 44 点</p> <p>⑩横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかげり、ヨコハマ」令和 7 年 2 月 8 日～6 月 2 日 原出口遺跡出土筒型土偶、拵み絵馬など 計 25 点</p> <p>⑪茨城県立歴史館特別展「雪村—常陸に生まれし遊歴の雪僧—」令和 7 年 2 月 15 日～4 月 6 日 「龍虎図」計</p>

		2点（保管資料） ⑫水子貝塚資料館企画展「縄文文化のはじまり～八ヶ上遺跡全部見せます」令和7年3月15日～6月15日 花見山遺跡出土 隆線文土器など 計36点 ⑬神奈川新聞社創業135周年記念「昭和100年 これで、今日からあなたもヨコハマ通！」令和7年4月16日～4月29日（令和6年度に貸出）カラーテレビ、電気洗濯機など 計6点
資料の整理活用（収集資料の特別利用）	14件	他機関における展覧会のための貸出、および調査研究を目的とした資料の熟覧、撮影等特別利用に対応した。 14件の内訳は考古資料228点、絵画6点、典籍13点、古文書7点、歴史資料102点、民俗資料18点、横浜スカーフ42点、小宮山文庫1点。
資料の整理活用（スカーフ資料の閲覧公開）	4件16点	令和4年度に移管された横浜スカーフ資料を閲覧公開し、本年度は4件16点の画像利用に対応した。
図書資料の公開	3,906件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数815カット 他、行事記録撮影、出張先にても撮影	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影とRAW現像、画像補正などを行った。
画像資料の貸出	貸出件数64件175点	他の博物館や公共機関、出版社、放送局などへの写真資料の貸出を行った。

（2）資料収集中訳（R5.4～R6.3）

※（ ）内は、前年度点数

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵画 (点)	1 (一)	(一)	(一)	(一)	(一)	1,987 (1,986)
工芸品 (点)	(一)	(一)	4 (58)	(一)	4 (58)	194 (190)
彫刻 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	21 (21)
書跡 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	54 (54)
典籍 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	4,709 (4,709)
古文書 (点)	1 (一)	(一)	202 (501)	(2, -1)	203 (502)	37,060 (36,857)
古記録 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	55 (55)
絵図 (点)	(一)	(一)	(一)	(1)	(1)	173 (173)
歴史資料 (点)	(一)	(一)	68 (112)	(一)	68 (112)	19,084 (19,016)

考古資料 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	24,572 (24,572)
民俗資料 (点)	(一)	(一)	1,173 (321)	(一)	1,173 (321)	24,332 (23,159)
図書文献資料 (点)	88 (87)	(一)	1,228 (824)	(一)	1,316 (911)	80,704 (79,388)
合 計	90 (87)	(一)	2,675 (1,816)	(2)	2,764 (1,904)	192,945 (190,180)

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
閲 覧 室 利 用 者 数 (人)	5,968	3,927	7,421
複 写 申 込 件 数 (件)	262	169	314
複 写 枚 数 (枚)	3,185	1,680	3,486
レ フ ア レ ン ス 件 数 (件)	311	246	317

※令和 5 年 10/2～令和 6 年 2/2 工事休館のため休室

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	二酸化炭素燻蒸を 5 月と 1 月に行なった。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。庫内および前室の環境を見直し、清掃方法を確認し、防塵マットの設置・交換を行った。



笠木治郎吉《明治初期風俗図》

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館活動の原資となる調査研究は、（1）基礎資料研究、（2）他施設と連携して行なう連携調査研究、（3）次年度以降の企画展開催に向けた調査研究、（4）資料の基礎整理について、次の通り実施しました。

（1）基礎資料研究

項目	目的・意図
基礎研究	
市域所在の中世資料の調査（2／2年次）	本調査研究では、引き続き市域に所在する中世資料の再確認を実施した。R7年度の企画展「小机城展」（仮）にかかり、港北区小机小学校所在の考古遺物〔中世〕の確認を行った。
市内旧家所蔵資料調査（2／2年次）	市域に所在するおもに近世地方文書の調査・整理を行う。今年度は都筑区の並木家文書、信田家文書の整理を行い、成果を『資料目録』（PDF版）として刊行した。また同じく緑区の苅谷家文書の整理を行った。苅谷家文書については、次年度も整理を継続する予定である。
横浜市域の美術史の基礎的研究（2／2年次）	当館及び財団諸施設また市域の旧家には多くの絵画資料が存在するが、当館では歴史資料としてのみ扱われてきたため見過ごされてきた。これらを美術史の文脈として捉え基礎的データを作成する。本年度は、悉皆調査の終了した浮世絵作品のデータ、屏風、彫刻について新規管理用データベースへ移行を行った。また、館蔵絵画資料の基本情報の追加・修正を行った。
八聖殿資料調査（2／2年次）	横浜市教育委員会からの依頼により、横浜市八聖殿郷土資料館所蔵の民俗資料の整理調査を実施した。
横浜市域の古墳時代資料の研究（2／2年次）	上矢部町富士山古墳出土資料の台帳整理を行った。 また、令和7年度春実施の30周年記念特別展において成果を展示するにあたって図録原稿の作成など準備を行った。
テーマ研究	
大塚遺跡の水田・食糧に関する研究（2／2年次）	水田稻作技術比較研究プロジェクトの構成団体のひとつとして、戸塚区舞岡の水田運営に参加、12月13日に収穫したコメの炊飯実験を実施した。 宮崎県で1月12・13日に実施した、第5回弥生・古墳の水田復元研究会公開シンポジウム『九州における稻作の開始と展開』に参画した。
市内彫刻文化財の研究（2／2年次）	当館所蔵彫刻資料の調査作成を進めた。また、港北区・蓮勝寺諸像のうち、江戸時代の作の調査を行った。
学校内歴史資料室に関する研究（2／2年次）	これまで実施してきた学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用し、資料所在状況等を明らかにするとともに、資料館運営の助言等を行った。
都筑区川和町中山家に関する研究（2／2年次）	中山恒三郎家資料にある「営業簿」について調査研究を行い、内容の検討を進めた。
武州金沢藩米倉家文	令和3年度に実施した企画展「横浜の大名」を契機とし、横浜市域に陣屋を構

書に関する研究 (2／2年次)	えた唯一の大名である米倉家に伝来する古文書の整理・調査を開始した。今年度は、『横浜市史料所在目録』未掲載文書の整理を継続した。
近世横浜の領主支配 に関する研究 (1／2年次)	市内に残る関連資料の所在調査を実施し、未整理文書の整理を行った。その成果を講座で報告した。
市民協働調査研究	
土器の製作・使用に関する実験考古学的研究 (2／2年次)	山形大学の白石哲也准教授・神奈川県立歴史博物館の佐藤兼理学芸員とともに水田稲作技術比較研究プロジェクトの事業として12月13日に舞岡水田で収穫したコメの炊飯実験を実施した。
市民協働古文書整理 解読 (2／2年次)	昨年度に寄贈となった緑区長津田の河原家文書の解読を実施した。昨年度に引き続き、オンライン会議システムを利用してリモートで輪読を行った。解読の成果の一部は、博物館紀要に利用した。
市民協働民俗調査 (2／2年次)	民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを実施したほか、これまでのFWの内容を深める勉強会を2回実施した。 5/4 緑区中山町FW、9/22FW雨天中止・勉強会「鶴見川流域の生業について」於十日市場地区センター、3/30 打合せ会 於横浜市歴史博物館

(2) 連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団の諸施設や他の研究機関と連携して調査研究を実施した。

項目	目的・意図 及び 内容・成果
小机城・小机地域にかかる総合的研究 (4／5年次)	今年度は横浜市教育委員会による小机城発掘調査の成果報告書に、文献資料からみた小机城について執筆した。来年度は学習院大学輔仁会史学部による調査にかかわり、第三京浜道路工事に伴う当時の埋蔵文化財調査について、県の台帳等を調査する。
ユーラシア概念をめぐる研究 (4／5年次)	横浜ユーラシア文化館と適宜研究状況を共有したが、初期の目的はそれぞれの展覧会や普及活動で達成したため本年度をもって終了とした。

(3) 企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
特別展「横浜の文化財 まもり伝える地域の記憶 part1 修復」	展示計画を検討し、広報印刷物の作成に着手した。関連イベントの計画および講師等への依頼を行った。具体的な出陳資料、出陳交渉、輸送計画、展示造作、展示図面との準備を進めた。
特別展「横浜の文化財 まもり伝える地域の記憶 part2 伝承」	特別展 part1 と連携して、展示計画を検討し、広報印刷物の制作に着手した。

企画展「北条幻庵展」（仮）	展示計画を検討し、箱根神社や小田原城天守閣などへ出陳交渉を行った。また関連事業についてもパシフィコ横浜や小田原市文化課と打合せを行った。
令和 8 年度以降企画展調査	令和 8 年度以降の企画展について、基礎調査を行った。

（4）資料の基礎整理

資料収集や調査研究に係わる資料について整理を行った。

	資料群	点数	備考
1	都筑区旧家古文書	198	完了
2	緑区旧家古文書	2, 440	継続
3	都筑区旧家古文書	140	完了
4	海野コレクション	2, 280	継続

このほか、東海大との協働による文化財資料の教育活用事業による博物館実習との連携を行った〔5-（9）参照〕。

（5）紀要の刊行

『横浜市歴史博物館紀要第 29 号』を刊行した。今号は以下を掲載した。なお、紀要是令和 4 年度よりデジタル化し、博物館ホームページにて PDF データを公開している。

論 文 続々・朝光寺原式土器の根源的研究 一横浜市青葉区大場町稻荷前弥生集落址について一

研究ノート 近世後期、旗本知行所における村政運営と村役人一武藏国都筑郡長津田村を事例に一

横浜市栄区・證菩提寺阿弥陀如来及び両脇侍像考

資料紹介 横浜市出土の縄文時代中期土器の顔面装飾 一泉日向遺跡・阿久和宮腰遺跡・青ヶ台貝塚・C17 遺跡例を中心に一

（6）資料目録の刊行

『横浜市歴史博物館資料目録第 34 集』を刊行した。今号は、武藏国都筑郡佐江戸村（現在の横浜市都筑区）の並木家文書・武藏国都筑郡川和村（現在の横浜市都筑区）の信田家文書の目録を掲載した。資料目録は令和 4 年度よりデジタル化し、博物館ホームページにて PDF データを公開している。

（7）調査等への職員派遣

文化財調査等に職員を派遣した。

名称・日程	派遣人数	内 容
横浜市文化財総合調査	2 名	横浜市教育委員会による文化財の総合調査 6/19(水) 宗教法人總持寺(磯子区) 6/26(水) 宗教法人總持寺(磯子区)



市内旧家所蔵資料調査 資料整理のようす

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

今年度上半期は、企画展「君も今日から考古学者！」の関連事業として、スタディサロンと原始I・II・古代ブースに体験型の展示を設置しました。下半期は学校への対応として、吉田新田の展示およびむかしのくらしの展示も実施しました。

吉田新田については、コロナ明けの学校来館を見越して、ボランティアによる吉田新田の学校団体向け解説を再開しました。

歴史劇場については昨年度末に横浜市により既存の映像・舞台装置・音響設備等の撤去を行いました。今年度はこれまでビデオライブラリーで流していた動画を中心に、平日の小学校向け、土・日・祝日の一般向けプログラムを編成し、放映しました。また、既存の映像に代わる新たな動画作成を企画し、横浜の通史と常設展示室のガイダンスを兼ねる約15分間の番組を制作しました。令和7年度から放映プログラムに組み込んで放映する予定です。今後も来館者のニーズをふまえつつ、コンテンツの充実を目指していきます。

（1）保守点検・維持管理

展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検は、近世桜屋模型の照明交換、六浦地形復元装置模型、鶴見寺尾郷装置模型のランプ交換および各装置の動作確認等全体調整1回を実施した。日常の展示資料の清掃は、職員が月2回の頻度で行った。

また小学校団体の公式解説アプリ利用をはたらきかけ、環境整備のためWi-Fiを増設した。

（2）常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行った。

項目	目的・意図 及び 内容・成果
デジタルサイネージの運用	常設展示室で活用しているデジタルサイネージの運用を拡大し、企画展示室での笛吹ボトルと土鈴の音の聴き比べや体験学習室での都筑・青葉30周年記念映像などを上映した。
多言語化解説のコンテンツ（公式解説アプリ）運用	日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語、ドイツ語での多言語解説アプリ「ミューズナビ」を、常設展示室にて運用した。 学校の団体見学での利用を目指して所管課と調整、任意の来館校に依頼して試行したうえで利用可能となった。
常設展示室の展示解説映像	常設展示室で、スタンドアロンで提供していた展示解説映像を解説アプ

のアプリでの運用	リに格納し、来館者各自のスマホやタブレットから視聴できるようにした。
「横浜市歴史博物館クイズ＆ムービー」の提供	スタディサロンでは、来館者のスマホやタブレットで歴史クイズやオリジナルビデオが視聴できる「横浜市歴史博物館クイズ＆ムービー」をアプリにて提供した。
常設展ロビーの活用	常設展ロビーを活用して、11月から小学校4年生の学習単元に合わせたミニ展示「吉田新田」を、1月から小学校3年生の学習単元に合わせたミニ展示「ちょっと昔のくらし」を開催した(ともに3月20日まで)。

(3) 常設展示室観覧者の推移

	有料観覧者(人)					無料観覧者(人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
6年度	13,333	4,003	1,519	2,839	21,694	30,511	52,205	151.6%	301日	173
5年度	7,598	3,008	804	2,770	14,180	20,248	34,428	63.6%	208日	166
4年度	19,349	4,288	1,295	4,335	29,418	24,681	54,099	152.9%	306日	176

※令和5年度はチラー更新工事のため、10/2～2/2まで休館

4 企画展事業 (定款第4条第1項第1号②)

時機に応じた様々な横浜の歴史を取り上げ、また調査研究の成果を踏まえた企画展示を開催しました。ぬりえや坐禅ワークショップなど、展覧会開催時期や展覧会内容に合わせたさまざまな関連事業を実施しました。

(1) 企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「君も今日から考古学者！-横浜発掘物語2024-」 令和6年3月30日(土)～6月23日(日) 会期86日 開館日数74日	一般 500円 高校・大学生 200円 小・中学生/横浜市内在住 65歳以上 100円	16,074人 会期86日 開館日数74日 1日あたり217人	本展は主な観覧者を学校見学に来館する6年生としつつ、展示内容のパッケージ化を目標とし、昨年に引き続き開催した。今回は東海大学との連携により、古代アンデスの笛吹ボトルを展示することで考古学好きの市民の来館促進も目指した。 開館日数74日間で16,074人の観覧者に恵まれた(1日平均217人)。これは5月25日・26日の2日間にかけて実施した「歴史未来フェス」によるところが大きく(期間中来館者6,228人)、地域住民に対しても発掘調査や考古学についてアピールする機会ができた。 今年度は昨年度より多く、体験・WSを行うことを指した。企画展示室内では発掘調査疑似体験ブースの設置、3Dモデル化した人面付土器の観察、土鈴・笛吹

		<p>ボトルの音の聴き比べといった視覚・聴覚・触覚を刺激するプログラムを追加した。昨年度、常設展示室内で展示した「kids 考古学新聞コンクール」は考古資料とより近くなるように企画展示室内に移動した。</p> <p>今年度はガイドブック「弥生人に質問だ！」、ワークブック「冒険の記録」を作成した。ガイドブックは本展第2章を再構成した内容とし、ワークブックはこれまで使用しているワークシートの有料版としてデザインした。さらにワークブックは企画展終了後も使用できるように、常設展示室内に資料を追加して対応した。</p> <p>体験学習室では大塚・歳勝土遺跡と常設展示室原始IIの案内動画を流す会場に加えて、実物の土器片や石器に触る体験・れきし工房の会場とすることで、館内の多くの場所で考古学や発掘調査について見学・学習できるようにした。</p> <p>関連イベント・WSは筒形土偶作り・かやぶき屋根プロジェクト・銅鏡チョコやドッキー(考古スイーツ)といったこれまで実施してきた事業に加えて、復元堅穴住居モンブラン作り・たら製鉄実験・歴史未来フェスでの土器炊飯と試食という新たな取り組みもできた。</p> <p>会期中活動支援ボランティアを募集し、発掘調査疑似体験や体験学習室での土器・石器に触る体験・れきし工房の補助をお願いすることができた。</p> <p>関連事業</p> <p>(1)れきし工房「まがたま・あじろ編み作り」 日時: 4月・5月・6月の土日祝日 (5/25・26、6/2・23の午後を除く) 各日 10:00~12:00、13:30~15:30 会場: 体験学習室 参加費: 無料 (別途「勾玉キット(かつ石)」・「あじろ編みキット(小物入れ)」を購入) 参加者計: 233人</p> <p>(2)発掘調査体験(遺跡を掘ろう!) 日時: 4/13(土)、4/14(日)、4/27(土)、4/28(日)、4/29(月祝)、5/3(金祝)、5/4(土)、5/5(日)、5/6(月祝)、5/18(土)、5/19(日)、6/1(土)、6/2(日)、6/8(土)、6/9(日)、6/15(土)、6/16(日) 各日 10:00~12:00、13:00~15:00 会場: 常設展示室</p>
--	--	--

		<p>参加費：無料（ただし、企画展入場券が必要）</p> <p>参加者計：569名</p> <p>(3)れきし工房「土偶作り」</p> <p>日時：〔成形〕4/20（土）午前の部：9:30～12:00（9人）、午後の部：13:30～16:00（6人）</p> <p>〔野焼き〕5/4（土）</p> <p>会場：大塚・歳勝土遺跡公園内 工房</p> <p>参加費：1,500円</p> <p>(4)スイーツ特集① 春の豊穴住居モンブラン作り</p> <p>日時：5/18（土）13:30～16:00（9名）</p> <p>会場：大塚・歳勝土遺跡公園内 工房</p> <p>参加費：3,000円</p> <p>(5)スイーツ特集② 銅鏡チョコを作ろう！</p> <p>日時：6/8（土）9:30～12:00（3名）</p> <p>会場：大塚・歳勝土遺跡公園内 工房</p> <p>参加費：2,000円</p> <p>(6)スイーツ特集③ ドッキーを作ろう！</p> <p>日時：6/8（土）13:30～16:00（4名）</p> <p>会場：大塚・歳勝土遺跡公園内 工房</p> <p>参加費：1,000円</p> <p>(7)展示解説フロアレクチャー</p> <p>日時：4/21（日）、5/26（日）、6/2（日）各日 11:00～、14:00～（10名、45名、58名）</p> <p>会場：企画展示室</p> <p>参加費：無料（ただし4/21は企画展入場券が必要）</p> <p>(8)大昔の暮らしにせまる① 豊穴住居を直してみよう —かやぶき屋根プロジェクト—</p> <p>日時：〔講習会〕5/11（土）13:30～15:00（全3名） 〔実習〕5/12（日）9:30～15:30</p> <p>会場：〔講習会〕大塚・歳勝土遺跡公園内 工房、〔実習〕大塚遺跡</p> <p>参加費：5,000円</p> <p>(9)大昔の暮らしにせまる② たらら製鉄実験</p> <p>日時：6/15（土）9:00～15:30</p> <p>会場：大塚・歳勝土遺跡公園 体験広場 付近</p> <p>参加費：無料</p> <p>参加者：自由参加のため計測せず</p> <p>(10)土器でごはん（土器で炊飯したお米の試食体験）</p>
--	--	--

				<p>日時:5/25（土）10:00～13:00 会場：大塚・歳勝土遺跡公園 体験広場 付近 参加費：無料 参加者:自由参加のため計測せず (11)大学生と一緒に展示を楽しもう！(東海大学との協働) 日時:①5/31（金）10:00～14:00、②6/2（日）13:00～16:00、③6/21（金）10:00～14:00、④6/23（日）13:00～16:00 会場：体験学習室 参加費：無料 参加者:自由参加のため計測せず (12)古代アンデスの笛吹きボトル展示解説 日時:6/23（日）①11:00～(19名)、②14:00～(33名) (各回30分程度) 会場：企画展示室 参加費：無料（ただし企画展入場券が必要）</p>
企画展「サムライ Meets ペリー With 黒船—海を守った武士たち」 令和6年7月13日～9月1日（日） 会期51日 開館日数44日	一般 1,000円 高大 500円 小中学生、市在住 65歳以上 200円	7,004人 会期51日 開館日数 44日 1日あたり 159人		<p>本展は、ペリー来航に際して、現場で警備を担った武士の視点から新たなペリー来航の様子を紹介する展示であった。ペリー来航に関する展示は、これまで多くの博物館でなされてきたが、本展示では、「海防」を担った武士一人一人に視点を当てた展示構成とした。ペリーを前面に出さずに、あくまでも現場で動いていた日本の武士が体験したペリー来航を紹介する内容としたことで、来館者の感情移入を誘い、ペリー来航に親しみを持たせるように心掛けた。とりわけ、文献資料を中心に構成されるため、絵画資料を多く用いたり、日記や手紙を現代語訳に直したサムライパネルを作るなどして、一般向けに分かりやすくなるように工夫した。また、展示内容をより詳しく知りたい方向けに、特別講演会（1回）・連続講座（3回）を実施した。各回100名近くの参加があり、関心の高さがうかがえた。</p> <p>展示の主なターゲットは一般向けに構成したが、会期中は夏休み期間と重なることもあり、親子連れの来館者にも楽しめるように工夫した。例えば、ワークシート「よく・みて・さがそう！」はペリー来航について学習をしていない小学校低学年向けに用意したもの</p>

である。学びの面を重視しつつゲーム性を持たせたワークシートは親子連れの来館者からはおおむね好評であった。また、エントランスホールで実施した「ペリーの似顔絵をかこう・ぬろう～博物館をペリーの顔でうめつくそう！」は、来館した小・中学生（土曜日を除く）の86.8%が参加し、想定を超える数の似顔絵が集まった。同イベントに参加した小・中学生の観覧料を無料に設定し、親子連れの来館者がお得に見学できる仕組みを構築した。このほか、夜の博物館を懐中電灯を持って見学する親子向けナイトミュージアムを実施し、参加者から好評を賜った。

例年以上に猛暑を記録した年であったが、展示観覧者は7,004人（うち有料3,818人・54.5%、無料3,186人・45.5%）、関連イベント参加者は1,962人となり、幅広い年齢層が来館する結果となった。図録は、40頁/800円（税込み）と、手に取りやすいものを作成し、690冊を売り上げおおむね好評であった。

関連事業

(1) 特別講演会「日本を開国せよ—アメリカの対日開国戦略」8/31（土）14:00～15:30

講師：小風秀雅 氏（お茶の水女子大名誉教授、立正大学人文科学研究所研究員）

会場：横浜市歴史博物館 講堂

参加費：1,000円（※ただし、当日参加者は1,300円）

参加者：125人

(2) 連続講座「海を守った武士たち」

A「横浜・金沢を守った武士たち一小倉藩・松代藩・

金沢藩士の記録を読む一」7/28（日）14:00～15:30

講師：小林紀子（横浜市歴史博物館 主任学芸員）

会場：横浜市歴史博物館 講堂

参加費：500円

参加者：99人

B「本牧を守った武士たち一鳥取藩・松江藩士の記録を読む一」8/4（日）14:00～15:30

講師：仲泉剛（横浜市歴史博物館 学芸員）

会場：横浜市歴史博物館 講堂

参加費：500円（※ただし、当日参加者は800円）

			<p>参加者：89 人</p> <p>C 「絵図から読み解く海防と開港」 8/25（日） 14:00～15:30</p> <p>講師：神谷大介（横浜開港資料館 調査研究員）</p> <p>会場：横浜市歴史博物館 講堂</p> <p>参加費：500 円（※ただし、当日参加者は 800 円）</p> <p>参加者：114 人</p> <p>(3) 展示解説（フロアレクチャー）</p> <p>①7/27（土）、②8/10（土）、③8/24（土） 各日 14:00 より 30 分程度</p> <p>会場：横浜市歴史博物館 企画展示室</p> <p>参加費：無料 ※企画展入場券が必要</p> <p>参加者：①37 人、②34 人、③37 人</p> <p>(4) 親子向けナイトミュージアム 8/17（土） 17:30～19:00</p> <p>会場：横浜市歴史博物館</p> <p>参加費：一般 1,000 円、中学生以下 600 円</p> <p>参加者：7 組、21 名</p> <p>(5) ペリーの似顔絵をかこう・ぬろう</p> <p>受付期間：7/13（土）～8/31（土）</p> <p>会場：横浜市歴史博物館</p> <p>※当イベント参加の小・中学生は企画展・常設展観覧料無料</p> <p>参加者：1,352 名（小中無料適用者：1,038 名）</p> <p>(6) 関連企画「ペリー来航以前の異文化とのあい『絵本 朝鮮通信使』原画展」</p> <p>企画展と同時開催（7/13～9/1）</p> <p>会場：横浜市歴史博物館 常設展示室</p> <p>9/1（日）に以下の関連イベントを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ペリー展に登場するむかしの道具を描こう」 <p>参加費：300 円</p> <p>参加者：2 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『絵本 朝鮮通信使』原画展 展示解説」 <p>参加費：無料 ※ただし、企画展・常設展示室の共通券が必要</p> <p>参加者：37 人</p>
特別展「寶林寺 東輝庵展」	一般 1,000 円	4,504 人 会期 57 日	本特別展は、南区永田北に位置する臨済宗円覚寺派、寶林寺の歴史を所蔵の宝物を中心に紹介する展覧会で

令和 6 年 9 月 14 日 (土) ～11 月 10 日 (日) 会期 57 日 開館日数 50 日	高大 700 円 小中、市在 住 65 歳以 上 500 円	開催日数 50 日 1 日 あた り 90 人	<p>ある。寶林寺の本庵は鎌倉円覚寺内の龍隱庵であり、円覚寺第 102 世大雅省音(応永 26 年(1419)寂)の塔頭として開創され、寶林寺は大雅を開山として、15 世紀頃までには開創された寺院であった。歴住は円覚寺前住が兼ねることが多く寶林寺を隠居寺とし、室町時代に荒廃し一時期無住となるものの、永田村(現・南区)名主服部家の玄庵が開基として堂宇を立て直すもの再び無住となる。</p> <p>その後、18 世紀中頃、近世禅宗史上欠くことのできない「鎌倉禪」の祖といわれる月船禪慧が寶林寺内に東輝庵を営むこととなる。そこには、鎌倉・円覚寺中興の祖といわれる誠拙周権や仙厓義梵、峨山慈棹、物先海旭といった名だたる禪僧たちが集い、永田村は東輝庵を中心に地域との交流が生まれ、文化的土壤が醸成されていった。永田の地は月船の号にちなみ「武渓」と呼ばれ、この地の文化を「武渓文化」といい近接の保土ヶ谷宿周辺をふくめた文化・文芸を牽引する場となっていった。本展では、横浜・永田の地に華開いた禪文化にふれるとともに近世禪林の源流を作品とともにたどるものとした。</p> <p>展覧会で説明しきれない内容については、図録を作成し図版と共に担当者による論考を掲載し二次的な理解を誘導するようにした。</p> <p>関連事業では、①特別講演会、②連続講演会、③ギャラリートーク、④ワークショップ、⑤歴史さんぽを実施した。</p> <p>① は会期初日に臨済宗円覚寺派管長、横田南嶺氏を招き、基調講演をしていただいた。②は禪画、頂相絵画、彫刻と各会にテーマを設け実施した。③は土曜日に展覧会全体の見どころ、平日に作品の一点解説を行った。④は展覧会出陳の水墨画で描かれた禪画に親しみを持ってもらうため、水墨画の日本画ワークショップを行なった。そして講演会日に合わせて、「東輝庵」特別御朱印を寶林寺の協力のもと受け付けた。また寶林寺を会場に座禅ワークショップを実施した。⑤は保土ヶ谷宿から宝林寺まであるき、地域の歴史文化を再発見してもらう歴史さんぽを実施した。</p> <p>3. 関連イベント</p>
--	--	----------------------------------	---

<p>① 特別講演会 「鎌倉の禅」</p> <p>登壇者： 臨済宗円覚寺派管長 横田南嶺 老師</p> <p>日時： 9/14(土) 14 時～15 時 30 分(開場 13:30)</p> <p>会場： 横浜市歴史博物館 講堂</p> <p>参加費： 1,000 円</p> <p>参加人数 94 名</p> <p>② 連続講演会</p> <p>(1) 「かわいい禅画」</p> <p>講師： 矢島新(跡見学園女子大学教授)</p> <p>日程： 10/5 (土)</p> <p>参加人数 49 名</p> <p>(2) 「円覚寺の仏像と寶林寺」</p> <p>講師： 花澤明優美(横浜市歴史博物館 学芸員)</p> <p>日程： 10/19 (土)</p> <p>参加人数 55 名</p> <p>(3) 「近世禅林の祖師像—描かれた祖師のすがた—」</p> <p>講師： 志水一行(妙心寺派宗務本所特別研究員)</p> <p>日程： 10/26(土)</p> <p>参加人数 26 名</p> <p>* 【各回共通】</p> <p>時間： 14：30～16：00(開場:14：00)</p> <p>会場： 横浜市歴史博物館 講堂</p> <p>定員： 各回 170 名</p> <p>参加費： 各回 600 円</p> <p>③ ギャラリートーク① (担当学芸員による展覧会の見どころを解説)</p> <p>日時： 9/21(土)22 名、10/12(土)21 名、10/20(日)32 名 14 時～ 40 分程度</p> <p>会場： 横浜市歴史博物館 企画展示室</p> <p>参加費： 無料 *要特別展入場券</p> <p>ギャラリートーク② (出品作品 1 点をじっくり解説します。)</p> <p>日時： 9/27(金)13 名、10/18(金)23 名、11/1(金)16 名 14 時～ 40 分程度</p> <p>会場： 横浜市歴史博物館 企画展示室</p> <p>参加費： 無料 *要特別展入場券</p> <p>合計 127 名</p>

				<p>④ ワークショップ</p> <p>① 「日本画ワークショップ」</p> <p>墨と胡粉を使って、日本画を描いてみよう</p> <p>講師： 今西彩子(鎌倉市鎌木清方記念美術館 学芸員)</p> <p>日程： 10/14(月・祝)</p> <p>時間： (1)10:30～12:00 15名 (2)14:00～15:30 17名</p> <p>場所： 体験学習室</p> <p>参加費： 900円</p> <p>②坐禅ワークショップ</p> <p>寶林寺住職による禅トークと坐禅を体験</p> <p>日程： (1)9/28(土) 18名、(2)10/13(日) 17名、(3)10/31(木) 14名</p> <p>時間： 各回：13:30～ 2時間程度(開場 13:30)</p> <p>場所： 寶林寺</p> <p>参禅費： 1,500円(企画展招待券付き)</p> <p>⑤ 歴史さんぽ「保土ヶ谷宿と寶林寺をあるく」</p> <p>講師： 小林紀子・(横浜市歴史博物館 主任学芸員)、仲泉剛(同 学芸員)</p> <p>日時： (1)11/2(土) 19名、(2)11/8(金) 19名</p> <p>参加費： 500円</p>
企画展「青葉・都筑区制 30th 丘のよこはま—近代の村の歴史とくらし」 令和6年11月23日(土)～12月15日(日) 会期23日 開館日数20日	一般 500円 高大 300円 小中、市在 住65歳以上 100円	2,853人 会期23日 開館日数 20日 一日平均 143人		<p>青葉区・都筑区の区制30周年を記念し、明治22年(1889)より両区域に誕生した近代の村について資料をもとに紹介した。両区域には田奈村・中里村・山内村・中川村・都田村のおもに5ヶ村があり、それぞれ江戸時代までの複数村を合わせて成立していた。村名はたとえば恩田と長津田の「田」と、奈良の「奈」をとつて「田奈村」としたように創作したもので、現在も駅名や町名・学校名等につながっている。</p> <p>これら近代の村では、戸籍作成や地租改正などを行うとともに、郡農会や村農会を通じて農作物の品種改良や栽培法の改良に取り組んで産業を興し、耕地整理を行って増産や効率化に務め、総じて地域を豊かにして貯蓄を増やし、また学校を整備して就学率を上げ、さらに地域の防疫や防災に務めるなど、およそ近代に行われた事業や改革のほとんどを担っていった。なかで</p>

			<p>も野菜や果物の栽培は盛んで、もともと横浜開港以後に西洋野菜の需要に対応したことをきっかけに、東京近郊の宅地化で都市部に近いこの地域の野菜や果物が都市部へ販売されるようになっていった。中川村のタケノコ、都田村のイチゴやメロン、モモ、山内村のビール麦、田奈村や中里村の甘柿など、村々は競い合って特産品を生み出していった。本展ではこれら近代の村の誕生と、各村の農会による農産物の生産や出荷、ビール会社との契約や他地域への共同販売などについて、資料を紹介し解説した。</p> <p>〈関連事業〉</p> <p>①講演会</p> <p>1) 11月30日(土) 横浜の茅葺建築 参加者 42人 講師：大野敏氏(横浜国立大学教授)</p> <p>2) 12月7日(土) 都筑の丘の農業前史-聖農から農会へ 参加者 57人 講師：相澤雅雄氏(地域史研究家)</p> <p>※1)・2)共 会場：博物館講堂、参加費：600円</p> <p>②横浜国立大学大野敏教授ゼミナール制作・国指定重要文化財「閑家住宅」(都筑区)の「主屋軸組模型」の公開および解説 ・実施日：11月30日(土)13:00～ 参加費 無料 参加者 17人、会場：博物館体験学習室</p> <p>③フロアレクチャー(展示解説) 実施日：a)12月1日(日)14:00、b)12月8日(日)11:00、 c)12月14日 14:00 会場：博物館企画展示室 参加費 無料 参加者：a)12月1日(日)・29人、b)12月8日(日)・ 37人、c)12月14日・35人</p> <p>④展示図録の制作 A4版、28頁、フルカラー、中綴じ、400部刊行 会期中販売数：305冊</p> <p>⑤その他：内覧会には青葉・都筑両区長、区連長を招き、総勢26人が参加した。</p>
企画展「港北ニュータウン開発と発掘調査」 令和6年12月24日	一般・大学 300円 令和6年12月24日	4,635人 会期34日 開館日数 23日	本展は都筑区・青葉区30周年記念「丘のよこはま」展から一部引き継ぐ形で実施し、港北ニュータウン開発とそれに伴って実施された大規模発掘調査(港北ニュータウン遺跡群)に焦点を当てた。

(火)～令和7年1月26日(日) 会期34日 開館日数23日	下・市内在住65歳以下は無料	一日平均 201人	<p>また、令和7年1月31日が横浜市歴史博物館開館30周年となっていることから、こちらについても言及する展示構成とした。</p> <p>同時開催として、神奈川県教育委員会と共同主催のかながわの遺跡展「縄文ムラの繁栄 -かながわ縄文中期の輝き -」を実施した。かながわの遺跡展では神奈川県内の縄文時代中期遺跡から出土した優品を展示したため、同時開催を強く押し出すために、本展でも港北ニュータウン遺跡群の縄文時代中期遺跡とその出土遺物の中でも優品を中心に展示した。</p> <p>本展は港北ニュータウン遺跡出土の縄文時代中期の優品を見学できるだけではなく、発掘調査の経緯について展示ができた。また、横浜北部地域および港北ニュータウンの開発に関わる書類や資料、今とは様子が異なる景観写真を合わせて展示することで、観覧者が展示資料の来歴や開発行為と発掘調査の関係をとおして文化財保護について考える機会を作ることができた。</p> <p>関連事業</p> <p>(1)展示解説プロアレクチャー</p> <p>日時:1/19(日)、1/26(日) 各日 11:00～、14:00～ 1/19AM57人、PM41人 1/26AM95人、PM131人</p> <p>会場:企画展示室</p> <p>参加費:無料(ただし企画展入場券が必要)</p>
企画展「仏像入門展」 令和7年2月8日 (土)～3月16日 (日) 会期36日 開館日数32日	一般 500円 高大 400円 小中、市在 住65歳以 上 300円	5,193人 会期36日 開館日数 32日 一日平均 162人	<p>「令和6年度 横浜市指定・登録文化財展」の開催にあわせて、当館所蔵資料をもとに、近年新指定がつづく“仏像”的見かたを小学6年生以上向けに解説した。本展では仏像を鑑賞するポイントのひとつとして、「尊種」と「材質・構造」を取り上げた。第一、二章では基本的な尊種と、広く“仏像”と呼ばれる彫刻作品の種類を紹介し、第三章では仏像の大半を占める木彫を例に、どのように造られているのか解説したうえで、実際の修理事例を紹介した。</p> <p>また、展示内容をベースに、寺院にも手軽に持っていくサイズの「横浜市歴史博物館仏像鑑賞ガイド」を作成した。</p> <p>関連事業</p> <p>1 ワークショップ:仏像パズルで学ぼう!仏像はど</p>

			<p>うやってできているの？</p> <p>日時：①2/16（日）②2/24（月振）③3/9（日）、各日 13:30～14:30 会場：体験学習室・企画展示室</p> <p>参加費：無料（ただし企画展入場券が必要） 参加人数：①20人②24人③14人</p> <p>2 ギャラリートーク</p> <p>日時：①2/22（土）②3/2（日）、各日 14:00～ 会場：企画展示室 参加費：無料（ただし企画展入場券が必要） 参加人数：①40人②77人</p>
令和 6 年度横浜市指定・登録文化財展 令和 7 年 2 月 8 日（土）～3 月 16 日（日） 会期 36 日 開館日数 32 日	一般 500 円 高大 400 円 小中、市在 住 65 歳以上 300 円	5,193 人 会期 36 日 開館日数 32 日 一日平均 162 人	<p>令和 6 年度横浜市指定・登録文化財展では、新指定文化財の紹介とともに、本年度認定された横浜市文化財保存活用地域計画について紹介した。新指定の「木造釈迦如来および右脇侍像」（東漸寺）は静謐な空間に、また「仏遺教経」（大本山總持寺）は全紙を展示した。プレ展示とし、横浜市役所 1 階展示スペース B を会場に 1/22～1/28 までパネル展を開催した。</p> <p>(1) 講演会</p> <p>①「文化財はどのように守られているのか—修復・保存の実例をもとに—」 講師：星野玲子氏（横浜市文化財保護審議会委員、鶴見大学教授） 開催日 3/1（土） 参加者：61 名</p> <p>②「寺院資料から読み解く横浜の歴史」 講師：西岡芳文氏（横浜市文化財保護審議会委員、上智大学特任教授） 開催日 3/8（土） 参加者：91 名</p> <p>※各回共通 時間： 14:00～15:30 会場：横浜市歴史博物館講堂</p>
「横浜市歴史博物館 展覧会ポスター展」 令和 7 年 1 月 31 日（金）～9 月 7 日（日）	観覧無料		<p>開館 30 周年を記念し、開館以来の企画展・特別展のポスターを展示した。</p> <p>会場：2 階廊下</p>



企画展「君も今日から考古学者」東海大連携笛吹ボトルWS



企画展「君も今日から考古学者」東海大連携笛吹ボトルWS



特別展「寶林寺東輝庵展」坐禅 WS



企画展「仏像入門展」ギャラリートーク

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者 (人)					無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
6 年度	9,520	3,748	756	954	14,978	25,075	40,053	150.0%	240 日	167
5 年度	4,813	3,218	375	465	8,871	17,818	26,689	62.3%	166 日	161
4 年度	14,142	3,227	732	1,918	20,159	22,669	42,828	154.2%	269 日	159

5 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらう各種の歴史講座やワークショップ、またコンサートやアートイベントなどの事業を、市民や地域のさまざまな団体と連携して実施しました。ボランティアへの研修プログラムの充実を図り、展示関係のレクチャーや教養講座などに取り組みました。また都筑区と協力し、都筑区制30周年記念事業を実施しました。

(1) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
民俗学講演会（共催） 5/19（日）	41人	相模民俗学会と共に景観と生業をテーマとした講演会を開催した

		<p>演題：「循環型社会と景観保全を考える—文化的景観と農業用水の民俗—」 講師：中山 正典氏（静岡県立農林環境専門職大学客員教授・ 静岡県民俗学会会長） 会場：講堂 参加料：無料</p>
街頭紙芝居デビュー講座 6/15, 29, 7/6, 20, 27, 8/3, 24, 25	5人	街頭紙芝居の歴史や魅力を伝え、その文化を継承する担い手を育成する、座学と実演による講座を実施した。会場：研修室他 参加料：5,000円
横浜古代史料を読む会 20周年記念講演会（共催） 7/7（日）、8/18（日）	7/7 128人 8/18 105人	横浜古代史料を読む会に共催して、創立20周年記念講演会を開催した。 7/7 演題「蝦夷と古代国家」 講師：佐藤信（当館館長） 8/18 演題「古代の王権国家と出雲」 講師：平野卓治（日本大学教授） 会場：講堂 参加料：500円
横浜さいかちの会 中世史講座（共催） 9/4（水）	50人	横浜さいかちの会に共催して、中世史講座を開催した。 演題「中世経塚と信仰」 講師：青木豊氏（鎌倉歴史文化交流館館長） 会場：講堂 参加料：500円
横浜歴博もりあげ隊 歴史講演会（共催） 12/8（日）	136人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「一帝二后～平安朝のおキサキ事情？！」 講師：仁藤智子氏（国士館大学教授） 会場：講堂 参加料：600円
横浜古文書を読む会 特別講座（共催） 8/2（金）	86人	横浜古文書を読む会に共催して、特別講座を開催した。 演題：「伊勢参宮道中日記にみえる庶民の旅」 講師：石山秀和氏（立正大が鶴文学部教授） 会場：講堂 参加料：会員無料、一般500円
横浜北部 de レジェンドトーク（協力） 1/12（日）	60人	NPO 法人都筑文化芸術協会に協力して、講演会「横浜北部 de レジェンドトーク」を開催した。 演題「横浜から見た渋沢栄一の人生」 講師：木村昌人氏（渋沢栄一記念財団研究部長） 会場：講堂 参加料：1000円
はじめての古文書 1/24（金）～3/14（金） 毎週金曜日 全8回	各回33人	横浜市域の資料を用いた、初心者向けの古文書入門講座を開催した。また録画した映像によるアーカイブ配信を実施した。 受講生21名が、「横浜古文書を読む会」に加入了 参加料：5,000円
実験考古学講座 「縄文土器づくり」	14人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルとし、都筑区内で採取した粘土と砂を材料にして、土練

2/2(日)～3/15(土) 全4回		り、成形、施文、野焼きの4工程を経て縄文土器を制作した。 2/2・15・16、3/15 実施 14名 参加料：5,000円 会場：工房・遺跡公園体験広場
バレンタインデー特別企画 銅鏡チョコを作ろう！ 2/9（日）	4人	日吉矢上遺跡出土青銅鏡の雌型を食用シリコンで作成し、チョコレートを錫と見立てて、青銅鏡の踏み返し技法について学ぶ講座を開催した。 会場：工房 参加料：2,000円
開館30周年記念講演会 2/1（土）	178人	博物館の開館30周年を記念し、リレー形式で5名の講師による講演と、2名のコメンテーターを交えたディスカッションからなる講演会を開催した。
ホワイトデー特別企画 ドッキーを作ろう！ 3/9（日）	8人	横浜市内出土の本物の縄文土器片を観察して作り方を学んだ上で本物そっくりに作る土器片クッキー（ドッキー）を作る講座を開催した。 会場：工房 参加料：1,000円
第47回神奈川県遺跡調査・研究発表会 1/19（日）	95人	神奈川県考古学会に共催し、神奈川県の遺跡調査・研究発表会を開催した。 会場：講堂 参加料：無料
講師等派遣		各区や地域の郷土史団体等の講座・講演会等に職員を派遣した。 4/27(土)「弥生時代の稻作について」柿生郷土資料館 6/20(木)「太田道灌と両上杉氏の抗争」玉縄城址まちづくり会議 6/24(月)「江戸の暮らしについて」NHK学園 7/25(火)「2023年横濱シニア大学」都筑区老人クラブ連合会 7/31(月)「青葉のあゆみ歴史講演会2024」青葉区郷土史の会 9/18(水)「私たちの住む街都筑」シニア楽農園の会 9/21(土)「鶴見の寺院」鶴見歴史の会 9/10(火)「江戸時代の古文書を読む」金沢区生涯学習「うみねこ」 10/12(土)「鶴見川の水運」鶴見歴史の会 11/10(日)「橘樹に隣接する都筑の古代」宮前市民館 11/28(火)「ペリー来航と横浜の大名」品川歴史館 12/2(土)「神奈川の浦島伝説」横浜市立大学 12/10(火)「創造される歴史と人々が紡ぐ歴史」明星大学 12/12(木)「博物館の情報発信をめぐり」成城大学 2/8(土)「博物館と学校連携について～博物館の使い方～」神奈川県博物館協会 2/22(土)「鎌倉末から室町時代の港南区」港南歴史協議会

		2/26(水)「かがやきクラブ都筑第16回歴史講座 谷戸にくらす」都筑区老人クラブ連合会 3/1(土)「博物館と教育現場との連携」小田原市郷土文化館
--	--	---

- このほか、神奈川県博物館協会、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会、横浜郷土史団体連絡協議会に職員を派遣し、定例の会議への参加、研修会等の開催などに協力した。



実験考古学講座「縄文土器づくり」成形



「街頭紙芝居デビュー講座」

(2) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
当日参加型れきし工房 まがたま（滑石） あじろ編み (7日14回)	58人	滑石 白 500円 滑石 ピンク 550円 あじろ編み 小物入れ 500円	ミュージアムショップでオリジナルキットを購入し、活動支援ボランティアのサポートを受けながら、まがたまづくり・あじろ編み小物入れの体験ができる事業。7月以降、原則最終土曜日に実施。 7/27(土) 5人 8/31(土) 7人 9/22(土) 13人 10/26(土) 3人 1/25(土) 18人 2/22(土) 6人 3/29(土) 6人 参加者合計 58人 会場：体験学習室、工房
事前申込れきし工房 (年度通算2日3回)	8人	3,500円	小学生から大人を対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを遺跡公園内の工房にて開催した。今年度は万祝染を実施した。 万祝染 8/2(土)、8/3(日) 8人
体験広場 野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、会が制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/4(土)、11/16(土)、3/15(土)

(3) 集客イベント等

項目	開催日	参加者数	事業内容
----	-----	------	------

ラストサタデープログラム おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終土曜日及び 5/27・28 (計13日)	1,762人	当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、毎月最終土曜日と歴史未来フェスにおいて複製紙芝居の実演を実施した (1日当たり5~6回) 会場：歴史劇場・エントランスホール・ノースポートモールなど
バックヤードツアーワーク	2/22(土) (1日1回)	8人	学芸員の案内で博物館のバックヤードを見学するとともに、実物資料を間近で見たり触れたりするツアーを開催した。 2/22(土) 8人

(4) 地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、後援事業、受託事業等）

項目	開催日	事業内容
みなきたマルシェ	毎月最終土曜日	みなきたマルシェ実行委員会に協力し、毎月最終土曜日（ラストサタデー）に、シンボルロードと博物館コロネードで「みなきたマルシェ」を開催した。
バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー2024	4/27(土)～10/31(木)	鶴見川流域ネットワーキングに協力し、鶴見川流域に所在する生涯学習施設等をめぐるスタンプラリーに参加した
金沢区委託 「むかし体験」歴史授業		「むかし体験」歴史授業 合計868人 資料館授業5校 266人 訪問授業 8校 602人 ※詳細は5(9)参照
港北区委託 小机城址教育普及業務		小机城址映像制作及び城郷小への訪問授業並びに小机小・城郷小の学習成果物の展示 ※詳細は5(9)参照
つづき寄席 in 歴博	6/9(日) 11/4(月祝)	きたやまた落語俱楽部に共催し、都筑区が後援、北山田地区センター・北山田町内会が協力する「つづき寄席 in 歴博」を当館講堂で実施した。参加者6/9:174名、11/4:151名。
つづきジュニアストリングス	7/24(水)・25(木)・26(金) 31(水)・8/1(木)	NPO法人都筑文化芸術協会に協力し、都筑区内の児童生徒を対象にした弦楽オーケストラ講座を開催した。 参加料5,000円 参加者42人 ※子どもゆめ基金助成事業
子どもアドベンチャー カレッジ	8/6(火)	横浜市教育委員会が主催する「子どもアドベンチャー カレッジ2024」に参加し、小学生向けにバックヤードの見学や博物館資料を見学するワークショップを実施した。 参加料：無料 参加者：8人
手作り紙芝居コンクール	8/10(土)～1/26	紙芝居文化推進協議会が開催する「手作り紙芝居コンクール」

ル	(日)	ール」に協力し、特別賞として歴史博物館賞を設けたほか、広報の連携を行った。※ヨコハマアートサイト 2024助成事業
センター中央文化祭	10/19 (土)	センター中央文化祭実行委員会に協力し、センター中央文化祭の実施に協力した
横浜歴博もりあげ隊バロックコンサート	11/17 (日)	横浜歴博もりあげ隊に共催して、「バロックコンサート in 歴博 2024」を開催した。 演奏：湘南バロック・アンサンブル 参加料：300円 参加者：132人
ロジウラート 2024	12/1 (日)	都筑民家園を会場にしたアートプログラム「ロジウラート 2024」(ロジウラート実行委員会・都筑民家園主催)に協力した。※ヨコハマアートサイト 2024助成事業 参加者620名
手作り紙芝居ライブ	1/26 (日)	紙芝居文化推進協議会に共催し、手作り紙芝居コンクールの受賞作を中心とした「手作り紙芝居ライブ」を当館エントランスホールで開催した。参加者 83 名。
鶴見川流域夢交流会・鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰式の開催	2/11(火祝)13:30～16:00	鶴見川流域水協議会及び鶴見川流域ネットワーキングに共催・連携し、鶴見川流域の学習成果を発表する「鶴見川流域夢交流会」と、鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰式を開催した。参加者 60 名。
都筑図書館及び都筑区役所共催展示及び講座	2/26 (火)～3/16 (日)	都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「丘のよこはま—都筑の地名と近代の村—」と題した展示及び3/16 (日)に「丘のよこはま—谷戸とくらしー」をテーマに都筑区郷土講演会を都筑図書館で開催した。講演会には48名が参加した。
つづきアート&ミュージック・ネクスト第8章 ずうーつとつながれみんなのまち	3/1～4(土～火)	つづき地域活動ホームくさぶえ・つづきアート&ミュージック・ネクスト実行委員会に共催し、「子どもも大人も障害のある人もアートとミュージックでつながつていこう！」をコンセプトとした「つづきアート&ミュージック・ネクスト」を当館エントランスホール及び講堂で開催した。延べ来場者534名

(5) 歴史未来フェス

センター北の開港記念日前後の中心となるイベントとして、地域で活動する諸団体による「街の文化祭」と位置づけ、5月 24・25 日（土日）に入館無料で開催した。2日間で 6千人以上の来館者があり、新たに定着させるべき催しとなった。

来館者合計 6,228 人

5/25 (土) 2,767 人、5/26 (日) 3,461 人

開催場所	プログラム
歴史劇場	・劇団かかし座による影絵上演（6/2・3）
エントランスホール外 (コロネード)	・つづきブックカフェ
常設展示室	・スポーツ土器パズル ・展示室 de 間違い探し
エントランスホール	・横浜ビー・コルセアーズ選手パネル展示 ・ライブペイント　・DJ タイム　・ストリートピアノ ・PR（みなきたグッズ、つづきたいちゃん、BOSCH） ・物販・ワークショップ（かたるべ会） ・パネル展示（未来へ残したい格言、都筑区制 30 周年） ・参加型ゴスペル　・お囃子 ・B-ROSE ユースパフォーマンス　・ボールペン絵画教室 ・参加型ダブルダッチ　・ピアノライブ演奏
スロープ	・都筑の街の歴史パネル
休憩室	モヤキラ CAFE
企画展示室	・君も今日から考古学者 2024
2F ろう下パネル展	・デザインフェス
講堂	・ダンスコンテスト ・音楽パフォーマンス ・ミュージカル「君も今日から考古学者！」
体験学習室	・あじろあみワークショップ
大塚・歳勝土遺跡公園	・みなきたマルシェ ・土器ごはん
工房	・ワークショップ（みんなのバザール、メイドインつづき）
都筑民家園	・着物体験（まち biz 着物同好会） ・笛のコンサート ・竹細工



歴史未来フェス みなきたマルシェ



歴史未来フェス エントランスのようす

(6) アウトリーチ

本年度は、これまで行ってきたアウトリーチ事業に加え、他施設の展示監修など新たな事業を実施した。

講座名称/開催日	参加者数	事 業 内 容
関家住宅の公開（共催） 11/23（土）	157 人	横浜市教育委員会に共催し、重要文化財「関家住宅」の内部公開を行った。当館と開港資料館の財団専門職員が解説を行ったほか、今年度より横浜国立大学の協力を得、同大学の学生による解説も行った。
中山恒三郎家の公開 10/27（日）	556 人	（有）松林園に共催し、横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開を行った。開港資料館・都市発展記念館の財団施設のほか、「都筑をガイドする会」・「川和小学校ふれあい郷土館」・「川和町内会」等と連携して、書院、諸味蔵、店蔵、麴室、八号機を公開し、書院については内部見学、諸味蔵では民俗資料と整理作業の見学を実施した。
横浜スカーフ資料の展示会開催	11/30（土）～ 1/13（月祝）	関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜輸出スカーフ展「私の推しスカ」を実施した。 企画・監修：KGU横浜スカーフ研究プロジェクト 会場：シルク博物館 共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学
お城EXPO2024への参加 12/21（土）～22（日）		お城エキスポ実行委員会が主催する「お城 EXPO2024」に港北区役所及び埋蔵文化財センターと協力して出展し、横浜市域の中世城郭の普及・啓発、及び御城印の販売などを行った。
令和 6 年度横浜市指定・登録文化財パネル展 1/22（水）～1/28（火）		横浜市役所 1 階展示スペース B を会場に 1/22～1/28 まで開催した。2/8 から当館で行う文化財展のプレ展示とし、大型バナーを用いて、本年度指定の文化財や近年修理が行われた文化財を紹介した。

横浜技能文化会館収蔵品展「横浜芝山漆器—技を伝え、美をつなぐ—」の監修		横浜技能文化会館から委託を受け、収蔵品展の監修を行った。 会期：令和7年1月25日～2月22日 また会期中の講演「横浜芝山漆器—技を伝え、美をつなぐ—」にて講師もつとめた。 監修・講師：小林光一郎（当館学芸員）
-------------------------------------	--	--



関家住宅公開 横国大連携 事前見学



お城 EXPO 2024

(7) かやぶき屋根プロジェクト

大塚・歳勝土遺跡公園内にある堅穴住居について、定期的・長期的なメンテナンスを行うため、「材料である茅の確保から自分たちでできる修繕まで」を目標として平成29年度から事業を継続している。

令和6年度は、5/11(土)に企画展「君も今日から考古学者！-横浜発掘物語 2024-」の関連事業として実施した（4-（1）を参照）。また横浜市のクラウドファンディング型ふるさと納税に関してかやぶき屋根プロジェクトで作成した絵本を返礼品として提供し協力した。

(8) ボランティアの活動支援

項目	事業内容
展示解説ボランティア	<p>市民ボランティアによる小中学校団体及び一般来館者への、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドは、8月の屋外ガイド中止（猛暑対策）としたが、屋内の常設展示室で毎日2回のワンポイント解説を開始し、好評を得た。</p> <p>① ガイド登録者数：86人 ② 基本ガイド時間 遺跡公園 小学校6年団体 約45分間 常設展 見学者の要望に応じて実施 ワンポイント解説 11:00と13:30の2回実施</p> <p>※活動実績は後述</p>
活動支援ボランティア	昨年度に引き続き、感染対策をしつつ安全に実施する当日参加型れきし工房の補助のほか、「君も今日から考古学者」展の関連事業やセンター北まつりにもご協力いただいた。

	<p>①登録者数：32人</p> <p>②活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・れきし工房 まがたま（滑石）・あじろ編み小物入れ 4～6月 毎週土日祝日 計27日 活動55人 7～3月 原則最終土曜日 計6日 活動21人 ・土器や石器にさわろう！ 4月 12日間 活動26人 5月 17日間 活動26人 6月 11日間 活動17人 7月 8日間 活動11人 ・発掘体験 4月6日（土）、13日（土）、14日（日）、27日（土）、28日（日）、29日（月） 5月3日（金）、4日（土）、5日（日）、6日（月）、18日（土）、19日（日） 6月1日（土）、2日（日）、8日（土）、9日（日）、15日（土）、16日（日） 計18日 活動32人 ・歴史未来フェス 5/25～26：活動9人 ・センター北まつり 3/22・23：活動11人 合計208人 ・ほか、ユーラシア文化館「思い出のチマ・チョゴリ」展の衣装体験、都市発展記念館・ユーラシア文化館開館祭のサポートを行った。
ボランティア総会の実施	展示解説ボランティアおよび活動支援ボランティアの合同のボランティア総会を、上半期分として9月5日に実施し、下半期分として3月15日に実施した。
ボランティア研修の実施	<p>全11種類の研修を行った。久しぶりに制限のない形（複数校受入れ）での遺跡公園展示解説が再開されるため、ガイドポイントを再確認するための研修を年度初めに開催したり、秋口には小学4年生向け常設展示室吉田新田解説研修を行い、実践的な研修を通して学校対応に備えた。さらに企画展ごとにボランティア向け解説を聞く研修を必ず設け、学芸員らの専門に触れる機会を提供了。</p> <p>4/11・6/28 遺跡公園ガイドポイント 講師：橋口豊 参加者30名 5/15 民俗講演会「横浜周辺の天然製氷」（横浜さいかちの会協働講演会） 講師：刈田均副館長 参加者：38名 5/19 民俗学講演会「循環型社会と景観保全を考える—文化的景観と農業用水の民俗—」（相模民俗学会講演会） 講師：中山正典氏（静岡県立農林環境専門職大学客員教授・静岡県民俗学会会長）※相模民俗学会共催事業 参加者12名 7/15・18 企画展「サムライ Meets ペリー With 黒船」展示解説を聞く 講師：仲泉剛学芸員 参加者37名</p>

<p>9/5 講演会「南武藏の古代役所」講師：佐藤信館長 参加者 52 名</p> <p>9/10・13 小学4年生向け常設展示室吉田新田解説研修 講師；小林紀子学芸員、仲泉剛学芸員、エデュケーター先生 参加者:49名</p> <p>9/25・10/4 特別展「寶林寺 東輝庵展 横浜の禅一近世禅林のルーツ」展示解説を聞く 講師：吉井大門学芸員 参加者:38名</p> <p>11/13 小学校3年生向け民家園解説 講師：大竹貴子先生（エデュケーター） 参加者:16名</p> <p>12/1・8・14 企画展「丘のよこはま」展示解説を聞く 講師：阿諱訪青美学芸員 参加者:44名</p> <p>1/13・18・19・26 企画展「かながわの遺跡展・港北ニュータウン開発と発掘調査」展示解説を聞く 講師：神奈川県埋文センター渡辺千尋氏、橋口豊学芸員 参加者:31名</p> <p>2/27 企画展「仏像入門展・令和6年度横浜市指定・登録文化財展」展示解説を聞く 講師：花澤明優美学芸員 参加者:23名</p>
--



ガイドボランティア ワンポイント解説



活動支援ボランティア センター北まつり

展示解説ボランティア活動実績

項 目	令和6年度		令和5年度		令和4年度	
	常設	遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡
活 動 実 績	ガイ ド 実 施 日 数 (日)	304	252	183	146	305
	解 説 回 数 (回)	820	528	304	367	461
	1 日 平 均 解 説 回 数 (回)	2.7	2.1	1.1	1.9	1.5
	参 加 者 数 (人)	5,768	9,855	2,167	6,434	8,916
	団 体 対 応 (件)	131	167	40	213	211
	団 体 の う ち 学 校 数 (校)	105	105	111	101	52

(9) 学校連携事業の実施

今年度は、学校団体見学の受入れについては、5月8日からの新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校数・展示室内人数・昼食場所利用人数の制限を解除し、学校からの見学希望にできる

だけ添えるよう対応した。小学校4年の「吉田新田」や小学校3年の「昔のくらし」の訪問授業、金沢区から委託を受けた訪問授業は引き続き実施した。小学校6年では、博物館見学事前訪問授業に加え、横浜市教育委員会生涯学習文化財課と連携した「埋蔵文化財訪問授業」を実施した。さらに、小学校3年の「昔のくらし」の授業の資料となる動画コンテンツの作成、配信を行った。

なお今年度は、工事休館のため中学校社会科研究会の展示及び発表会は見送った。

事業名／開催日	事業内容等
6年生向け訪問授業 「博物館見学事前訪問授業」 36校 2,975人	高田東小56人、綱島東小85人、洋光台第三小49人、四季の森小29人、東品濃小83人、帷子小46人、鶴ヶ峯小99人、平安小102人、汲沢小89人、茅ヶ崎台小121人、川井小66人、南山田小107人、岸谷小77人、勝田小136人、本郷台小86人、港南台第二小63人、日吉南小124人、相武山小90人、元街小78人、永田小100人、美しが丘小83人、南小89人、奈良の丘小61人、南神大寺小41人、つづきの丘小67人、万騎が原小71人、西寺尾小66人、港南台第三小44人、芹が谷南小47人、黒須田小93人、駒林小99人、森の台小115人、あざみ野第二小94人、長津田小145人、恩田小84人、鴨居小90人
6年生向け訪問授業 「埋蔵文財訪問授業」 28校 2,074人	永野小93人、上星川小92人、上寺尾小94人、釜利谷東小63人、六つ川小57人、大道小53人、十日市場小101人、牛久保小84人、川和東小158人、釜利谷南小54人、中尾小41人、港南台第三小44人、大曾根小147人、恩田小84人、上瀬谷小62人、飯島小86人、深谷小38人、平戸台小43人、大豆戸小84人、稻荷台小67人、平沼小104人、篠原西小102人、桜井小50人、元石川小68人、入船小32人、若葉台小67人、瀬谷小37人、荏田東第一小69人
6年生向け訪問授業 「歴史学習」 2校 236人	新井小49人、子安小187人
6年生向け訪問授業 「舞錐式火おこし体験」 2校 138人	下和泉小71人、稻荷台小67人
6年生向け訪問授業 「横浜の開港について」 1校 98人	永野小98人 ※横浜開港資料館講堂で実施
「吉田新田の開発」 4年生向け訪問授業 延べ66校 5,028人 ※上瀬谷小は3回、山元小は2回実施 ※桜井小は学級閉鎖対応のため2日にわたって実施	山元小①49人、瀬谷さくら小66人、さわの里小49人、港南台第一小81人、菊名小146人、洋光台第一小91人、四季の森小14人、洋光台第三小43人、さちが丘小116人、牛久保小83人、元石川小68人、奈良の丘小57人、新吉田第二小101人、倉田小69人、藤が丘小88人、大和市立引地台小52人、山元小②49人、東山田小75人、緑園学園146人、川和東小142人、別所小108人、太田小57人、梅林小74人、西富岡小60人、不動丸小122人、さわの里

	小49人、鎌倉市立関谷小62人、丸山台小46人、西富岡小30人、保土ヶ谷小42人、浅間台小45人、港南台第三小42人、新井小38人、屏風浦小115人、竹山小23人、山田小69人、上瀬谷小①59人、中和田南小52人、桜井小35人、茅ヶ崎小165人、荏田西小164人、並木中央小59人、下郷小78人、桜井小35人、六つ川小63人、上瀬谷小②59人、上瀬谷小③59人、一本松小46人、上菅田笹の丘小156人、中山小108人、希望ヶ丘小87人、城郷小117人、岸谷小75人、南本宿小68人、飯島小71人、藤塚小43人、上飯田小72人、都田西小139人、浜小106人、戸部小67人、篠原西小97人、境木小76人、いぶき野小110人、深谷小34人、笹野台小83人、舞岡小78人
「吉田新田の開発」 4年生向け 現地解説 延べ4校 300人 ※緑園学園は2日にわたって実施	緑園学園 89人、緑園学園 58人、保土ヶ谷小47人、浜小106人
「昔の暮らしと市の広がり」 3年生向け訪問授業 延べ18校 1,379人 ※末吉小は2日にわたって実施	大道小23人、平戸台小39人、日吉南小110人、篠原小109人、平安小97人、平沼小106人、二つ橋小80人、大豆戸小104人、平戸小108人、つづきの丘小56人、万騎が原小67人、末吉小31人、末吉小62人、洋光台第三小35人、あざみ野第二小88人、深谷小31人、森の台小118人、中和田小115人
「昔の暮らしと市の広がり ～七輪での炭の火おこし体験」 3年生向け訪問授業 4校 251人	美しが丘小71人、奈良の丘小57人、西富岡小84人、平戸台小39人
開港記念日講話 3校 1,480人	いずみ野小358人、新吉田第二小 439人、東本郷小 683人
「廻り地蔵について」 年中行事 4年生向け訪問授業 1校 139人	都田西小 139人、
学校資料室への訪問授業等 延べ2校 112人 ※2日にわたって実施	市ヶ尾小56人、市ヶ尾小56人（鉄小郷土資料室にて実施）
金沢区委託 「むかし体験」歴史授業（再掲） 資料館授業5校 266人 訪問授業 8校 602人 合計 868人	大道小での資料館授業 大道小 56人、文庫小 65人、高舟台小 56人、六浦小60人、朝比奈小 29人 訪問授業 西柴小 113人、西金沢学園 70人、並木中央小42人、小田小104人、金沢小 76人、西富岡小84人、能見台小 65人、並木第一小 48人

港北区委託 小机城址の教育普及業務（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・城郷小学校 3年生及び6年生への訪問授業 3年生 5/28 小机城紹介・アニメ「小机の重政」上映・クイズ 5/30 小机城址市民の森での現地解説・紙芝居実演 6年生 9/30 小机城紹介・「小机城どうかん歴史がたり」上映 10/2 小机城址市民の森での現地解説・紙芝居実演 ・小机小学校、城郷小学校の学習成果物の展示 令和7年2月8日～3月15日 博物館エントランスホール
総合学習 「学校資料館を整理しよう」 6年生向け訪問授業 延べ2校 64名 ※2回実施	川上北小①32人、川上北小②32人
総合学習「伝統行事」 5年生向け訪問授業1校 36人	東品濃小 38人
中学校「職業講話」 1校	中学校1年生を対象に学芸員の仕事について講演した。 11/29 中川西中
動画コンテンツの作成・配信	<p>3年生「昔の暮らしと市の広がり」に関連した動画の作成 「昭和の暮らしと道具」 「道具の紹介」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫（氷冷蔵庫）・ちゃんぶだい・かや・テレビ（白黒テレビ） ・電話機（ダイヤル式黒電話） <p>12月に横浜市立小学3年生、横浜国立大学付属横浜小学校全員に紹介リーフレット配付</p> <p>※神奈川県小学校社会科研究会会長校・部長校、横浜市内私立小学校、にも10部ずつ配布。</p> <p>12月中旬より動画配信開始、横浜市歴史博物館ホームページに動画のリンクを掲載した。3月末までの動画視聴回数 130,000回以上</p>
横浜市教育委員会博物館活用研修への協力	7月26日に市立学校教職員を対象にした博物館活用研修を実施し、収蔵資料を活用した研修を行った。
教職員対象の研修 延べ「吉田新田」研修会70人、 区小学校社会科研究会46人、 ハマアップ研修会57人、 その他の研修18人	<p>7月31日に「吉田新田の開発」研修会を実施した。午前・午後の部で計70名の参加があった。</p> <p>横浜市教育委員会ハマアップからの要請により研修会を行った。</p> <p>10月16日 西部ハマアップ「吉田新田の開発」21人 10月23日 南部ハマアップ「吉田新田の開発」23人 12月11日 西部ハマアップ「昔の暮らし」13人</p> <p>区小学校社会科研究会からの要請により、「地域の史跡」の研修会を行った。</p> <p>6月12日 瀬谷区15人、8月31日 戸塚区31人 4年「吉田新田の開発」の研修を行った。</p>

	<p>さちが丘小3人（学校訪問）、山元小2人（歴史博物館来館） 学校に訪問し、研修を行った。</p> <p>「開港記念講話」東信濃小1人、東本郷小2人 「地域の遺跡」新井小7人 6年「火おこし体験」3人</p>
横浜市立中学校社会科研究会	中学校社会科作品展を常設展示室内にて実施し、12月14日には発表会を開催した。作品展会期：12月14日～1月13日。
神奈川県高等学校文化連盟	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県社会科研究発表大会を実施し、審査員を派遣した。 大会：11月10日 会場：横浜市歴史博物館講堂
東海大学と博物館の協働による文化財資料の教育活用事業	博物館が整理を進めている伊藤宏見旧蔵資料群のうち掛軸を対象とし資料整理の実習を実施した。当該資料群の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、文化財資料の活用事業に関与することで、地域博物館の文化創造や地域社会における文化財資料の活用に係る新たな「学びの場」の創出をめざす活動を実施した。 実施日は6/4(火)〔資料整理実習〕
東海大学地域史演習の受入	東海大学からの依頼を受け、地域史演習を当館で実施した。 2/14（金）
大学からの博物館見学の受入	学芸員課程等の大学専門科目の一環として博物館見学を受け入れた。 5/8 日本大学通信学部・松蔭大学、6/9 神奈川大学、6/22 國學院大學、6/23 成城大学、7/6 清泉女子大学、7/13 相模女子大学、8/2 玉川大学、8/3・8/10 日本女子大学、1/9 田園調布大学、2/14 東海大学
学校団体の博物館見学申込新システムの導入	学校からの見学申し込みの利便性を高め、保守費用の削減を図る学校見学予約システムに刷新し、2月から令和7年度学校見学予約申込みについての運用を開始した。



高文連 社会科研究発表大会



東海大学連携 資料整理実習

学校団体利用の推移

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
学校数(校)	174	142	159

うち小・中学校利用数

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
学校数(校)	141	131	125
児童・生徒数(人)	12,927	10,132	10,175

(10) 関連団体との協働事業

市民と共に歩む博物館を目指して、当館主催の講座受講者OBで組織した「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体、及び博物館への支援と協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」との協働事業を実施した。

項目	事業内容
「横浜古文書を読む会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> 原則として毎月2回の講座の開催 有志による「下読み会」の実施。 緑区河原家文書の解読を行った。 特別講座の実施 8/2(金) 演題：「伊勢参宮道中日記にみえる庶民の旅」 講師：石山秀和氏（立正大が鶴文学部教授） 会場：講堂 参加料：会員無料、一般500円 参加者：86人
「横浜古代史料を読む会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> 横浜古代史料を読む会 20周年記念講演会（共催） 7/7、8/18 『続日本紀』講読講座の開催 講師：平野卓治氏（日本大学教授） 7/23、8/27、9/10、11/19、2/11、3/18
「横浜縄文土器づくりの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> 2/2・16・17、3/15 実験講座土器づくり教室 3/9 ドッキーを作ろう！ 土器づくりの会土器制作は年間3回 4/6・7、9/7・8、1/18・19 5/4、11/16、3/15 土器づくりの会制作土器の野焼き
「横浜さいかちの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> さいかち古代史料講読講座（『日本書紀』講読） 4/16、8/20、10/22、12/17、2/18、3/12 講演会「横浜周辺の天然製氷」 5/15（水）講師：刈田均（当館副館長） 参加者44人 ※展示解説ボランティア研修を兼ねる 中世史講座「中世経塚と信仰」 9/4（水）講師：青木豊氏（鎌倉歴史文化交流館館長）

	<p>参加料：500 円 参加者：50 人</p>
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサート「バロック・コンサート in 歴博 2024」11/17 (日) 演奏：湘南バロック・アンサンブル 会場：当館講堂 参加料：300 円 参加者：132 人 ・歴史講演会の実施 12/8 (日) 演題：「一帝二后～平安朝のおキサキ事情？！」 講師：仁藤智子氏（国士館大学教授） 会場：当館講堂 参加料：600 円 参加者 136 人 ・つづき人交流フェスタへの参加 2/27 (木)～3/2 (日) 都筑区役所 博物館の紹介展示、チラシ配布、缶バッジワークショップなど 二次元コードを利用した博物館アンケートの実施

(11) 実習・研修の受け入れ

博物館館務実習は、5F 収蔵庫棚増設工事やチラー交換工事による休館のため実施を見送った。

項目	事業内容
フェリス女学院大学インターンシップの受け入れ	フェリス女学院大学キャリア実習として学生を受け入れる予定であったが、都合により中止となった。
高校インターンシップの受入	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館に興味を持つ県立高校生徒のインターンシップを受け入れた。8/6～9 5名 ・聖心女子大学付属高校 7/28 1名 ・日々輝学園 2年生 10/30・11/1 2名
中学校職場体験の受入	<ul style="list-style-type: none"> 南中学校 6/28 3名 鶴ヶ峰中学校 9/12 2名 栗田谷中 10/31 3名 あかね台中 11/28 2名 鷗友学園中 12/17 1名

(12) 広報広聴

項目	事業内容
広報	<p>展覧会や各種催し物についての広報を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種チケットサービスを利用しての前売券販売による PR ・当館ウェブサイト、SNSによる広報、情報発信 ・館外情報サイトへの情報提供 ・広報誌「博物館 NEWS」の発行 ・全国博物館施設、市内公共施設、学校、関係機関に向けた広報 ・マスコミ各社への情報提供

	<ul style="list-style-type: none"> ・リリース配信サービス会社との年間契約による継続的発信 ・博物館近隣の広報案内看板への掲示 ・センター北駅1番出口広告掲示板（8ヶ所）への掲示 ・広報よこはま等の市広報誌への情報掲載 ・新聞・ラジオ・雑誌等マスコミやSNSへの有料広告 ・ラジオ番組への番組コーナー提供 ・センター北まつりでのPR
市民ニーズの把握	企画展アンケートをウェブフォームで実施
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、また財団他施設での講演会等の受講生募集にあたって、インターネットを利用した催事申込システムを運用した。
リーフレット類作成	歴史博物館催し物案内（年2回） 横浜市新規転入者向け案内チラシ

(13) 出版

博物館ニュースは57号を刊行した。資料目録、紀要についてはpdfによりweb公開を行った。

項目	事業内容
出版物発行	<p>横浜市歴史博物館ニュースNo.57号</p> <p>横浜市歴史博物館資料目録 第33集 PDFデータ公開</p> <p>横浜市歴史博物館紀要 第29号 PDFデータ公開</p>

(14) よこはま縁むすび講中（定款第4条第1項第1号②）

よこはま縁むすび講中は、かつて港北区だった横浜北部4区（港北・緑・青葉・都筑）の地域文化遺産をつなぐ取り組みとして、当館が中核館となり、（公財）大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野の各団体が連携した。

項目	事業内容
かやぶき屋根プロジェクト	横浜市歴史博物館が企画し、5/11(土)に企画展の関連事業として実施した。また横浜市のクラウドファンディング型ふるさと納税に関してかやぶき屋根プロジェクトで作成した絵本を返礼品として提供し協力した。
ポスター展の実施 3/14～4/30	ボッシュホールのこけら落としに合わせてホール内廊下にて、よこはま縁むすび講中の活動報告のためのポスター展を実施した。

6 開館30周年事業

当館は令和7年（2025）1月31日に開館30周年を迎え、同年を開館30周年イヤーと位置づけて、

記念事業を実施します。

今年度は、常設展示室では歴史劇場の新たな動画コンテンツを制作しました。企画展では、都筑・青葉区区制30周年の記念展を実施しました（4 企画展事業（定款第4条第1項第1号②）を参照）。また2階廊下にて、開館以来の企画展ポスターを一堂に会した「ポスター展」を開催しました。普及事業では特別講演会「横浜3万年の歴史の軌跡」を実施しました。また、新たな寄附会員制度「レキハクパートナーズ」を整えました。特別展など来年度以降の事業については、実施に向けて準備を進めました。

項目	内容
歴史劇場の新コンテンツ制作	開館以来の調査研究・企画展などの成果を反映した、横浜の通史と常設展示室のガイドを兼ねた新動画コンテンツ「レックルとめぐるヨコハマ歴史旅行」を制作した。
ポスター展の実施	開館30年を記念し、開館時から現在までの企画展のポスターを展示了。会期は1月31日～9月7日。
特別講演会「横浜3万年の歴史の軌跡」	博物館準備室時代・開館時のメンバーおよび元館長などOBを講師として招き、考古・古代・中世・近世・近現代各時代の開館来の研究成果について講演いただき、博物館のこれからについて語っていただいた。
30周年記念展示事業	令和7年4～6月実施予定の横浜の文化財をテーマとした記念展示part1について、展示内容を確定し、借用交渉や写真撮影、広報印刷物や図録制作、会場レイアウト検討など実施に向けた作業を進めた。6～7月実施のpart2についても展示資料の確定作業などを進めた。
収蔵資料のデータベース公開	収蔵資料のデジタル化を進め、公開について助成金の申請を行った。
収益事業	新たなオリジナルグッズ「はらでぐちくんぬいぐるみ」を制作し、販売を開始した。
レキハクパートナーズ	これからの活動の充実化と財源の多様化、博物館のサポーターを増やす等の目的で、新たな寄附会員制度「レキハクパートナーズ」の制度を整え、募集を開始した。



30周年特別講演会「横浜三万年の軌跡」



ポスター展

7 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。また事業に用いるPC及びプロッターを更新しました。

項目	事業内容
収蔵資料等データ入力	図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 データ入力件数 1,918 件
映像資料の公開	常設展示室内で利用者のモバイル端末を用いたクイズや、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」をについて、利用の促進を図った。常設展示室内の展示解説映像を、公式解説アプリで利用者各自の端末から視聴できるようにした。 公式 YouTube チャンネルにおいて小学校3年生向けのむかしの道具をテーマとした動画を新たに6タイトル制作し、計35タイトルを公開した。再生回数 134,755 回（3月まで）
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信や、サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス（セッション）数 244,024 件
X（旧ツイッター）等SNSを利用した博物館の情報発信	X（旧ツイッター）を利用した博物館展示情報や解説、催し物など多岐にわたる活動情報を発信し、フォロワーが1万人を超えた。またNOTEによる情報発信を試行した。 ツイート数 271 フォロワー数 10,810（5月14日現在）
デジタルアーカイブの公開	小宮山博史氏コレクションの「日本語活字見本帳」をデジタル化した「文字のかたちのデータベース 仮名字形一覧」はweb上で、横浜スカーフアーカイブは図書閲覧室での公開を継続した。

8 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。歴史博物館は竣工から30年余り、野外施設も開園から29年が経過し、施設の経年劣化が進む中、日常の点検監視と保全を行い、所管局への連絡と情報共有を徹底しました。本年度は、施設の長寿命化に向けたITV（監視カメラ）更新工事の設計や泡消火設備の修繕、大塚遺跡の環濠柵列の交換等について、業者との工程確認・調整を進めて、完了しました。

（1）来館者対応業務

受託業者との連絡・情報共有を徹底し、一般利用者や学校団体等の来館者が安心して気持ちよく利用できる対応を進めた。

事業名／開催日	事業内容等
受付案内サービス	利用者の利便性向上を図り、引き続き観覧料金及びミュージアムショップの決済手段として現金のほか、クレジットカードや交通系ICカードに対応している。

（2）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕 ＜主な修繕等＞ <ul style="list-style-type: none">ITV更新工事設計（建築局）泡消火設備修繕（市教委）加圧給水ポンプ電源ユニット交換大塚・歳勝土遺跡公園 環濠柵列交換（市教委）

（3）講堂・研修室利用の推移

項目		令和6年度	令和5年度	令和4年度
講堂	利用者数（人）	7,477	4,844	4,937
	利用件数（件）	86	61	59
	うち有料貸出件数（件）	42	20	28
研修室	利用者数（人）	3,229	3,092	1,509
	利用件数（件）	94	123	86
	うち有料貸出件数（件）	77	76	53

（4）歴史博物館野外施設入場者の推移

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
歴史博物館野外施設（人）	39,997	37,973	40,966

内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	34,127	32,054	39,142
	工 房 (人)	5,870	5,919	1,100

9 収益事業（定款第4条第1項第2号）

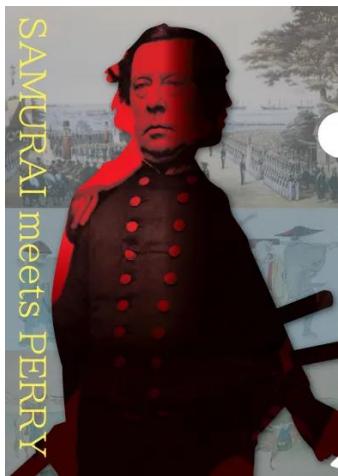
ミュージアムショップ、駐車場、館内の自動販売機設置による収益事業を行いました。

ミュージアムショップでは企画展ごとに関連書籍を揃えたほか、ライト層にも楽しめるようなグッズを充実させました。オリジナルクリアファイルやバッグを制作したほか、その他委託商品も多種取り揃えました。また、オンラインショップでも、取扱商品を充実させました。

駐車場は遺跡公園利用者の利便性向上を図るため、博物館休館日も営業しました。

（1）ミュージアムショップ

- 企画展「サムライ meets ペリー with 黒船」ではオリジナルクリアファイルを制作し、図録とのセット販売を行ったほか、横浜開港資料館刊行の関連書籍などを揃えた。会期中のショップ売上は239万円余りであった。
- 特別展「寶林寺東輝庵展」ではオリジナルトートバッグ制作し、図録とのセット販売を行ったほか、禅関係のグッズ、宝林寺境内の土を使った陶器等委託販売商品を揃えた。会期中のショップ売上は239万円余りであった。
- 仏像入門展では、ポケットサイズで持ち運びできる「仏像鑑賞ガイド」を制作した。



企画展「サムライ meets ペリー with 黒船」
オリジナルクリアファイル



特別展「寶林寺東輝庵展」
図録とオリジナルトートバッグ



企画展「仏像入門展」
仏像鑑賞ガイド

（2）駐車場

来館者の利便性を図るべく、歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。

駐車場管理会社に委託し、キャッシュレス決済が利用できるコインパーキングとした。大塚・歳勝土遺跡公園利用者の利便性向上のため、博物館休館日の営業を引き続き行った。

（3）自動販売機

施設利用者の利便を図り、交通系ICカード等のキャッシュレス決済に対応した飲料の自動販売機の設置を継続した。

＜各事業の推移＞

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
ミュージアムショップ売上（千円）	12,203	9,011	17,403
自動販売機手数料収入（千円）	117	110	114

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
1 資料収集保管事業	購入・寄贈・寄託により 1,449 点の資料を収集し、資料の整理・保管・データ入力を進めた。特別利用については、14 件 417 点の資料の貸出や熟覧等に対応した。資料の燻蒸や IPM など、適切に資料の保全を進めた。	A
2 調査研究事業	基礎資料研究 5 本、テーマ研究 5 本、市民共同研究 3 本、連携調査研究 2 本のほか、令和 7 年度実施予定企画展の調査や資料の基礎整理を予定通り進めた。成果は企画展（「仏像入門展」）や紀要の論文 2 本、所蔵資料目録などに反映した。	A
3 常設展事業	展示解説ボランティアによるワンポイント解説を午前午後 1 回ずつ実施し、来館者の常設展の理解を深める取り組みとなった。また多言語解説アプリに解説映像を格納し、利便性の向上を図った。またオリジナル歴史クイズや横浜の歴史や文化財についての映像を視聴できるアプリ「クイズ&ムービー」の利用を促した。	A
4 企画展事業	小学校 6 年生の歴史の学習に合わせ、考古学を身近に楽しみながら学べるアクティブラーニングの手法を取り入れた企画展「君も今日から考古学者 横浜発掘物語 2024」、海防にあたった武士の視点からペリー来航をとらえなおした企画展「サムライ Meets ペリー With 黒船」、横浜・永田の地に華開いた禅文化および近世禅林の源流をたどる特別展「寶林寺 東輝庵展」、都筑・青葉両区の区政 30 周年を記念した企画展「丘のよこはま—近代の村の歴史とくらし」および企画展「港北ニュータウン開発と発掘調査」、仏像のみかたをわかりやすく伝える企画展	A

	「仏像入門展」と「令和 6 年度横浜市指定・登録文化財展」を開催した。考古、歴史、美術分野の多彩なテーマを取り上げ、関連事業でも、大学などとの連携事業や、展示の内容をより深く掘り下げる講演会など幅広く展開し、市民の多様な生涯学習のニーズに応えた。	
5 企画普及事業	「歴史未来フェス」を始めとし、さまざまな団体や市民、ボランティアと連携・協力し、講座・講演会や子ども向けのワークショップ、また地域の賑わいの創出につながる多彩なイベントを展開した。本年度の古文書講座ではオンラインから対面に変更し、講義の内容をアーカイブ発信する取り組みを行った。学校連携事業では事前訪問授業を拡充したほか、小学校 3 年生向けの映像を追加制作し、公式 youtube チャンネルでは 10 万回以上再生された。	S
6 開館 30 周年記念事業	常設展示室歴史劇場で上映する新コンテンツの制作、2 月 1 日に開館 30 周年記念特別講演会「横浜 3 万年の歴史の軌跡」、また開館 30 周年記念特別展の準備などを予定通り実施した。	A
7 情報事業	リアルタイムな情報発信が行える SNS の強みを活かし、X (旧ツイッター) を利用して博物館の展示や催しの情報ほか、博物館の活動をリアルタイムで紹介する情報発信を積極的に行った。フォロワーは 1 万人を超えた。HP については随時情報の更新を行って運用した。	A
8 施設維持事業	開館から 30 年が経過した博物館や、開園から 29 年となる野外施設など、経年劣化のみられる施設・設備に対し日常の監視保全を行い、不具合については所管局と協議と情報共有に努めた。長寿命化に向けた設計や修理に適切に対応し、安定的な運営を維持できるよう努めた。	B
9 収益事業	ミュージアムショップ事業は、各企画展に応じた新商品の開発や魅力ある商品の取り揃えに注力した。またオンラインショップの取扱商品も拡充した。駐車場はヤッショレス決済が利用できるコンパーキングとし、休館日にも営業して遺跡公園利用者への利便性を高めた。	B

3 開港資料館事業

令和6年度は、「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」の4年目にあたり、これまでの成果をさらに積み上げる1年となりました。

「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」では、これまでOPACで公開していた図書・雑誌のデータを統合することで、約20万点の資料情報が一元的に閲覧できるようになりました。あわせて商標等の画像データを新規に追加し、資料画像の公開点数は約8800点となりました。また今後の利用促進に向けて、これまでの活用事例などを紹介する広報動画を作成・公開しました。

市指定文化財である旧館（旧英國総領事館）の整備工事では、外観部分の扉や窓回りをイギリス領事館時代の緑色に復元し、そして新館と旧館をつなぐバリアフリーの連絡通路付け替え工事を実施しました。ミュージアムショップ＆カフェ「PORTER'S LODGE」では、昨年度実施したミュージアムグッズ・デザインコンテストで大賞を受賞したスイーツの商品化や、タレント・企業とコラボしたオリジナル商品の開発などの成果を挙げ、昨年度から売り上げを大きく伸ばしました。

そして中庭の「たまくすの木」（市地域史跡）の維持管理では、「たまくすの木」をより身近に感じていただく環境づくりとして、昨年度協定を締結した一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部（かながわ樹木医会）の協力を得て、たまくすの周囲へのバリアフリーデッキの整備を進めました。整備にあたっては、クラウドファンディングを実施して費用を募り、多くの地域企業からリターン企画や商品での協力をいただきながら、目標を上回る支援金を獲得しました。

また令和6年（2024年）は、ペリーが横浜に来航して日米和親条約が結ばれてから170周年ということで、常設展事業・企画展事業ともに記念の展示を実施しました。特別展「外国奉行と神奈川奉行」では、これまで研究の蓄積がほとんどなかったテーマに対して、新出資料を含む多くの資料を展示し、関連事業とあわせて多くの来場者を得ました。また「ペリー提督・横浜上陸図」の石版画を特別公開したほか、ペリー横浜来航170年をテーマにしたミニ展示を継続して開催しました。

資料収集保管事業では、貴重な商館時計コレクションの受領を記念して、寄贈者への感謝状の贈呈式をおこないました。調査研究事業では、外部研究者との連携研究（幕末維新史研究会）の成果を、民間出版社から論集『幕末の開港都市・横浜』として刊行し、その内容をふまえて記念シンポジウムを開催しました。

普及事業では、横浜郷土史団体連絡協議会の活動支援に継続して取り組みました。また今年度は地域企業との連携をこれまで以上に強化し、地域循環型のクラウドファンディングを通じて様々なコラボ企画を実施したほか、地域の大規模イベントにも積極的に参加しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈6件 645点	主な収集資料：イリス商会宛葉書、中沢磯一家文書、田

	寄託 0 件 0 点	中三郎日記、搜真女学校関係資料、小川雄一コレクション（商館時計ほか時計関係資料）など
資料の購入	10 件 64 点	主な収集資料：ペリー提督日本遠征記 復刻版
資料の分類・整理		未整理の文書群の分類・整理をおこなった。 主な資料：中山恒三郎家資料
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 1, 082 人 コピー枚数 23, 711 枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
資料のデジタル化	古写真や古記録、絵巻など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料のデジタル化を行った。 主な資料：『ペリー艦隊日本遠征記』第1巻・第2巻の挿絵・地図
	商標・古写真 3, 048 点	文化観光拠点計画事業の一環として、デジタルアーカイブの公開に向けて、収蔵資料から商標・古写真などの画像資料を選定してデジタル化をおこなった。
デジタルアーカイブの公開	公開点数 199, 507 点	文化観光拠点計画事業の一環として制作、一般公開した「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」を改修し、古文書・写真・絵葉書・浮世絵・商標・図書・雑誌・新聞などの資料種別に、199, 507 点の資料情報および8, 822点の資料画像を公開した（令和7年3月31日公開時点）。
複製資料の提供	提供件数 383 件 1, 249 点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
原資料の貸出	貸出件数 4 件 26 点	他の博物館（群馬県立博物館、神奈川県立博物館、神奈川県金沢文庫、横浜美術館）の展覧会へ原資料の貸出を行った。

（2）資料収集内訳（R6.4～R7.3）

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1, 851 (1, 851)
政府資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16, 137 (16, 137)
海外資料（点）	— (—)	— (—)	1 (—)	— (—)	1 (—)	15, 237 (15, 236)
文書・記録（点）	— (—)	— (—)	400 (517)	— (—)	400 (517)	86, 806 (86, 406)
新聞資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	9, 955 (9, 955)
絵画・写真等	31	—	—	—	31	33, 972

(点)	(3)	(一)	(222)	(32)	(257)	(33, 941)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	245 (—)	— (—)	245 (—)	51, 653 (51, 408)
文献資料 (点)	33 (49)	— (—)	— (—)	— (—)	33 (49)	58, 559 (58, 526)
合 計	64 (52)	— (—)	646 (739)	— (32)	710 (823)	274, 170 (273, 460)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製資料の提供実績

項 目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
出版社 (一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	383件	418件	445件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
閲 覧 室 利 用 者 数 (人)	1, 082	1, 188	1, 244
複 写 申 込 件 数 (件)	530	631	591
複 写 枚 数 (枚)	23, 711	24, 125	19, 463
レ フ ア レ ン ス 件 数 (件)	1, 536	896	1, 962

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
環境調査	収蔵資料の汚損の予防のため、害虫の発生状況や館内環境の調査を実施した。5回／年
マイクロフィルムおよび図書資料の収蔵管理	マイクロフィルムおよび図書資料の収蔵管理を、外部倉庫会社に委託した。

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。

(7) 感謝状贈呈式の開催

小川雄一コレクション (商館時計ほか時計関係資料 245 点) の受領を記念して、寄贈者である小川雄一氏を招いて、当館館長より感謝状を贈呈した。



(左) 小川コレクションより商館時計



(右) 小川雄一氏への感謝状贈呈

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について、各テーマに基づいた調査研究を実施しました。また財団諸施設との連携研究事業、外部研究者との共同研究事業も継続して実施しました。

（1）基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
近代横浜の建築・都市に関する調査研究 (1／2年次)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜開港資料館が所蔵する建築関係資料から、横浜市開港記念会館（国重要文化財）の建築図面調査をおこない、デジタルアーカイブでの公開に向けて目録データの作成を進めた。
近代横浜の戦争史研究 (3／4年次)	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年開催予定の戦後80年記念企画展示に向け、開港資料館が所蔵する今井清一文庫をはじめとする戦時資料の調査を行った。 ・市内の戦争体験者への聞き取り調査を行い、証言記録をビデオで撮影した。
横浜開港資料館のアーカイブ機能に関する研究 (1／2年次)	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルアーカイブにて館蔵資料の目録（約19万9500点）および画像（約8800点）を公開した。 ・古文書・図書・雑誌・新聞などの目録データを作成、公開した。 ・館蔵資料の保存・整理状況を体系的に把握し、効率的なアーカイブ機能の構築方法について検討した。 ・神奈川県博物館協会 第2回研修会（人文科学部会、会場：横浜開港資料館）にて「横浜開港資料館デジタルアーカイブの現状と課題」と題して整理・公開方法について報告した。 ・商標（生糸・茶）の目録データの作成を進めた。
幕末期対外関係史の研究 (2／2年次)	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に調査をおこなった外国奉行・神奈川奉行に関する歴史資料を分析し、ふたつの組織の実態と活動内容を明らかにした。成果は2024年度特別展「外国奉行と神奈川奉行」、同展関連図書『外国奉行と神奈川奉行』、吉崎雅規「外国奉行と神奈川奉行——その史料と研究」（前書籍）で報告した。 ・調査研究にあたっては、東京大学史料編纂所2024年度一般共同研究「幕末

	外交研究の高度化と関連史料の資源化および展示公開」に参加し、同所・国立歴史民俗博物館の研究者と連携して研究を進めた。
幕末～明治初期古写真の研究 (2／2年次)	<ul style="list-style-type: none"> 当館所蔵の木村芥舟関係資料に含まれる幕末明治期に撮影されたガラス板写真・鶏卵紙写真の高精細撮影と内容分析を東京大学史料編纂所画像史料解析センターと連携して実施し、成果を『木村喜穀関係古写真資料の調査と研究』として報告した。 館蔵のチャールズ・ウィードとフェリーチェ・ベアトの古写真について調査研究を進めた。
横浜近代欧米関係史 (3／3年次)	<ul style="list-style-type: none"> ブルーム・コレクション内のペリー来航関係資料の調査を実施し、その成果は「ペリー横浜来航 170 年 特別公開 横浜とペリー提督とのつながり—「横浜上陸図」ほか関連資料展示」で示した。 商館時計とそれを取り扱った外国商社に関する資料の調査研究を進めた。 根岸競馬場関係資料の調査研究を進めた。 ブルーム・コレクションの資料チェックを行い、資料状態の現状を維持するべく、薄葉紙で保護し、保存箱を導入した。

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	<p>横浜市史資料室所蔵戦時・戦後資料についての研究会を3回開催し、元市史資料室の羽田博昭氏のレクチャーを受けた。同時に2025年開催の戦後80年特別展の検討をメンバーと行った。</p> <p>*都市発展記念館・市史資料室・埋蔵文化財センターとの連携研究事業</p>
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	<p>各時代（幕末期・明治期・昭和戦前期）に横浜中心部に存在した施設のリストアップ、関連画像の選定、施設の解説をおこない、歴史復原地図のWeb公開の準備を整えた。</p> <p>*市史資料室・神奈川県立歴史博物館との連携事業</p>

(3) 外部研究者との共同研究

項目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜幕末維新史研究会	<p>幕末維新期横浜の政治・外交・経済・社会等について、他機関所属の研究者とともに、原資料（古文書等）をもとに総合的な調査・研究をおこない、講座・展覧会などで成果を報告する。（3／4年次）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部の研究者とともに実施してきた幕末期横浜に関する調査研究成果を『幕末の開港都市・横浜』（論文集）にまとめ、5月に戎光祥出版より刊行した。 論集の内容をもとに、「ペリー横浜来航170周年記念シンポジウム 幕末の横浜を語る！ 交差する海防と開港」を開催した（12/15）。

		<ul style="list-style-type: none"> ・幕末維新期の横浜に関する研究報告会を実施した。 <p>5/15 田口由香（長崎大学） 「イギリスから見た幕末維新期の天皇・将軍・大名」</p> <p>11/17 清水詩織（早稲田大学教育・総合科学学術院） 「開国と海防 一拙著『近世後期の海防と社会変容』の成果と課題ー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕末期横浜の社会情勢・対外関係に関する館蔵史料の調査・撮影を実施した。
中山恒三郎研究会	都筑区川和・中山恒三郎家文書の活用に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (2／3年次)	前年度に引き続き、文書の整理作業を実施し、第一期整理文書資料目録を作成した。また、2025（令和7）年3月7日に研究会を実施し、資料目録の共有、今後の事業展開等について検討を行った。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の適切な維持管理をおこなうとともに、今年度はペリー横浜来航170周年をテーマとしたミニ展示を連続して開催しました。また旧館・中庭を活用したイベントを開催し、集客を図りました。毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

（1）常設展示室観覧者の推移（基本観覧想定数 37,000 人）

	有料入館者(人)					無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	市内 65	閲覧室	計					
6 年度	24,016	4,564	1,898	598	31,076	8,658	39,734	115.0%	307	129
5 年度	19,609	3,439	1,869	759	25,676	8,866	34,542	105.5%	308	112
4 年度	17,937	3,621	2,140	726	24,424	8,292	32,716	154.8%	307	107

*上記の数字は、企画展を開催していない期間の常設展観覧者数と、企画展開催期間中の入館者数を加算したもの（建物の構造上、企画展開催中は常設展のみの見学を設定していないため）。

（2）常設展示室でのミニ展示

常設展示室内で、新収蔵資料や新発見資料を紹介するミニ展示を開催した。今年度はペリー横浜来航170年をテーマとしたミニ展示（118回～121回）を連続して開催した。

項目	内容・成果
----	-------

ミニ展示	第 118 回 2/16～5/16 「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 1 描かれたペリー艦隊」 第 119 回 5/17～8/15 「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 2 ペリーから伝わったモノたち」 第 120 回 8/16～11/21 「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 3 黒船接近！絵図にみる幕末の海防体制」 第 121 回 11/22～2025.2/20 「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 4 ペリー艦隊の測量とモーリー大尉の日記」
------	--

(3) 旧館の活用

文化財施設の活用のため、旧館（旧英國総領事館）1階の記念ホールや記念室を公開する。

旧館来場者数：61,758 人（年間）

項目	内容・成果
開港（開館）記念日に関する事業	開港（開館）記念日の 6 月 2 日を無料開館した。来館者 919 人。 ※今年度は旧館整備中のため記念室は公開せず。
「PORTER' S LODGE でくつろぐアフタヌーンティー」 R6. 11. 16(土)・17(日)	ユーラシア文化館が実施したクラウドファンディング「横浜にペリー提督像を作りたい！ただしスタチュー（人間彫刻）で！」のリターン商品として、市指定文化財である旧門衛所（ミュージアムショップ&カフェ「PORTER' S LODGE」）内でのアフタヌーンティーを提供した。
まちかどスタンプラリー「たまくすの木みーつけた！」 R6. 11. 26（火）～11. 30（土）	株式会社ありあけとのコラボ企画として、「たまくすの木」およびありあけの関係スポット 3 か所を巡るスタンプラリーを実施した。3 か所のスタンプを集めると、当館のミュージアムショップ&カフェ「PORTER' S LODGE」でありあけのムーンガレットをプレゼント。
ハイカラ袴での撮影体験 R6. 12. 7（土）	「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備のためのクラウドファンディングのリターン商品として、ハイカラ袴を着ての旧英國総領事館内でのプロカメラマンによる撮影体験を実施した。
レクチャーツアーの実施 R6. 12. 13（金）	近隣企業での企画に役立てもらうことを想定し、広報担当者を対象としたレクチャーツアーを実施した。 協力：横浜マリンタワー 参加社：横浜マリンタワー、横浜 DeNA ベイスターズ、株式会社ありあけ、アットヨコハマ
デジタルスタンプラリーへの参加	近隣のイベントで開催されるデジタルスタンプラリーに参加し、旧館ホールおよび「Porter' s Lodge」店内をラリーポイントとして活用した。 ・ザ よこはまパレード デジタルスタンプラリー ・ハマフェス ¥165 デジタルスタンプラリー

	<ul style="list-style-type: none"> ・関内いいとこどり 異日常さんぽ デジタルスタンプラリー ※DeNA主催ボールパークファンタジア関連イベント ・横浜春節祭 デジタルクーポン
商業撮影の対応	旧館（旧イギリス総領事館）を利用しての商業撮影（結婚式の前撮り等）に対応した。

（4）中庭の活用

横浜市地域史跡である「たまくすの木」を中心に、ハイネ画《ペリー横浜上陸図》の陶板プレート、獅子頭共用栓・ブラフ溝・ガス灯（模型）などの都市インフラ資料、開港から昭和戦前期にいたる横浜の歴史を子ども向けに紹介した展示パネルなどで、敷地内を散策する人に横浜の歴史をわかりやすく紹介した。

中庭来場者数：92,802人（年間）

（5）「たまくすの木」の維持管理

「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、今年度も引き続き一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部（一般社団法人かながわ樹木医会）にて土壤内のがれき類の除去、土壤改良、剪定及び外観点検等を実施し、次年度に向けた「たまくすの木」の維持管理計画の策定を行った。

また今年度は「たまくすの木」周囲のバリアフリーデッキを整備するため、クラウドファンディングを実施して費用を募り、同会と連携してウッドデッキの整備を進めた。



レクチャーツアー



「たまくすの木」周囲のバリアフリーデッキ整備

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料に関する研究成果を、企画展示等を通して公開しました。今年度は、日米和親条約締結170周年記念の特別展「外国奉行と神奈川奉行」を開催し、あわせて講座講演会・まち歩きなどの関連事業を実施しました。またペリー横浜来航170周年であることから、「ペリー提督・横浜上陸図」の特別公開や記念シンポジウムを開催しました。また地域企業との連携をこれまで以上に強化し、コラボ企画の実施や地域の大規模イベントへの参加も積極的におこないました。

(1) 企画展の実施

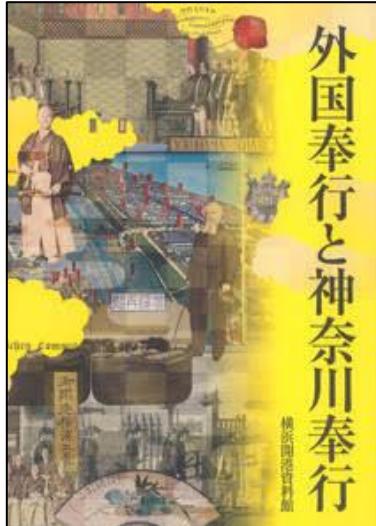
事業名称	料金	参加者数	事業内容
特別展「外国奉行と神奈川奉行」 R6. 9. 21(土)～11. 24 (日) 開催日数52日	一般 500円 小・中 250円	7,955人	<p>安政元年（1854）に締結された日米和親条約によって、日本は欧米諸国と恒常的に「外交」をおこなう必要に迫られ、幕府は安政5年（1858）外国奉行（外国方）を創設した。一方、開港された横浜には神奈川奉行が置かれ、外国貿易の管理と横浜周辺の行政を担当することになった。</p> <p>外国奉行と神奈川奉行の研究・展示は、関連資料の乏しさもあってこれまでほとんどおこなわれてこなかった。本展では新出資料を含む多くの歴史資料を展覧し、このふたつの組織の実態を探るとともに、近代の日本外交のルーツを探った。</p>

(2) 企画展関連事業の開催

事業名称	参加者数	事業内容
展示解説	56名/37名	展示担当者による展示内容の解説（全2回）。
展示関連トークライブ 「幕末の外交官を深掘りする！」 R6. 10/9（水）	41名	<p>会場：横浜開港資料館講堂 講師： 小野将氏（東京大学史料編纂所准教授） 「幕末外交文書の紹介」 福岡万里子氏（国立歴史民俗博物館准教授） 「ハリスから見た幕府外国方」 各40分程度の講演のあと、講師と展示担当者が幕末の幕府外交官について壇上でトークをおこなった。</p>
展示関連講座	33名/37名	<p>10/20（日）「外国奉行—幕末の「外務省」」 11/16（土）「神奈川奉行—開港都市を治める」 講師：展示担当（吉崎雅規）</p>
町歩き「神奈川奉行所ゆかりの地を歩く」 R6. 11/13（水）	18名	展示担当者のほか、当館の調査研究員、歴博の学芸員がガイド役となり、神奈川奉行所に関する史跡（関内・野毛・戸部）をめぐつた（歴博との連携事業）。
横浜シティガイド協会との共催ガイドツアー (ミニ講座つき)	23名/20名	<p>当館講堂でのミニ講座ののち、横浜シティガイド協会によるガイドツアーを実施（全2回）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10/2（水）外国奉行展ゆかりの地 11/8（金）神奈川奉行展ゆかりの地

(3) 関連出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
展示関連図書『外国奉行と神奈川奉行』	1000 部	2,500 円 (税込)	A4 判、190 頁。横浜開港資料館編。約 250 枚の資料画像を収載したほか、専門研究者による論考や各種資料も付した。 会期中売上 : 579 冊



展示関連出版物『外国奉行と神奈川奉行』

トークライブ「幕末の外交官を深掘りする！」

(4) 資料の特別公開の実施

事業名称	料金	参加者数	事業内容
ペリー横浜来航 170 年 特別公開「横浜とペリー提督とのつながり」 R6. 7. 13(土)～9. 1 (日) 開催日数45日	一般 400円 小・中 200円	4,966人	<p>2024 年はペリー提督が横浜に上陸し、日米和親条約締結から 170 年の節目の年となる。当館所蔵のハイネ原画「ペリー提督・横浜上陸図」(石版画)の原物を展示することで、ペリー提督の横浜来航が日本史の転換点であり、現在の横浜へと発展する出発点となったことを伝えた。</p> <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア向け内覧会 7/12 (金) ・展示担当による展示解説 (全 5 回) <p>7 月 20 日 (土) 33 名、27 日 (土) 37 名、 8 月 10 日 (土) 27 名、17 日 (土) 16 名、 8 月 24 日 (土) 18 名</p>



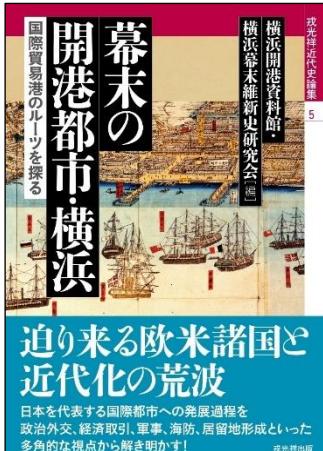
「ペリー提督・横浜上陸図」原資料展示



展示解説（7/20）の様子

（4）ペリー横浜来航 170 年記念シンポジウムの開催

事業名称	参加者数	事業内容
幕末の横浜を語る！ 交差する海防と開港 R6.12.15（日）	53名	<p>ペリー提督が横浜に来航・上陸し、日米和親条約が締結されてから 170 年を迎えるにあたり、当館講堂にて記念シンポジウムを開催し、横浜幕末維新史研究会が刊行した『幕末の開港都市・横浜』の内容に基づき、最新の研究成果を紹介した。</p> <p>趣旨説明 吉崎 雅規（横浜開港資料館主任調査研究員）</p> <p>第1部 特別講演</p> <p>「ペリー来航とその後の日本」 西川 武臣（横浜開港資料館館長）</p> <p>第2部 研究報告</p> <p>「横浜開港前夜 武州金沢藩の海防」 小林 紀子（横浜市歴史博物館主任学芸員）</p> <p>「山下居留地の形成過程」 中尾 俊介（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻助教）</p> <p>「外国人からみた開港地問題と横浜居留地」 白井 拓朗（横浜開港資料館調査研究員）</p> <p>第3部 討論 司会：神谷 大介（横浜開港資料館調査研究員）</p>



論集『幕末の開港都市・横浜』

シンポジウム会場風景

討論

(5) 地域・市民・学術団体との協働事業の実施

項目	事業内容等
「たまくすの木」周辺整備に向けたクラウドファンディングのリターン企画・商品の提供	<p>「たまくすの木」周囲に設置するバリアフリーデッキの整備費を募るクラウドファンディングの実施にあたって、地域の企業から協賛およびリターン企画・商品の協力を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜マリンタワー CFスタート記念ライトアップ (5/19) ・株式会社ありあけ CF期間中の「たまくす基金」の実施 ・株式会社三陽物産 ウッドデッキに設置するテーブルセットの寄附 ・その他提供企業 株式会社AQUA、横浜マリンFM、崎陽軒、ホテルニューグランド、横浜エクセレンス、重慶飯店、霧笛楼、タカラダ、キャラバンコーヒー、タカナシ乳業、横浜ビール、HARE-TABI SAUNA & INN、横濱ハイカラきもの館、大川印刷
横浜郷土史団体連絡協議会との協働	<p>横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横浜郷土史団体連絡協議会（令和6年度末現在、加盟40団体）との事業協働。事務局を歴史博物館と共同で担当。</p> <p>①総会・大会 R6.4.27(土) 於横浜市歴史博物館 講堂 会員団体紹介 記念講演会：「小倉藩医がみたペリーの横浜上陸—「横浜日記」を読む」(71名) 講師：小林紀子（横浜市歴史博物館主任学芸員）</p> <p>②役員会（12回）実施</p> <p>③研修会（第63回～65回）実施</p>

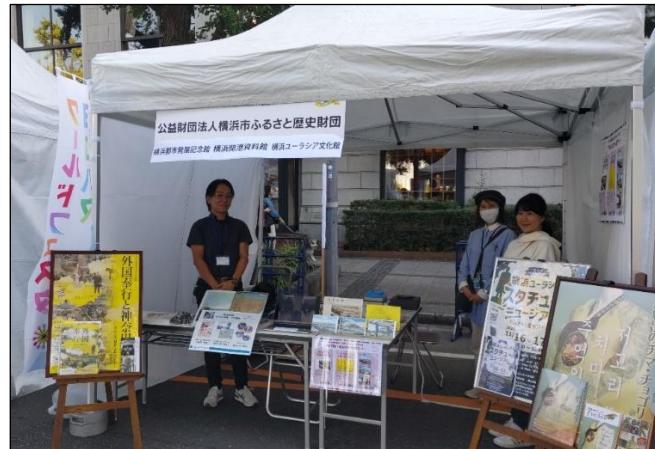
	<p>R6. 7. 23 第 63 回研修会「横浜とペリー提督関係の展示解説と見学」(69 名) 講師：白井 拓朗（横浜開港資料館調査研究員）・仲泉剛（横浜市歴史博物館学芸員） 会場：横浜開港資料館 講堂</p> <p>R6. 10. 29 第 64 回研修会「宝林寺展」展示見所解説 (18 名) 講師：吉井 大門（横浜市歴史博物館学芸員） 会場：横浜市歴史博物館</p> <p>R6. 11. 8 第 65 回研修会「外国奉行と神奈川奉行」展示見所解説&見学 (37 名) 講師：吉崎 雅規（横浜開港資料館主任調査研究員） 会場；横浜開港資料館</p> <p>④特別講演会・特別講座</p> <p>R6. 8. 23 特別講演会「ペリー来航と横浜一戦争することなく結ばれた条約と庶民の対応」(125 名) 講師：西川 武臣（横浜開港資料館・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館 館長） 会場：横浜市歴史博物館講堂</p> <p>R7. 3. 21 特別講座「横浜の近代建築・近代遺跡と都市整備」(53 名) 講師：青木 祐介（横浜開港資料館・横浜都市発展記念館 副館長） 会場：横浜市歴史博物館 講堂</p> <p>⑤会報 18 号刊行。</p> <p>⑥会報 19 号の編集。</p> <p>⑦横浜郷土史団体連絡協議会 News69 号～72 号発行。</p>
ハマフェスY165への参加 R6. 5. 27 (土) 28 (日)	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町 SS 会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として都市発展記念館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催したほか、両日とも無料開館した。
「かながわMIRAIストリート」への参加 R6. 5. 27 (土) 28 (日)	ハマフェス Y165 と同日に開催される「かながわ MIRAI ストリート」(TVK 主催) に参加し、日本大通りにブースを出展した。

神奈川県博物館協会の研修会の開催 R6.7.12 (金)	当館講堂を会場として、神奈川県博物館協会の第2回研修会「デジタルアーカイブズの運用と課題」を開催した。また当館からも、事例発表として、運用を開始したデジタルアーカイブの現状と課題について報告した。
「ベトナムフェスタ in神奈川2024」への参加 R6.9.7 (土) ~9.8 (日)	日本大通り・象の鼻パークで開催される「ベトナムフェスタ in 神奈川 2024」にあわせて、8月からのベトナム月間に参加し、ポーターズロッジでベトナムビールの販売をおこなったほか、フェスタ当日には敷地内に出店した。
「ピンクリボンライトアップ2024 in かながわ」への参加 R6.10.1 (火) ~10.6 (日)	神奈川県・ピンクリボンかながわ等が主催する「ピンクリボンライトアップ 2024 in かながわ」に参加し、期間中、旧館（旧イギリス総領事館）のライトアップをおこなった。
「ワールドフェスタ・ヨコハマ2024」への参加 R6.10.12 (土) ~10.13 (日)	「ワールドフェスタ・ヨコハマ 2024」に参加し、山下公園通りの歩行者天国にテントを出店した。山下公園の歴史や開催中のユーラシア文化館企画展「思い出のチマ・チョゴリ」をPRするパネルを掲示したほか、展示図録の物販をおこなった。
「日本大通りSDGs ウィンターイルミネーション2024」への参加 R6.11.22 (金) ~12.25 (水)	日本大通りエリアマネジメント協議会が実施する「日本大通り SDGs ウィンターイルミネーション 2024」に参加し、加盟会員として協賛金を支出した。
関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施	NHK エデュケーションとの共同作業として、関東大震災の被災状況をパノラマで撮影したガラス乾板（西野写真館撮影、開港資料館所蔵）の高精細デジタルデータをもとに、彩色復元（8K カラー）による写真分析を行った。
横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 R6.10.27 (日)	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、諸味蔵では民俗資料と整理作業の様子を公開した。参加者：556人 ※横浜都市発展記念館、横浜市歴史博物館との連携事業 主催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・川和小学校ふれあい郷土館・都筑をガイドする会
研修・視察等の受け入れ	・神奈川近代文学館職員研修の受け入れ（4/5） ・ヨルダン国ペトラ市の視察対応（6/5） ・香港大学の視察対応（11/15）
講座・講演会への講師派遣	・関内まちづくり振興会の総会基調講演（5/23）

横浜商工会議所等の機関誌への原稿執筆	横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」等への寄稿。
--------------------	---



マリンタワーによる PR ライトアップ



ワールドフェスタ・ヨコハマ 2024

(6) 行政との連携事業

項目	事業内容等
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣	<p>横浜市みどり環境局が進める「(仮称) 旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物 (旧太田家住宅) 整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。</p> <p>令和6年4月12日(金)、6月19日(水)、9月18日(水)</p>
	<p>横浜市市民局が設置した「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」の委員として、当館副館長を派遣した。</p> <p>令和6年10月1日(火)、令和7年2月4日(火)</p>
「広報よこはま」への執筆協力	<ul style="list-style-type: none"> ・中区版の連載記事「なか区・歴史の散歩道」を都市発展記念館と共同で執筆。「ペリー来航 170 年 ペリー艦隊遠征の陰の功労者—測量とモーリー大尉の日記—」「横浜応接所探訪」等のテーマで連載した。 ・保土ヶ谷区版の連載記事「保土ヶ谷区のあゆみ」を歴史博物館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。4月号に「生麦事件と保土ヶ谷宿」12月号に「錦絵から見た保土ヶ谷宿—文久3年(1863)の將軍上洛—」を掲載した。
横浜市広報誌・広報番組への協力	横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」等への出演。

(7) 学校連携

項目	事業内容
アーカイブズ実習の受け入れ R6.9.11 (水) 13 (金) 27 (金)	昭和女子大学が主宰するアーカイブズ実習を受け入れた。
神奈川県高等学校文化連盟との共催事業 令和6年11月10日 (日)	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県高等学校総合文化祭・第30回神奈川県高等学校社会科研究大会を開催し、審査員として財団職員を派遣した。 会場：横浜市歴史博物館講堂

(8) 広報

項目	事業内容
クラウドファンディング「横浜開港の歴史「たまくすの木」に憩うバリアフリーデッキを作りたい！」の実施	文化観光拠点計画事業の進展にともない、「たまくすの木」周辺の整備資金獲得のため、地域循環型でのクラウドファンディングを実施した。多くの地域企業からリターン企画や商品で協力を得たうえ、目標を上回る支援金を獲得した。 期間：2024年5月21日～7月19日 プラットフォーム：READYFOR 支援者数：227名 支援総額：6,699,000円 達成率：133%
みなとみらい線1日乗車券の発行	横浜高速鉄道との広報連携事業として実施。特別展「外国奉行と神奈川奉行」の開催にあわせて、「ペリー提督・横浜上陸図」を券面に使用したオリジナルデザインの一日乗車券を限定販売した。
館報「開港のひろば」	館報「開港のひろば」第157号、158号を発行
リーフレット類作成	日本語版施設案内の発行 PORTER'S LODGE 案内改訂版の発行
その他広報	① 横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ② 当館HPやメールニュース、SNSによる催し物等の情報発信 ③ みなとみらい線各駅へのポスター掲示 ④ 市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤ 新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑥ TV、ラジオ、新聞、CATV等のメディアからの取材対応 ⑦ 市広報誌への記事掲載依頼 ⑧ みなとみらい線一日乗車券の作製（特別展広報） ⑨ 美術雑誌への広告掲載（特別展広報）

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために

データの入力等を行い文化財情報の発信に関する機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
インターネットによる情報公開	<p>ホームページを通じて、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時行った。館報「開港のひろば」は、発行に合わせて、テキスト情報を持った（文字検索や読みあげが可能な）PDF 画面で掲載した。今年度は新規コンテンツとして、文化観光拠点計画事業として制作を進めてきた「こい旅横浜～山下町編～」を公開した。また公式 YouTube チャンネルでは、施設紹介動画 1 本および文化観光拠点計画事業で製作したデジタルアーカイブ活用紹介動画 1 本を公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP アクセス件数 合計 135,514 件 <p>XやYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。</p> <p>【X】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツイート数 499 ・エンゲージメント率 4.2% ・リツイート 4,986 ・いいね数 18,650 ・ツイートインプレッション 949,528 <p>【YouTube】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生回数 83,799 ・総再生時間数 6559 ・チャンネル登録者数 441 ・公開動画本数 3
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」第 224 号～第 236 号(号外含計 17 回)をのべ 27,088 名の登録者に配信した。

6 旧館活性化事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

開港資料館の旧館（旧英國総領事館）および付属棟（旧門番所）の建物を、閑内エリアのあらたな観光拠点として幅広く活用していくための再整備事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」（後掲）と連動して、旧館（旧イギリス総領事館、市指定文化財）の改修工事を進めました。外観復元工事およびバリアフリー連絡通路の設置工事を実施したほか、県庁東庁舎側についても植栽計画をまとめました。また市地域史跡「たまくすの木」については、一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部による土壤改良工事等を実施したほか、クラウドファンディングで集まった支援金をもとに、バリアフリーデッキの整備を進めました。

（1）施設整備

項目	内容・成果
旧館（旧イギリス総領事館）の改修工事	文化観光拠点計画にもとづき、旧館（旧イギリス総領事館）の改修工事を実施した。外観復元工事では、塗装調査によって判明したかつての建具の彩色を復原（青色から緑色へ）したほか、新館と旧館をつなぐバリアフリー連絡通路の付け替え工事を実施した。また次年度実施予定の内装工事について、実施設計

	を進めた。
外構の植栽計画	敷地南側（県庁東庁舎側）外構部分の植栽整備について、市のみどりアップ事業にもとづき、市担当部局（教育委員会、みどり環境局）との協議をもとに、植栽計画をまとめた。
地域史跡「たまくすの木」の維持管理	「たまくすの木」の中長期的な維持管理を目的として協定を締結した（一社）日本樹木医会神奈川県支部（かながわ樹木医会）に委託して、土壤改良および剪定作業を行った。
「たまくすの木」周辺のバリアフリーデッキ整備	クラウドファンディング（広報事業で記載）で集まった支援金をもとに、「たまくすの木」の周囲に神奈川県産のヒノキを使用したバリアフリーデッキの整備を行った。

（2）旧館・中庭を活用したイベントの実施【再掲】

項目	内容・成果
「PORTER' S LODGE でくつろぐアフタヌーンティー」 R6. 11. 16(土)・17(日)	ユーラシア文化館が実施したクラウドファンディング「横浜にペリー提督像を作りたい！ただしスタチュー（人間彫刻）で！」のリターン商品として、市指定文化財である旧門衛所（ミュージアムショップ&カフェ「PORTER' S LODGE」）内でのアフタヌーンティーを提供した。
まちかどスタンプラリー 「たまくすの木み一つけた！」 R6. 11. 26（火）～11. 30（土）	株式会社ありあけとのコラボ企画として、「たまくすの木」およびありあけの関係スポット3か所を巡るスタンプラリーを実施した。3か所のスタンプを集めると、当館のミュージアムショップ&カフェ「PORTER' S LODGE」でありあけのムーンガレットをプレゼント。
ハイカラ袴での撮影体験 R6. 12. 7（土）	「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備のためのクラウドファンディングのリターン商品として、ハイカラ袴を着ての旧英國総領事館内でのプロカメラマンによる撮影体験を実施した。
レクチャーツアーの実施 R6. 12. 13（金）	近隣企業での企画に役立てもらうことを想定し、広報担当者を対象としたレクチャーツアーを実施した。 協力：横浜マリンタワー 参加社：横浜マリンタワー、横浜DeNAベイスターズ、株式会社ありあけ、アットヨコハマ

7 開港資料館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

施設の維持・管理を行いました。今年度も空調、給水設備において、経年劣化が主因となる突発的な故障・不具合が発生しており、安定的・継続的な施設運営に支障をきたしている状況です。こうした課

題を克服する上でも、これまでの事後保全の考え方から、計画的な予防保全へシフトし、また直ぐに更新・取替できない設備については、メーカー、点検業者からのアドバイスを受けるなど、引き続き、安定的・継続的な施設運営の確保を図っていきます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理。 主な不具合：新館・旧館の空調システムの経年劣化。キュービクル、 高圧受電盤の経年劣化。主な修繕：放送設備、加圧給水ポンプ部品交 換、旧館2階空調機ドレン配管漏水修理、排水マス陥没復旧工事、東 側タイル隆起に伴う復旧工事。

8 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

旧門番所（市指定文化財）の建物を活用して、ミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの機能を兼ね備えた店舗「PORTER'S LODGE」を運営しました。令和6年度は、第1回ミュージアムグッズデザインコンテストでミュージアムスイーツ部門大賞を受賞した「たまくすの木 ロイヤルミルクティーのミルフィーユ」を商品化して、発売を開始したほか、タレント・企業とコラボした「横浜浮世絵クライнетレー3種セット」などオリジナル商品の新規開発・販売をおこないました。

- ① 委託業者との連絡調整
- ② 新店舗コンセプトに合わせた商品の選定・仕入
- ③ 『横浜もののはじめ考』ほか売れ筋商品の増刷
- ④ 「横浜浮世絵クライнетレー3種セット」などオリジナル商品の新規開発
- ⑤ ミュージアムグッズ・デザインコンテスト受賞作品の「たまくすの木ミルフィーユ」発売
- ⑥ 特別展「外国奉行と神奈川奉行」期間中、関連書籍コーナーの設置
- ⑦ 期間限定セールなどキャンペーンの実施
- ⑧ オンラインショップの運営



ミュージアムショップ＆カフェ「PORTER'S LODGE」

（2）自動販売機（1台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置している。

＜各事業の推移＞

(千円)

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
ミュージアムショップ売上	10,781	6,454	3,282
自動販売機手数料収入	95	102	97

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	質量ともに充実した商館時計コレクションが寄贈されたほか、デジタルアーカイブ事業では、着実に拡充を進めて、資料公開点数が約20万点に達した。	S
調査研究事業	各調査研究・連携研究とも予定通りに進捗した。外部研究者との連携研究（幕末維新史研究会）では、成果として民間出版社から論集を発行し、記念シンポジウムを開催した。	A
常設展事業	年間を通じてペリー横浜上陸170周年記念のミニ展示を開催して、ペリー関連の館蔵資料を公開し、入館者増（前年度比108%）につなげた。また地域企業と連携して、旧館の建物を活用したイベントを積極的に開催した。	A
企画普及事業	特別展「外国奉行と神奈川奉行」を開催し、講座講演会・まち歩きなどの関連事業とあわせて多くの来場者を得た。またペリー横浜来航170年の事業でも、「ペリー提督・横浜上陸図」の特別公開や記念シンポジウムを開催した。今年度は地域企業との連携をこれまで以上に強化し、コラボ企画の実施や地域の大規模イベントへの参加も積極的におこなった。	S
情報事業	積極的なSNSでの情報発信に加えて、今年度はHPでの新規コンテンツとして「こい旅横浜～山下町編～」を公開した。またデジタルアーカイブの利用促進のための広報番組を制作し、公式YouTubeで公開した。	A
旧館活性化事業	文化観光拠点計画と連動した旧館（市指定文化財）の改修工事を進め、外観復元工事およびバ	S

	リアフリー連絡通路の設置工事を実施した。また地域企業の協力を得てクラウドファンディングを実施し(達成率133%)、「たまくすの木」周囲のバリアフリーデッキの整備を進めた。	
施設維持事業	経年劣化が原因とされる設備の故障・不具合が発生しており、資料の保管・管理および来館者への影響が極力発生しないよう、市の所管課と協議のうえで対応に努めた。	A
収益事業	ミュージアムショップ&カフェ「PORTER'S LODGE」での新規商品化事業で成果を挙げ、ショップの販売収入は前年度から大きく伸びて167%増となり、1千万円を超えた。	S

9 拠点計画推進事業

令和3年度に文化庁より認定を受けた「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に基づき、4年目の今年度は、下記7項目の事業についての取り組みを進めました。

項目	内容・成果
「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業	文化観光での活用を前提としたデジタルアーカイブのシステムを構築し、写真・絵葉書・絵地図・浮世絵・古文書・図書・雑誌・新聞など199,507点の資料情報を公開した。あわせてデジタルアーカイブに登載可能な高精細のデジタル撮影を実施し、商標722点、古写真2300点、その他石板画等26点の画像を得た。またデジタルアーカイブの広報動画を作成して、資料の利用促進に向けたPRを行った。
旧英國総領事館レクチャーツアー事業	横浜マリンタワーの協力を得て、近隣企業の広報担当者を対象に、各企業での企画に役立てもらうことを想定したレクチャーツアーを実施した。
多言語アプリケーションの整備事業	「伝統的観光地エリア内ガイドツアーアイデア事業」と連携して、昨年度に山下公園通り会の協力を得て制作した、第二弾「こい旅横浜—山下町ー」を公開した。
「横浜開港」資料の商品化事業	『横浜もののはじめ考』ほか売れ筋商品の増刷、「横浜浮世絵クライントレー3種セット」などタレントコラボによるオリジナル商品の新規開発、ミュージアムグッズ・デザインコンテスト大賞受賞作品の「たまくすの木ミルフィーユ」発売等をおこなった。

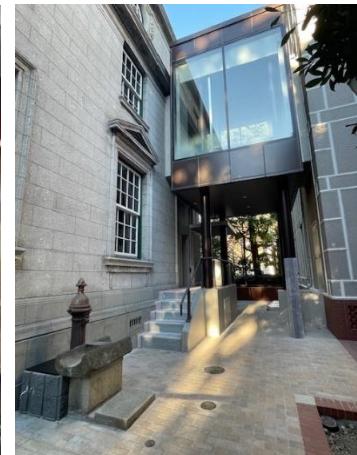
「食べて楽しむ・買って楽しむ」施設機能拡充事業	特別展「外国奉行と神奈川奉行」期間中、関連書籍コーナーの設置、期間限定の書籍セールやオンラインショップの送料無料キャンペーン等を実施した。また、近隣イベントに合わせて実施される各種のデジタルスタンプラリーへのスポット参加 ((3) 旧館の活用参照) や、クーポンでの割引販売等にも積極的に進めた。
「横浜開港」プロモーション戦略事業	地域ラジオ局であるマリン FM (中区)との協働で、財団の諸事業を中心に横浜の歴史に関するタイムリーな話題を紹介する番組「横浜 歴史のタイムマシーン」(毎週金曜日 19:30~20:00)を、制作・放送した。
旧英国総領事館等再整備事業	令和 5 年度に第 1 期工事を完了した、新館旧館をつなぐバリアフリー連絡通路に続いて、第 2 期工事が竣工した。旧館 1F に上がるための車いすの昇降機の設置、周辺の外構部分の整備もあわせて完了した。



デジタルアーカイブ広報動画



「たまくすの木」ミルフィーユ



連絡通路の付け替え

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
拠点計画推進事業	デジタルアーカイブ事業では、公開以来着実に拡充を進めて、公開点数は 20 万点近くに達した。市指定文化財である旧館の整備工事では、外観復元工事と連絡通路付け替え工事を着実に進めた。ミュージアムショップ & カフェ「PORTER'S LODGE」では、昨年度のコンテスト大賞作品の商品化や、タレント・企業とコラボした新商品の開発など、商品化事業で大きな成果を挙げた。	S

4 都市発展記念館事業

令和6年度は、空調設備更新工事による長期休館を経て、7月20日から再開館しました。再開館にあわせて、1階ギャラリーと旧第一玄関、常設展示室を会場として、パネル展「能登半島と横浜—銭湯がつなぐ人びとの交流—」を開催し、これまでの外部研究者との連携研究事業（京浜移住者研究会）の成果を広く発表しました。

企画展事業では、企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～」を実施しました。開港後、横浜が都市として成長していくなかで整備・開削された“河川運河”は、横浜の経済を支える動脈でした。企画展では、横浜の市街地を流れる“河川運河”的形成、成長、衰退から復活に至る景観の変化と、そこで生きた人びとの歴史を紹介しました。展示では、京浜間の運河の輸送で活躍した船の模型や、船で生活していた児童の作文集などを出陳し、観覧者数・事業収入とも見込みを上回る結果となりました。

資料収集保管事業では、上記企画展に関連して河川運河の関係資料を中心に収集したほか、令和7年の戦後80年に向けた館蔵資料のデジタル化も進めました。また館蔵の戦後写真コレクションを紹介する「戦後横浜写真アーカイブズ」を立ち上げ、3人のカメラマン（五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子）の代表作を公開しました。

調査研究事業では、各テーマにもとづく基礎的調査研究を着実に進めました。また令和6年元旦の能登半島地震を受けて、現地に残る横浜の銭湯経営者による寄進物の被災調査を実施したほか、次年度開催の戦後80年特別展にむけた研究会の開催や、軍事関連遺跡・モニュメント（記念碑等）の調査を実施しました。

普及事業では、休館中の5月に地域事業者によるイベント「ハマフェス Y165」に参加したほか、展示と連動した能登半島文化財復興支援の講演会や横浜市役所でのアウトリーチ展などを開催しました。また地域での文化財活用として、今年度も開港資料館・歴史博物館と連携して「中山恒三郎家」（都筑区）の公開事業を実施しました。

学校連携事業については、再開館にあわせて、エデュケーターと連携して小学校団体の吉田新田学習の受け入れを再開しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、寄贈・寄託、購入等により収集し、分類・整理するとともに、資料を良好な状態で保管するため、定期的な環境調査を行いました。また絵葉書・地図・写真などの画像資料を、ホームページ上で公開しました。今年度は新規に「戦後横浜写真アーカイブズ」を公開しました。

（1）資料収集

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈0件 寄託0件	
資料の購入	5件 12点	主な資料：『オフネノコドモタチ』、『だるま船』、横浜市防空関係資料

資料修繕	0件	主な資料：なし
資料の複製収集	1件 3点	主な資料：東京都教職員センター所蔵マイクロフィルム「中央区立月島第二小学校所蔵東京水上小学校資料」よりデジタルデータ作成
資料のデジタル化	4件 7点	主な資料：「少年少女譚海第18巻第13号付録 支那事変資源地図」、「少女俱楽部新年号付録 皇軍萬歳双六」
複製資料の提供	43件 112点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ当館所蔵資料のデジタルデータ（画像および映像）を提供した。
資料の特別利用	1件 79点	調査研究目的による、当館所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	1件 28点	横浜美術館の「おかえり、ヨコハマ」展に常盤とよ子・奥村泰宏撮影写真を貸し出した。

(2) 資料収集実績 (R6.4～R7.3)

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	－ (－)	－ (－)	－ (1)	－ (－)	－ (1)	1,682 (1,682)
図書	1 (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	1 (－)	2,425 (2,424)
新聞雑誌	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	2,180 (2,180)
文書	11 (－)	－ (－)	－ (214)	－ (－)	11 (214)	4,721 (4,710)
紙票類	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	5,683 (5,683)
写真	－ (2)	－ (－)	－ (68)	－ (－)	－ (70)	25,817 (25,817)
絵葉書	－ (－)	－ (－)	－ (29)	－ (－)	－ (29)	2,554 (2,554)
地図	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	740 (740)
図面	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	951 (951)
絵画	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	2 (2)
映像	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	66 (66)
録音資料	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	171 (171)
電子資料	－ (－)	3 (－)	－ (－)	－ (－)	3 (－)	15 (12)
合 計	12 (2)	3 (－)	－ (312)	－ (－)	15 (314)	47,007 (46,992)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
----	----------------

保存燻蒸処理	外部倉庫での未燻蒸資料の燻蒸。今年度は実施なし。前年度に燻蒸処理を済ませた資料を、横浜市歴史博物館から当館収蔵庫に戻した。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるための環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫 (200m ²)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型資料 (昭和初期の置時計・大テーブル他)などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	大型資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

(5) 館蔵資料の公開

ホームページ上の「横浜絵葉書データベース」「横浜地図データベース」で、館蔵資料から絵葉書資料および地図資料のデジタルデータを公開するほか、「映像でたどる戦後の横浜」で戦後のニュース映像を公開。今年度は、館蔵の戦後写真コレクションを紹介する「戦後横浜写真アーカイブズ」が完成し、3人のカメラマン（五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子）の代表作である写真159点を公開した。



映像でたどる戦後の横浜

横浜市では戦後、神奈川一フロア映画協会の製作により、市内の映画館を数多く作成してきました。そのうち、横浜ノ開港100周年を迎えた昭和34(昭和34)年までの、1作目川上ラース・横浜市版「12部組」を制作しました。

1-01 子供の戻り (昭和27年7月24日)
1-02 小樽港の開港 (昭和30年4月20日)
1-03 消火道調査 (昭和30年4月20日)
1-04 山下町の開拓工事 (昭和30年9月28日)
1-05 横浜港の開港 (昭和30年10月19日)
1-06 みなと祭り 新港ふ頭の夜 (昭和31年5月16日)

戦後横浜写真アーカイブズ

当館では歴史資料として戦後写真を収集・保管しています。本アーカイブズでは、当館のコレクションから、横浜(現横浜市域)が撮影された写真159点を公開します。

凡例:撮影年代が写真集・表書きなどで異なり、年代が確定できないものについては、年代に「?」を付しました。

五十嵐 英壽
奥村 泰弘
常盤とよ子

映像でたどる戦後の横浜

戦後横浜写真アーカイブズ

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また財団諸施設や外部研究者との連携研究事業を進めました。

(1) 基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
震災復興と「大横浜」の形成に関する調査研究 (2／2年次)	関東大震災前後から第2次世界大戦に至る時期の横浜の都市形成史を政治社会史の視点から明らかにする。本年度は関東大震災関連資料の調査・発掘を行ったほか、2027年の中区政100年等にむけて「大横浜」関連の調査を実施した。特に昭和戦前期の横浜を記録した写真家・前川謙三に関する予備調査を福井市において行った。
横浜近郊農村の都市化に関する調査研究 (2／4年次)	高度経済成長期までを視野に入れつつ、横浜近郊農村の都市化の過程を政治社会史の視点から明らかにする。都筑区川和町の中山恒三郎家資料の整理・調査を進めると同時に、東横線沿線の地域（旧橋樹郡の村々）について基礎的な調査を進めた。特に綱島の池谷家を中心に、綱島温泉関係の史料調査を実施した。
京浜工業地帯の形成史に関する調査研究 (3／4年次)	京浜工業地帯の形成とその後の展開について、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにする。2027（令和9）年の神奈川区・鶴見区の区制100年を見据え、京浜工業地帯に関する資料の基礎調査、巡査調査を進めた。京浜運河をはじめとする河川運河や貨物鉄道に関する調査を行い、企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”」を開催した。
横浜の近代遺跡に関する調査研究 (3／4年次)	市域での近代建築の遺構および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の視点から横浜の特性を明らかにする。市域での出土遺物のうち、地蔵王廟（中区）保管煉瓦の記録化作業を進めた。
横浜地図データベースの構築 (3／3年次)	過年度の開港資料館・市史資料室との連携事業の成果をもとに、横浜とその周辺の地図について調査と分析を進める。今年度は、港湾・河川・運河に関する地図資料の確認・分析を進め、企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”」に反映させた。
昭和期「ヨコハマ」の観光とイメージに関する調査研究 (3／4年次)	昭和期を中心に(1)横浜の都市観光およびその宣伝、(2)都市イメージの形成に関する資料の収集・整理・分析を進め、その特質を考察する。今年度は、戦後の横浜市制作広報映画「ヨコハマ・ポートサイド」のデジタル公開に向けたフィルムの選定作業を進めた。

（2）財団諸施設との連携研究事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市史資料室所蔵戦時・戦後資料についての研究会を3回開催し、元市史資料室の羽田博昭氏のレクチャーを受けた。同時に2025年度開催の戦後80年特別展の検討をメンバーと行った。 ・2025年度開催の戦後80年特別展にむけて軍事関連遺跡やモニュメント（記念碑等）の調査を行った。 <p>*都市発展記念館・市史資料室・埋蔵文化財センターとの連携研究事業</p>

(3) 外部研究者との連携研究事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
中山恒三郎研究会 (2／3年次)	前年度に引き続き、文書の整理作業を実施し、第一期整理文書資料目録を作成した。また、2025（令和7）年3月7日に研究会を実施し、資料目録の共有、今後の事業展開等について検討を行った。
建築家中村順平に関する基礎的研究 (2／2年次)	横浜高等工業学校建築科（現・横浜国立大学都市科学部建築学科）の主任教授を務め、独自の建築教育で多くの建築家たちを育てた建築家中村順平に関する資料の収集・整理を、外部研究者と連携して実施する。横浜国立大学図書館での資料調査を実施したほか、建築科100周年に向けた記念連携事業および中村の郷里である東大阪市での資料調査について、大阪歴史博物館等と検討をおこなった。
中能登町教育員会との共同調査	令和6年能登半島地震の発生を受けて、能登半島に現存する銭湯経営者寄進物の被害状況の共同調査を行った。成果は、パネル展「能登半島と横浜」で公表した。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

今年度は空調設備更新工事が完了し、2024年7月から2025年3月までの期間で、常設展示室の維持管理を行いました。再開館後は、1階ギャラリーおよび旧第一玄関を活用したパネル展「能登半島と横浜—銭湯がつなぐ人びとの交流—」と連動してコーナー展示を開催したほか、企画展示「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～」では、常設展示室の一部を企画展示室として活用し、常設展示室との回遊性を高めました。毎月第二水曜日は「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項目	事業内容
展示資料の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヨコハマ風景今昔」コーナーの天井部モニター撤去 ・導入部の映像プロジェクターについて、機器更新の検討
コーナー展の開催	<p>1階ギャラリーおよび旧第一玄関を活用した下記パネル展と連動したコーナー展の開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネル展「能登半島と横浜—銭湯がつなぐ人びとの交流—」 令和6年7月20日～9月29日 ・パネル展「続・能登半島と横浜—銭湯経営者の系譜—」 令和7年2月22日～4月13日

	<ul style="list-style-type: none"> ミニ展示「カメラマンがとらえた昭和30年代の銭湯—広瀬始親写真の世界—」 令和6年10月1日～令和7年1月13日 横浜開港資料館所蔵の広瀬始親撮影写真から、藤棚の県営住宅にみる昭和30年代の銭湯の様子を紹介した。
	<ul style="list-style-type: none"> ミニ展示「お風呂屋さんの戦中日記」 令和7年2月22日～7月6日 能登半島出身の銭湯経営者の日記から、横須賀市船越町で「白川温泉」を営んだ小林舛太郎の日常を紹介した。
	<ul style="list-style-type: none"> ミニ展示「広瀬写真に見る1950年代の河川運河」 令和7年3月26日(水)～4月13日(日) 戦後復興から高度経済成長期へと横浜の経済・社会が大きく動いていく1950年代の横浜の河川運河の様子を、横浜開港資料館所蔵の広瀬始親氏撮影写真から紹介した。
学校向け展示	<ul style="list-style-type: none"> 「関外と伊勢佐木町の発展～吉田新田その後～」 学校教員や小学校団体向けに、吉田新田エリアの近代以降の発展に関するパネル展示を常設。

(2) 常設展示観覧者の推移 (想定観覧数17,500人)

	有料入館者(人)			無料入館者(人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
R6年度	1,929	824	2,753	10,818	13,571	343.7%	212	64
R5年度	600	105	705	3,243	3,948	17.3%	50	79
R4年度	1,250	696	1,946	20,804	22,750	141.8%	279日	82

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

今年度は、横浜の都市形成のなかで整備された“河川運河”について、通時的に概観する企画展「運河で生きる」を開催したほか、1階ギャラリーおよび旧第一玄関を活用して、銭湯を通じて能登半島と横浜とのつながりを紹介するパネル展「能登半島と横浜」等を開催しました。企画展に関連して、横浜市庁舎でのアウトドア展や神奈川大学非文字資料研究センターとの連携展示を開催し、積極的にSNSを活用した資料紹介や広報を展開しました。また昨年度は工事による休館で休止していた小学校団体の学習受け入れを、再開しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運	一般 800円	5,771人 (年度内)	横浜が都市として成長していくなかで整備・開削された“河川運河”は、横浜の経済を支える動脈だった。

河”～」令和7年1月18日(土)～4月13日(日) 開催日数74日 (年度内日数:62日)	市内 6 5歳以上・小 中学生 400円	4,413人) うち有料 3,207人 (年度内 2,175人)	企画展では、横浜の市街地を流れる“河川運河”的形成、成長、衰退から復活に至る景観の変化と、そこで生きた人びとの歴史を紹介した。
			<p>【主な関連事業】</p> <p>(1)展示関連出版物 『運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～』 (公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2025年) 企画展示に合わせて刊行。巻末に史料編として「東京・横浜に通った水上学校児童の作文」を掲載した。 A4判 76頁、定価:2,000円(税込)、売上:360冊</p> <p>(2)展示解説(全8回) 1月25日(金)参加者23人、2月1日(土)15人、 2月15日(日)28人、3月1日(土)37人、3月15日(土)(午前・午後2回開催)99人、4月12日(土)101人、4月13日(日)114人 合計417人</p> <p>(3)連続講座(全4回) 2月2日(日)37人、2月16日(日)31人、3月2日(日)41人、3月16日(日)26人 合計135人</p> <p>(4)区民デー(全4回) 運河にゆかりのある西区、磯子区、中区、南区在住の市民の企画展観覧料を無料にした。 2月26日(西区デー)46人、3月5日(磯子区デー)7人、3月19日(中区デー)45人、3月26日(南区デー)33人 合計131人</p> <p>(5)ボートでゆく運河散策 帷子川水系と横浜港河口部をボートで散策した。 3月8日(土)、参加者28人</p> <p>(6)その他 ・横浜高速鉄道との広報連携で、みなとみらい線限定1日乗車券を制作した。 ・SNSを利用して河川運河の歴史に関する情報を発信した。 ・予告動画を作成して事前の周知につとめた。</p>

			に向けて準備を実施した。
--	--	--	--------------

(2) 企画展示室観覧者の推移 (人)

	有料入館者	無料入館者	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者
R 6 年度	2, 175	2, 238	4, 413	—	62	71
R 5 年度	0	0	0	0	0	0
R 4 年度	7, 667	4, 573	12, 240	542. 8%	161	76

(3) 普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
パネル展「能登半島と横浜—錢湯がつなぐ人びとの交流—」 令和6年7月20日～9月29日		横浜から能登半島は遠く離れた場所にあるが、横浜市内で錢湯を営む人びとの中には能登半島にルーツを持つ人が多く、深いつながりがある。本展示では、令和6年元旦に発生した能登半島地震での文化財被害の調査成果もまじえて、写真資料を中心に錢湯を通じた能登半島と横浜のつながりを紹介した。 会場：1階ギャラリー、旧第一玄関、常設展示室
パネル展「続・能登半島と横浜—錢湯経営者の系譜—」 令和7年2月22日～4月13日		パネル展「能登半島と横浜—」では、能登と横浜の双方に残る錢湯経営者の痕跡を紹介したが、見学者や現在の錢湯経営者の方々からさまざまな新しい情報が寄せられた。本展示では、追加調査で明らかになった錢湯経営者の系譜を中心に、改めて能登と横浜とのつながりを紹介した。 会場：1階ギャラリー、旧第一玄関、常設展示室
アウトリーチ展示「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～ in 横浜市役所 開港～戦後占領期の大岡川河口部」 令和7年3月26日（水）～4月1日（火）		現在横浜市役所が建つ大岡川下流域の景観の変化を、企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”」の展示資料からパネルで紹介した。 会場：横浜市役所1階アトリウム展示スペースB
「非文字資料から見る横浜の河川運河」 ①令和7年2月12日（水）～22日（土）、②2025年3月3日（月）～4月12日（土）		横浜の関内・関外地区を流れる運河の役割や景観の変化について、神奈川大学非文字資料研究センターが所蔵する地図資料や写真資料から紹介した。横浜都市発展記念館との連動企画として開催。 会場：①神奈川大学みなとみらいキャンパス1階展示エリア、②神奈川大学横浜キャンパス3号館1階

能登半島文化財復興支援講演会 「能登半島と京浜地域の錢湯経営者—石造物に刻まれた人びと—」 令和6年9月21日（土）	28人	パネル展「能登半島と横浜—錢湯がつなぐ人びとの交流—」の関連事業として、能登半島の文化財復興を支援する講演会を開催した。参加費の半額を能登半島の文化財復興支援のための寄附金とした。 会場：横浜開港資料館 講堂
第4回横浜ユーラシア・スタチュームミュージアム 令和6年11月16日（土）・17日（日）		2年ぶりに開催。16日は7組のパフォーマーを日本大通りに加えてみなとみらい会場と中華街会場に設置した。17日は、日本大通り沿いの8カ所に12組を設置した。昨年度ユーラシア文化館が実施したクラウドファンディングで制作したペリー提督像のお披露目も行った。 ※ユーラシア文化館・開港資料館との共催
開館祭 令和7年3月15日（土）	441人	当館とユーラシア文化館の開館記念日にあたる3月15日（土）に開館祭を開催した。当日は無料開館し、衣装試着体験や建物ツアーなどを実施した。 ※ユーラシア文化館との共催



企画展「運河で生きる」展示解説



企画展関連講座

（4）地域・行政・学術団体との連携事業

項目	事業内容
ハマフェスY165への参加 令和6年5月25日（土）・26日（日）	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町SS会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催した。

関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施	NHKエデュケーションとの共同作業として、関東大震災の被災状況をパノラマで撮影したガラス乾板（西野写真館撮影、開港資料館所蔵）の高精細デジタルデータをもとに、彩色復元（8Kカラー）による写真分析を行った。
神奈川大学非文字資料研究センターとの連携展示	神奈川大学非文字資料研究センターと協力関係を締結し、横浜都市発展記念館で企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”」、神奈川大学非文字資料研究センターで「非文字資料から見る横浜の運河」を開催した。
中能登町教育員会との共同調査	令和6年能登半島地震に関する銭湯経営者寄進物の被害状況の共同調査を行い、パネル展「能登半島と横浜」で成果を公表した。
首都圏形成史研究会 令和7年4月5日（土）	首都圏形成史研究会第132回例会で「河川運河がつないだ横浜の舟運網」を報告し、開催中の企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～」の見学会を実施した。
横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 令和6年10月27日（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、諸味蔵では民俗資料と整理作業の様子を公開した。参加者：556人 ※横浜開港資料館、横浜市歴史博物館との連携事業 主催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・川和小学校ふれあい郷土館・都筑をガイドする会
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣	横浜市みどり環境局が進める「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。 令和6年4月12日（金）、6月19日（水）、9月18日（水） 横浜市市民局が設置した「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」の委員として、当館副館長を派遣した。 令和6年10月1日（火）、令和7年2月4日（火）
「広報よこはま」への執筆協力	・全市版の連載コラム「よこはま彩発見」2月号に「写真で見る都市横浜の河川運河」を掲載した。 ・中区版に連載記事「なか区・歴史の散歩道」を開港資料館と共同で執筆。「横浜の赤線地帯を撮影した写真家・常盤とよ子」「戦後社会事業に尽力した写真家、奥村泰宏」等のテーマで連載した。 ・保土ヶ谷区版に連載記事「保土ヶ谷区のあゆみ」を歴史博物館、開港資料館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。8月号に「保土ヶ谷の関東大震災 一佐藤謙三の日記より一」を掲載した。



「中山恒三郎家」公開事業

(5) 学校連携事業

項目	事業内容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生で学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、エデュケーターと職員による解説を実施。 参加人数：35校 (92クラス、2,934人)
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと連携して、小学校4年生向けの解説・体験メニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施。 ※今年度は実施なし。
神奈川県高等学校文化連盟との共催事業 令和6年11月10日（日）	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県高等学校総合文化祭・第30回神奈川県高等学校社会科研究大会を開催し、審査員として財団職員を派遣した。 会場：横浜市歴史博物館講堂
学芸員実習の受け入れ	※今年度は実施なし。
学外見学の受け入れ	・青山学院大学（10月） 企画展および施設見学

(6) 広報

項目	事業内容
印刷物作成	展示関連広報印刷物、館報の発行を行った。 ・合同特別展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第40号（10,000部）、第41号（10,000部）
優待カードの発行	今年度は休館につき、年間パス「EAハマ発カード」の販売は一時休止した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市・PRTimesを通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動

市内学校・公共施設へのチラシ配布 みなとみらい線各駅へのポスター掲出 ホームページ・X（旧Twitter）・YouTubeチャンネルによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッショナへの協力による撮影場所としてのPR
--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「戦後横浜写真アーカイブズ」の新規公開
メールニュース配信	企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを配信した。（不定期）
オンラインツールによる情報発信	X（旧Twitter）やYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。 【X（旧Twitter）】 <ul style="list-style-type: none">・ツイート数 361 ・エンゲージメント率 2.3%・リツイート数 2,496 ・いいね数 6,797・ツイートインプレッション 618,597 【YouTube】 <ul style="list-style-type: none">・企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～」の予告動画を公開した。・再生回数 9,995 ・総再生時間数 152.9 ・チャンネル登録者 87・公開動画本数 7

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容など
都市発展記念館	<ul style="list-style-type: none"> ・3階展示室クロス貼り替え ・収蔵庫空調機ヒーター故障修理 ・地下機械室空調ダクト断熱材張り付け工事 ・雨漏り箇所現地調査（建築保全公社・市教委） ・1階多目的トイレ修理 ・地下通路カビ殺菌 ・空調機点検・ファン類精密点検 ・電気設備年次点検 ・消防設備点検（年2回） ・エレベータ点検 ・自動ドア点検 ・雑廃水槽清掃 ・日常設備点検 ・日常清掃・ガラス清掃・カーペット清掃 ・防虫防除 ・植栽管理 ・ガス燈点検

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

ミュージアムショップでは企画展に対応した商品の仕入れ、独自の魅力ある商品開発を行った。また図録等オンラインショップでのPRに努めた。今年度は、横浜DeNAベイスターズの日本一を記念して、優勝パレードにあわせて当館の展覧会図録『ベースボールシティ横浜』と『スポーツの祭典と横浜』の割引セールを実施した。

（2）自動販売機（1台）の設置

＜各事業の推移＞

（千円）

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
ミュージアムショップ売上	4,179	1,415	7,169
自動販売機手数料収入	42	28	79

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度は「戦後横浜写真アーカイブズ」を新規に公	A

	開し、館蔵資料の核である戦後写真コレクションから、五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子各氏の代表作を公開した。	
調査研究事業	各テーマの調査研究を順調に進めたほか、次年度の戦後 80 年に向けて開港・埋文と連携して研究会を開催し、展示内容等を検討した。また能登半島地震を受けて現地での文化財調査を実施し、その成果をパネル展に反映させた。	A
常設展事業	パネル展と連動したコーナー展やミニ展示の開催、また企画展の一部を常設展示室で展開するなど、積極的に常設展示室への誘客に努めた。1 日あたりの入館者数は前年度の 81% にとどまったが、年度末まで連続して 5 本の展示を開催して、これまで取り組んできた調査研究の公開につなげた。	B
企画普及事業	当館の特色を活かした企画展「運河で生きる」を開催し、関連事業とあわせて見込みを上回る成果を得た（入館者数 101%、有料入館者数 145%）。その他 1 階ギャラリーや旧第一玄関を活用したパネル展や関連講演会、館外でのアウトリーチ展、歴史的建造物公開事業などを着実に実施した。	S
情報事業	ホームページでは新規に「戦後横浜写真アーカイブズ」を公開して、「戦後の横浜」コーナーを充実させた。また X や YouTube を積極的に活用し、展示関連情報や調査研究成果の情報発信を行った。	A
施設維持事業	不具合が発生した箇所や、老朽化が進んだ設備の修理・対応について、着実に進めることができた。各種設備の点検についても適切に実施した。	A
収益事業	今年度は 7 月下旬からの店舗再開となり、企画展関連の出版物を中心に、オンラインショップも含めて PR に努めた。販売実績は休館前の 85% にとどまった。	C

5 ユーラシア文化館事業

ユーラシア文化館は、「横浜で世界とつながる」をコンセプトに、国際文化都市横浜の多文化共生社会の進展と、市民のユーラシア文化への理解促進に寄与するため、調査研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施しています。

4月から 7 月下旬までの全館空調設備更新工事にともなう休館期間を利用し、企画展示室及び

常設展示室の修繕を行いました。企画展示は、横浜市・仁川市パートナー都市協定15周年を記念し、外部資金を導入して、仁川広域市立博物館など国内外の機関・個人から資料提供を受け、韓国服飾関係の特別展「思い出のチマ・チョゴリ」を実施しました。特別展にあわせて、講演会などを開催し、市民の方が親しみながらユーラシア文化の理解を深める活動を実施しました。

調査研究では、ユーラシア地域における東西文化交流や多文化共生都市としての横浜の歴史や文化に関わる調査研究を進め、その成果を再開館した常設展示に加えるとともに、紀要や広報誌などで発信しました。

4回目となる「横浜ユーラシア スタチュー・ミュージアム」は、横浜の秋の風物詩として年々期待が高まっています。今年は日本開国・ペリー横浜上陸170周年となることから、クラウドファンディングで募った資金を活用し、オリジナルスタチュー「ペリー提督像」を製作しました。

令和6年度も様々な取組を通じて、街を舞台とする「街に出ていく博物館」として、地元諸団体や企業などと連携し、地域社会の文化創造に貢献しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈0点 寄託0点	
資料の購入	0点	
資料熟覧	4件	研究者による調査研究に対応した。
文献資料熟覧	1 件	研究者による調査研究に対応した。
資料の貸出	0件	
収蔵資料の画像利用	1件	千葉市科学館企画展への画像提供

（2）文献資料の整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
和図書・洋図書	書誌データの入力を行った。入力件数 1,142 件
洋雑誌	書誌データの入力を行った。17 件
和雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 515 件

（3）資料収集実績

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (0)	0 (0)	0 (156)	0 (0)	0 (156)	9,372 (9,372)
図書	2 (19)	0 (0)	22 (12)	0 (0)	24 (31)	22,701 (22,679)
雑誌	0	0	31	0	31	8,532

	(0)	(0)	(41)	(0)	(41)	(8,501)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)
合 計	2 (19)	0 (0)	53 (209)	0 (0)	55 (228)	40,627 (40,572)
累計	973	2	39,470	182		

※ () 内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	2024年度は実施せず。前年度に燻蒸処理を済ませた資料を、横浜市歴史博物館から横浜ユーラシア文化館収蔵庫に戻した。
環境検査	虫歯による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号）

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げ、企画展などで成果を公表しました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
ユーラシアにおける工芸品の研究 (2/5年)	ウズベキスタンの博物館や遺跡で中世イスラーム時代のガラス器の調査と陶器工房での聞き取り調査を行った。
スタチュー芸と見世物の研究 (1/3年)	大道芸・サーカス研究の動向について、情報収集を行った。
ユーラシアにおける人形製品の研究 (4/5)	日本列島・アフリカにおける人形土製品について、類例の収集と検討を行った。
ユーラシア概念をめぐる研究 (4/5年)	個々の調査研究に即してユーラシア概念についての検討を行った。
北方ユーラシア文化の研究 (2/5年)	オホーツク文化の骨角器について資料調査と学会発表を行った。
横浜市内の外国系市民の歴史文化に関する研究 (3/5年)	横浜在住のコリアン女性への服飾資料調査やインタビューなどを実施し、その成果を特別展「思い出のチマ・チョゴリ」やニュースターなどで公開した。

ユーラシアにおける古代・中世日本の研究（2／5）	昨年のシンポジウム「東アジアの帶金具と古代の日本」を通じて知遇を得た研究者と交流し、再来年度の企画展に向けた情報の収集をおこなった。
令和7年度以降開催予定の企画展調査	令和7年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

（2）研究紀要の発行

本年度は紀要の新刊発行はみあわせたが、これまでのバックナンバーのPDF化と横浜ユーラシア文化館ホームページでの公開（2020年第8号以降）を実施した。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

再開館にあたり、常設展示室に新たな資料や解説パネルを追加し、来館者へのサービスの向上を図りました。さらにトルコ細密画展に合わせての展示入れ替えをおこない、新年の企画として干支展示を実施しました。

（1）常設展示室での実施事業

項目	事業内容
展示更新	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜華僑の婚礼衣装を展示し、横浜に関わる要素を加えた。 ・展示室入り口の世界地図パネルに常設展示品の出土地を表示した。 ・トルコ細密展にあわせて、所蔵するトルコ関係絵画を展示した。 ・干支コレクションアワード（ネット投票）に参加し、新年の干支「ヘビ」に関する資料「蛇の骨のネックレス」などを紹介した。

（2）常設展示観覧者の推移（目標数 19,000 人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者（人）
	大人	小中	計					
R6年度	1,278	418	1,696	10,911	12,607	233.9%	212日	59.5
R5年度	2,076	76	2,152	3,236	5,388	56.6%	50日	107.7
R4年度	3,011	561	3,572	20,708	24,280	155.3%	277日	87.7



左：入り口地図パネル、中央：トルコ風景画（小間嘉幸氏作品）、右：横浜華僑の婚礼衣装

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

今年度は、国内外の様々な団体・個人と協働し、2本の企画展を実施するとともに、各種の普及活動を実施しました。また活動の様子をSNSで積極的に配信しました。

（1）企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
トルコ現代細密画展 R6. 7. 20（土）～8. 4（日）	300円	1, 024人	日本とトルコ共和国の外交関係樹立百周年を記念して、トルコの現代細密画の展示を駐日トルコ大使館・トルコ伝統芸術協会と共に開催した。トルコ各地の都市を描いた細密画 41 点を展示するとともに、細密画の画材なども展示した。
横浜市・仁川広域市パートナー都市提携 15 周年記念「思い出のチマ・チョゴリ」 R6. 10. 4（土）～R7. 1. 5（日）	800円	4, 900人	朝鮮半島の女性の伝統衣装であるチマ・チョゴリの歴史と文化、また横浜と仁川で暮らす市民の思い出のチマ・チョゴリについて、着用した人びとのライフストーリーとともに紹介した。
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



トルコ現代細密画展テープカット



思い出のチマ・チョゴリ展ギャラリートーク

（2）企画展示室観覧者の推移 (人)

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1日平均入館者
R 6 年度	3, 240	2, 684	5, 924	—	89	66
R 5 年度	0	0	0	0	0	0
R 4 年度	2, 964	4, 592	7, 556	65. 4	70	108

（3）講座・講演会

項目	参加者数	内 容
細密画ワークショップ	19人	7月21日（日）トルコのマルマラ大学美術学部のシェフナズ・ビチエル准教授の指導による細密画ワークショップを開催した。
「思い出のチマ・チョゴリ」記念講演会の実施 R6.12.21（土）	103人	韓服研究家の張裕幸氏による講演会「チマ・チョゴリの世界～歴史装束から現代婚礼衣装まで」を開催し、韓服の歴史への理解を深めた。



左：トルコ現代細密画展ワークショップ 中央：チマ・チョゴリ展関連講演会 右：韓服衣装体験

（4）普及啓発

項目	参加者数	事 業 内 容
「なか区ブックフェスタ」への参加 R6.10.1～11.30		「思い出のチマ・チョゴリ」展にあわせて「韓国の伝統衣装を知ろう！」を開催、韓服関係資料コーナーを設けた。
チマ・チョゴリ衣装体験の実施。全16回	573人	「思い出のチマ・チョゴリ」展にあわせて、日本大韓民国婦人会、駐横浜大韓民国神奈川教育院および協力をえて、衣装体験を実施し、大変好評を博した。
ワールドフェスタに参加 R6.10.12		山下公園一帯で開催されたワールドフェスタに参加し、館の活動や企画展の宣伝につとめた。
私が撮ったスタチュー・ミュージアム2023 R6.11.7～11.20		過去に開催されたスタチュー関連イベントの写真を一般公募した。日本大通り10カ所・中華街1カ所の計11カ所の会場で、21点の作品を11月7日～20日にわたって展示した。
第4回横浜ユーラシア・スタチューミュージアム R5.11.16(土)・17(日)		11月16日・17日に2年ぶりに開催した。16日は7組のパフォーマーを日本大通りに加えてみなとみらい会場と中華街会場に設置した。17日は、日本大通り沿いの8カ所に12組を設置した。ペリー提督像の一般公開も行った。今年はLive @横浜に参加した。
ペリー提督像の製作とお	68人	ペリー横浜上陸170周年にあわせて、ペリー提督のスタチュー像の制作を行った。

披露目会の実施。		ュー（人間彫刻）を制作した。昨年度実施したクラウドファンディングによるものである。 10月18日に支援者とメディアを対象としたお披露目会を実施し、11月16・17日に第4回横浜ユーラシア・スタチューキュージアムで一般公開した。また、クラウドファンディングのリターンとして、11月23日に開港5都市会議の開催された横浜市開港記念会館にも設置した。
開館祭		無料開館や衣装体験などを実施した。



左：スタチューキュージアム 中央：開港5都市会議の会場に設置 右：開港資料館とワールド・フェスタに参加（運河パークにて）

（5）学校連携事業

項目	事業内容
市内学校団体見学の受入	・横浜都市発展記念館とともに、吉田新田学習プログラムを実施した。 受入れ実績 35校 92クラス 2,934人 ・国語学習（「スホの白い馬」）の充実を図るために、市内外の小学校にモンゴル体験キット（モンゴル民族衣装、馬頭琴）を用意した。
教員向け研修の実施	休館中につき休止
学芸員実習の受け入れ	11月14日（木）～11月20日（水）のうち休館日を除く6日間、6名の実習生を受け入れた。

（6）市民協働事業

項目	事業内容
市民ボランティアによるワークシップの実施	開館祭および韓服衣装体験で着付けの補助として実施。

（7）広報

項目	事業内容
印刷物作成	館報『横浜ユーラシア文化館ニュース News From EurAsia』第40号を刊行した。
優待カードの発行	年間パス「EAハマ発カード」の販売を休止した。 年会費 1,500円
その他広報	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市・PRTimesを通じての記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・みなとみらい線各駅へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。 ・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。 ・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。 ・市外都市旅行代理店への施設説明。 ・フィルムコミッショナへの協力による撮影場所としてのPR。 ・近隣へのダイレクトメール発送。

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。 文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物・休館や再開館についての広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 158,130 件（前年度の 151 %）
SNSによる情報発信	X（旧Twitter）はツイート数 65、フォロワー2,330 人、インプレッション 133,507。大道芸用アカウントはツイート数 22、フォロワー 463 人、インプレッション計 160,123。YouTube は新規動画を上げていないが、登録者は 268 人、過去動画 70 本が閲覧可能。Facebook はフォロワー130 人で随時更新中である。

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> ・3階展示室クロス貼り替え ・収蔵庫空調機ヒーター故障修理 ・地下機械室空調ダクト断熱材張り付け工事 ・雨漏り箇所現地調査（建築保全公社・市教委） ・1階多目的トイレ修理 ・地下通路カビ殺菌 ・空調機点検・ファン類精密点検 ・電気設備年次点検 ・消防設備点検（年2回） ・エレベータ点検 ・自動ドア点検 ・雑廃水槽清掃 ・日常設備点検 ・日常清掃・ガラス清掃・カーペット清掃 ・防虫防除 ・植栽管理

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

ミュージアムショップでは企画展に対応した商品の仕入れ、独自の魅力ある商品開発（企画展「思い出のチマチョゴリ」に関連して、オリジナル「はまチョゴリ」の製作・販売）を行った。また図録等オンラインショップでのPRに努めた。

（2）自動販売機（1台）の設置

＜各事業の推移：再掲＞ (千円)

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
ミュージアムショップ売上	4,179	1,415	7,169
自動販売機手数料収入	42	28	79

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料整理を着実に実施し、資料の熟覧や他館への貸出など外部利用者へのサービスにも対応した。	A

調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗し、企画展等で成果を公表した。	A
常設展事業	7月20日の再開館にあたり新たな資料や解説パネルを追加して展示の充実に努めた。	A
企画普及事業	オープニングイベントとして「トルコ現代細密画展」を開催し、10月20日から令和7年1月5日まで「思い出のチマ・チョゴリ展」を開催した。	A
情報事業	HPを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用し、広報強化に努めた。また、TwitterやYouTubeなどインターネットを通じての情報発信も積極的に行った。	A
施設維持事業	不具合が発生した箇所や、老朽化が進んだ設備の修理・対応について、着実に進めることができた。各種設備の点検についても適切に実施した。	A
収益事業	7月下旬まで休館のため収益事業は振るわなかったが、オンラインショップのPRに努め、企画展図録などはHPの企画展ページやYouTubeチャンネルと連動させて、より内容が伝わりやすいように工夫した。	B

6 三殿台考古館事業

資料収集保管事業・調査研究事業は、発掘調査後60余年を経過した三殿台遺跡の出土資料について、再確認・再整理や資料の修復作業、保管していた土壤の精査をおこない新たな資料の抽出作業を継続しました。また、フィルム・紙ベース等の記録資料については経年劣化による毀滅が危惧されており、保存および活用を図るためにデジタル化を進めました。図書管理については、新規寄贈図書の台帳作成および管理ソフトによる収蔵図書のデータ化をおこないました。

常設展事業では、展示資料について理解が深まるよう新たにキャプションを追加しました。土日祝日の来館者に対して、遺跡や展示室の解説をガイドボランティアの協力を得て実施しました。また復元住居の入口部分を補修して雨水が屋内に浸入しないようにしました。住居跡保護棟内では専門の業者に亀裂の補修や蘇苔類等の防除を定期的に実施しました。

学校連携では小学校の学校見学を中心に対応しています。担任の先生方には下見の際に一部の体験学習プログラムを習得し当日担当していただくなど、学校と協働して授業づくりをおこなっています。隣接する岡村小学校では複数学年にわたって学習の支援をおこないました。また、中学校の職業体験や高等学校の見学も受け入れました。

企画普及事業は、弓矢うち大会や体験学習などのほか屋外で楽しめるイベントを開催して、当館の魅力をアピールしました。なお、当館では体験学習をはじめとするイベントは屋外で実施しているため、夏季の熱中症対策として、年間行事のうち盛夏の7・8月にはイベントを開催しないこと

を方針としています。

広報ではこれらのイベント情報を当館ホームページ・財団メルマガ・X・Instagramなどのweb媒体や各種広報紙で広く市民に発信しました。

また賑わいの創出として、夏にはミストシャワーなどを配置し、秋には期間限定のどんぐり拾いに近隣保育園・幼稚園へ誘致の手紙を送り来館を促しました。冬季には高台という立地を生かした「夜景」の鑑賞会などを開催しました。春秋2回のダイヤモンド富士鑑賞会は毎回楽しみにしている方々もいらっしゃいます。

施設維持事業としては、西側外縁付近の樹木が巨木化し、隣接する民家への倒木が危惧されたため、優先的に剪定しました。日常管理では出勤スタッフによる施設内の清掃、草刈り、小規模な樹木剪定をはじめ建物屋根の補修、雨樋の清掃など、管理や点検・補修をおこない、老朽化する施設の安全管理に努めました。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタル化等を行い、資料の保全を図りました。

（1）保管資料再整備事業

項目	事業内容
出土品保管再整備事業	整理ボランティアの協力を得ながら、資料の洗浄や復元・実測等をすすめた。保管土壤の精査で微小巻貝や小骨片などの新たな資料を抽出した。
記録資料のデジタルデータ化事業	測量図面や写真フィルム等アナログデータのデジタル化を継続しておこなった。すでにスキャン済みのデータについて、該当する構造の特定作業をすすめた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された249冊の図書を整理分類し収蔵した。データ管理ソフトを変更するとともに過去データの確認作業をおこなった。

（2）調査研究事業

項目	事業内容
三殿台遺跡の再評価	市民ボランティアの協力を得て、出土品の再整理作業（分類・接合・復元・実測）を行い、再評価のための基礎データを集積した。
三殿台考古館収蔵資料の活用	小学6年生の社会科見学に際して、三殿台遺跡発掘調査の映像資料（web）を事前学習に活用してもらうよう推奨した。また、土器片や石器等の収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史学習の補助として活用した。

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） 令和6年度来館者数 11,434人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体及び一般来館者の見学時に、遺跡や展示品についての解説を丁寧に行いました。

（1）常設展示の維持管理と展示内容の充実

項目	事業内容
遺跡案内・展示解説の実施	職員が団体及び一般来館者の見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚に及び展示資料について、1,848人に案内・解説を行った。
解説キャッシュの追加	展示品への理解が深まるよう、解説キャッシュを追加した。
住居跡表示の補修	色分けされている住居跡表示擬木の一部が退色したため彩色した。

(2) 住居跡保護棟の適切な保全

項目	事業内容
住居跡保護棟のメンテナンス等	豎穴住居跡保護棟のメンテナンスを専門業者に委託した。(隔月実施)

3 企画普及・広報事業 (定款第4条第1項第1号②)

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう、体験学習や鑑賞会など多種のイベントを開催しました。またこれらを広く周知するためweb媒体を積極的に活用しました。

(1) 企画普及事業

項目	参加人数	事業内容
「いそっぴゴールデンウィーク2024」スタンプラリーへの参加	64人	4月21日から5月6日の期間で磯子区民利用施設館長連続住会主催の「いそっぴゴールデンウィーク2024」スタンプラリーに参加した。
三殿台遺跡整理ボランティア	383人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測及び石器の実測作業を行った。 記録資料整理に際しては、写真資料整理・デジタル化作業を行った。
遺跡ガイドボランティア	延べ107人	土日祝日を中心に、ボランティア6人が来館者へ遺跡解説をおこない、延べ1,730人をガイドした。
講師派遣	計30人	地区センター等での勾玉作り体験学習に講師を派遣した。 8/1 上中里地区センター 8/6 大岡地区センター 8/17 瞳コミュニケーションハウス
ホームページ等の運営		ホームページ・X(旧ツイッター)及びInstagramで催事・近況等を広報した。 ホームページに年間催事案内を常時掲載し、体験教室等のイベント情報を発信した。
その他広報		・広報よこはま磯子区版および区民活動支援センター発行の情報紙に体験教室等の情報を提供した。 ・横浜市のイベント情報に体験教室等の情報を提供した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報誌に広告を掲載した。 ・web 媒体にイベント情報を提供した。
--	--	---

(2) 体験学習事業

項目	参加人数	事業内容
体験学習の実施		<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィーク体験教室 <ul style="list-style-type: none"> ①5/3 (祝) 古代人体験教室 ②5/4 (祝) 勾玉作り体験教室 ③5/5 (祝) 石器作り体験教室 5人 ・春の弓矢うち大会 (5/18) 9人 ・開港記念日イベント「火起こし体験」(6/2) 22人 ・キャンプ in 三殿台 (7/20・21) (6家族) 15人 ・秋の勾玉作り体験教室 (9/7) 6人 ・秋の弓矢うち大会 (9/14) 8人 ・土器作り体験教室 (10/5) 9人 ・土偶作り体験教室 (10/6) 10人 ・土器作り教室 (10/12・13) 6人 ・石器作り体験教室 (10/19) 25人 ・野焼き (11/23) 9人 ・冬の弓矢うち大会 (1/11) 22人 ・勾玉作り体験を実施した。 (4/12・8/15・12/7)



古代人体験教室 (くるみ割り)



キャンプ in 三殿台



土器・土偶作り体験教室 野焼き

(3) グッズ製作・販売事業

項目	事業内容		
缶バッジの製作・販売	売上げ	90 個 × @100	9,000 円
土器片ペンダントの製作・販売	売上げ	39 個 × @550	21,450 円
ミニチュア土器の製作・販売	売上げ	4 個 × @900	3,600 円

勾玉づくりキットの製作・販売 (青田石・滑石)	売上げ 57 個×@450 25,650 円 (青田石) 売上げ 109 個×@350 38,150 円 (滑石)
「三殿台遺跡北側貝塚調査」の販売	売上げ 12 冊×@1,000 12,000 円

(4) 学校連携事業

項目	人 数	事 業 内 容
学校団体の受入れ	1,667 人	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 6 年生の社会科見学は、引率教諭との事前打合せを経て、三殿台遺跡の解説及び 4 種類の体験プログラムを組み入れ実施。16 校 1,197 人が来館した。 ・根岸中学校(7人) ・県立横浜総合高校(13人)、県立磯子工業高校(21人) ・鶴見大学(8人) ほか
クラブ活動・授業づくり支援	各回 20 人 65 人 25 人 各回 62 人 各回 21 人 70 人 8 人	<ul style="list-style-type: none"> ・岡村小学校の地域交流クラブに講師 2 名を派遣し、勾玉作り・弓矢づくり等の指導を行った。(全 8 回) ・同 1 年生の生活の時間に対応した。 ・同 3 年生の総合学習に対応した。 ・同 6 年生の土器作り指導に職員 2 名及び外部講師を派遣した。(全 3 回) ・同支援学級の見学に対応した。(全 3 回) ・蒔田小学校 3 年の地形調べに対応した。 ・横浜国立大特別支援学級を受け入れた。
職業体験	11 人	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校 4 校 (藤の木・汐見台・岡村・大道) の職業体験を受け入れた。

(5) 施設連携事業

項目	事 業 内 容
歴博企画展	出土遺物を歴博企画展「君も今日から考古学者！」に貸し出した。

(6) その他利用促進事業

項目	参加人数	事 業 内 容
弓矢うち体験	3,232 人	弓矢うちの無料体験を実施した(通年)。
ダイヤモンド富士観賞会	秋 4 人 春 19 人	秋・春の「ダイヤモンド富士」の期間に閉館時間を延長して鑑賞会を実施した。悪天候のため春季 1 日のみ可視。
夜景観賞会	6 人	12/14 竪穴住居跡や通路をライトアップし、高台にある遺跡から日没やヨコハマの夜景を鑑賞した。
ゆずファンの対応	220 人	フォークデュオ・ゆずのファン(ゆずっこ)が聖地巡礼で訪れた際に解説やマップ配布などのサービスを提供した。

どんぐり銀行		近隣の保育園・幼稚園等を誘致してどんぐりを拾い集めてもらい、「どんぐり銀行」に預け入れた。参加した園児には枯木の絵に葉っぱシールを貼ってもらった。
ミスト噴霧 タープテントの設置		・来館者が夏季の暑さを凌げるようミストを噴霧した。 ・日差しの強い時期に日除けのテントを設置した。
岡村公園でのパネル展示		岡村公園と連携して三殿台遺跡の紹介パネル展を開催した。
貫頭衣の貸し出し		新規に記念写真用に貫頭衣を貸し出した。
樹木名札の掲示		新規に樹木名を記載した木札を主な樹木に掲げた。
三殿台クイズの開始		新規に遺跡を巡ってクイズに回答し正解者には景品を差し上げた。
眺望パネルの設置		新規に遺跡から眺望できる場所の名入りの写真パネルを設置した。

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に安心感と満足感を与えるよう運営しました。

（1）三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
三殿台考古館	施設の保守管理、補修・修繕 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業・施設内巡回などの日常管理、業者委託による年末年始の巡回警備 ・遺跡内草刈り、植栽剪定 ・復元住居入口補修 ・保護棟、旧事務棟屋根の仮補修 ・保護棟、旧事務棟、パーゴラ雨樋の清掃

（2）三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
自動販売機売り上げ（千円）	21	23	23	27

（3）三殿台考古館施設入場者の推移

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
三殿台考古館施設入場者（人）	11,425	12,902	13,838	15,780



学校見学



岡村小6年 土器作り体験



ダイヤモンド富士 (3/14)

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	整理ボランティアと協働して、出土資料（自然遺物）の洗浄・選別などの基礎整理や実測・拓本採取などの資料整理、写真フィルム・測量図面等記録資料のデジタルデータ化作業を継続した。	B
常設展事業	学校・一般団体、その他来館者へ職員及びガイドボランティアが展示解説を実施した。展示室の解説キャプションを追加した。小学6年生の社会見学をはじめ小学校～大学の学校利用は約40校 約2,300人を数えた。	B
企画普及事業	無料の弓矢うちは3,200人余りが体験した。ダイヤモンド富士・夜景観賞会では、来館者に景観を楽しんでいただくため開館時間を延長した。ボランティアガイドは延べ107人の協力により1,730人の来館者に解説を行った。 貢頭衣の貸し出し、樹木名札の掲示、三段台クイズの実施、眺望パネルの設置など、新規の来館者サービスを開始した。	A
施設維持事業	出勤者全員での開館前の清掃など、毎日の環境整備を実施した。倒木の恐れがある民家に面した老木を優先的に剪定するなど、安全面を重視した維持管理をおこなった。	A

III 文化財業務委託事業

1 埋蔵文化財センター事業

令和6年度も前年度に引き続き、各事業を滞りなく進めました。

発掘調査事業では、瀬谷区の上瀬谷通信隊跡地の調査において、本調査（3年目）・試掘調査（5年目）を実施しました。同地で行われる GREEN × EXPO2027 に関連する調査もあとわずかとなり、令和7年度も引き続き調査を行う予定です。また昭和61～62年に調査された、県内唯一の古代製鉄遺跡栄区上郷深田遺跡の整理作業を完了し、重要遺跡の発掘調査報告書を無事に刊行しました。

1970～80年代に発掘調査された港北ニュータウンの遺跡群については、縄文時代の環状集落として著名な神隱丸山遺跡の整理作業を継続し、貝塚編・自然科学分析編の報告書（『神隱丸山遺跡Ⅲ』）を刊行しました。

収蔵物については、収蔵スペースの飽和状態を緩和するために、港北ニュータウン遺跡群の報告書刊行済みの資料について、補助金を利用して保管再整備事業を引き続き行いました。

企画展・普及事業としては、昨年度試掘調査報告書を刊行した港北区小机城跡について、港北図書館・城郷小机地区センターと連携して展示を行い、また港北公会堂にて成果報告会を行い、地域の歴史研究の普及に努めました。さらに栄区地域振興課との継続的な普及事業として、宮ノ前横穴墓見学会（大人向け）、勾玉づくり教室（子供向け）の2事業を令和5年度に引き続き協働で開催しました。

普及事業に関連した刊行物として、「シリーズ横浜の遺跡」の3冊目となる「北川谷遺跡群」を刊行し、また広報紙「埋文よこはま」も発行して横浜の遺跡の魅力を市民に向けて発信しました。

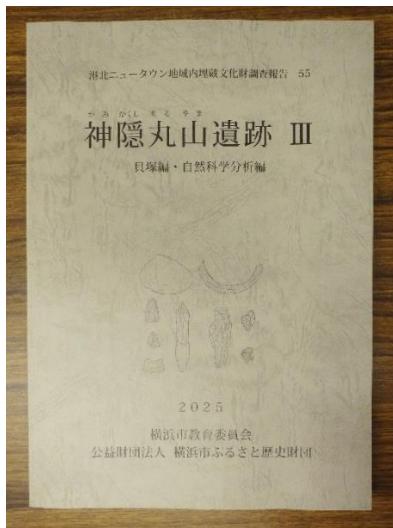
令和6年度は、引き続き感染症の対策を取りつつ、小学校の歴史学習の支援や中学生の職場体験の受け入れを行いました。また勾玉の説明動画等に加え、新たに小机城を紹介する動画を作成しYoutubeにて公開しました。X（旧ツイッター）では引き続き最新情報の配信や考古学に関するクイズを出題するなどし、ネットを介した利用者増に貢献しています。

1 埋蔵文化財整備事業（定款第4条第1項第1号①）

港北ニュータウン地域内の遺跡群の資料整理を継続しました。また、保管整備事業に関連して、収蔵状況の圧縮・改善作業を実施しました。さらに、他施設から寄贈される報告書等の図書の受け入れを行いました。

（1）遺物整理・調査研究

項目	事業内容
神隱丸山遺跡の整理 (6／8年次)	神隱丸山遺跡（都筑区早渕一丁目所在）は、縄文時代中・後期の良好な環状集落であり、港北ニュータウン遺跡群を代表する集落遺跡である。令和6年度は「貝塚編・自然科学分析編」を刊行した。



神隠丸山遺跡発掘調査報告書



神隠丸山遺跡整理作業（デジタルトレース）

（2）資料保存・整理

項目	事業内容
出土品等保管再整備	港北ニュータウン遺跡群の報告書刊行済み遺跡の資料について、保管再整備を実施。再収納・圧縮作業、台帳作成作業、ラベル張り替え作業等。1遺跡 524 箱に対して実施。
図書等の受入れ・整備	受贈図書のほか蔵書の管理について、データベース化を図り、市民の利用に供した。 受入れ点数 合計 973 冊
収蔵資料の受入れ・収納	令和6年度に新たに受け入れた発掘調査資料は無かった。



出土品保管再整備事業

2 普及・広報・企画展事業（定款第4条第1項第1号②）

港北ニュータウン開発や公共事業等に伴う発掘調査の成果を市民へ還元し、埋蔵文化財保護への関

心を高めるため、広報紙やホームページ等で情報を発信し、埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを開催しました。

(1) 広報・刊行物

項目	事業内容
ブックレットの刊行・販売	遺跡の内容を市民に分かりやすく伝えるためのブックレットをシリーズ「横浜の遺跡」として販売した。令和6年度は新たに「北川谷遺跡群」を刊行した。 ・vol.1 「横浜市戸塚区舞岡熊之堂の戦争遺跡」 ・vol.2 「横浜市金沢区野島貝塚」 ・vol.3 「横浜市都筑区北川谷遺跡群」
広報紙の刊行 (年2回)	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信した。 ・「埋文よこはま」48 「発掘された仏教施設」 10,000部 ・「埋文よこはま」49 「縄文時代のアクセサリー①」 10,000部
WEBによる情報公開	財団開設のホームページ上で、イベントの案内や刊行物紹介等を行い、Q&Aで市内の埋蔵文化財情報を掲載した。本年度は20回の更新。
X(旧Twitter)による情報発信	Xを利用した情報発信を行い、埋蔵文化財に関するクイズや日々の活動報告、展示室の資料紹介など、より親しみやすい内容でフォロワー及びインプレッションの増加を目指した。 本年度更新:27回 フォロワー数:1,770 インプレッション:55,530 (R7年度)
動画配信 (YouTube)	YouTubeを利用し、動画の配信を行った。令和6年度は小机城を紹介する動画を作成し、新規配信した。
その他広報	広報よこはまへのイベント情報掲載、県埋蔵文化財センターHPへの情報掲載



広報紙「埋文よこはま」

(2) 講座・講演会等の開催・講師派遣・

名称／開催期間	事 業 内 容
講話「発掘された小机城」 令和6年11月16日(土)	令和3・4年度に行った試掘調査の成果を市民に分かりやすく説明。港北区地域振興課・港北図書館と連携して実施。応募者多数のため午前・午後の2回行った。 参加者：午前32人・午後27人（応募定員：各回40人） 会場：港北図書館 会議室
歴史散策「発掘された小机城を歩く」 令和6年12月14日(土)、15日(日)	令和3・4年度に行った試掘調査成果を発掘担当者が現地で分かりやすく解説した。応募者多数のため2日間行った。 参加者：14日28人・15日25人（応募定員：20人） 会場：小机城跡（現地）
講演会「小机城から中世の横浜を探る」（令和6年度講座 横浜の考古学）	小机城の試掘調査実施を記念して小机城をめぐる横浜の中世史をテーマに講演会を行った。 参加者：222人（応募定員：300人） 会場：港北公会堂
栄区子ども向け歴史講座「親子で勾玉づくり」（栄区協働事業） 令和6年8月3日(土)	子供向けのイベントとして親子で参加できる勾玉づくり教室を栄区地域振興課と協働で行った。勾玉づくりの前に栄区の考古学に関するミニ講座も実施。応募数超過のため、午前・午後の2回行った。 参加者：午前34人・午後31人（応募定員：各回30人） 会場：栄区役所 新館4階 8・9号会議室
「第2回宮ノ前横穴墓群見学会」（栄区協働事業） 令和7年2月2日(日)※雨のため2月11日に順延して実施	栄区鍛冶ヶ谷市民の森内に所在する「宮ノ前横穴墓群」を見学する講座を栄区地域振興課と協働で実施。昨年度に引き続き2回目。普段は中に入れない横穴墓群について、南部公園事務所に許可を取り、特別に内部を見学できるようにした。また、現地見学前に横穴墓に関する座学を実施。 参加者：22人（応募定員：20人） 会場：栄区役所（座学）・鍛冶ヶ谷市民の森（現地見学）



横浜の遺跡展講和（港北図書館）



小机城跡講演会（港北公会堂）



横穴墓見学会（栄区鍛冶ヶ谷市民の森）



勾玉づくり教室（栄区役所）

（3）展示等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
令和6年度横浜の遺跡 展「発掘された小机城 —令和3・4年度小机 城跡埋蔵文化財試掘調 査成果報告展—」 第1期：令和6年11月 1日（金）～29日（金） 第2期：令和6年12月 1日（日）～令和7年1 月31日（金）	令和3・4年に実施された試掘調査の成果報告をいち早く市民に公開するため、地元の港北区の施設にて解説パネル・調査写真パネル・出土遺物等を使った分かりやすい展示を行った。 第1期会場：港北図書館 1階 港北まちの情報コーナー 第2期会場：城郷小机地区センター 2階 展示スペース
エントランス展示	・「舞岡熊之堂遺跡とは」令和6年1月4日～令和6年5月31日 舞岡熊之堂遺跡の全体像を紹介するとともに、縄文土器を展示。 ・「真紅で彩る時代—舞岡熊之堂遺跡の弥生時代」令和6年6月1日～令和7年3月31日 舞岡熊之堂遺跡の弥生土器を紹介した。



横浜の遺跡展（港北図書館）



エントランス展示（埋文センター）

（4）学校対応・見学者対応

名称／開催期間	事業内容
学校対応	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への訪問授業 4校 土器等の発掘調査の出土遺物を教室へ持ち込み、本物の遺物に触れながら地元の遺跡から原子古代の暮らしを学ぶ授業を行った。 <p>※秋季に施設改修工事期間があったため、小学校見学1件、中学校職場体験1件の受け入れができなかった。</p>



小学校訪問授業

（5）講師派遣・その他外部機関協力

名称／開催期間	事業内容
講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川大学エクステンション講座『列島東部の考古学IV』 7/13 21人 ・(公財)かながわ考古学財団講座『元町貝塚』について 9/29 25人 ・綾瀬市歴史講演会『綾瀬市域周辺の縄文時代について』 10/12 57人 ・横浜さいかちの会『七石山・宮ノ前横穴墓群見学』 11/6 14人

	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜国立大学シンポジウム 常盤台遺跡とはどのような遺跡だったのか 11/30 120 人 ・青葉区制 30 周年青葉の歴史外歩き講座 12/4 20 人 ・神奈川県考古学会跡調査・研究発表会（舞岡熊之堂遺跡）1/19 95 人 ・保土ヶ谷区公園愛護のつどい 講演「保土ヶ谷区の弥生時代」 2/6 164 人
その他外部機関協力	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大学 「横浜市内の遺跡出土動物遺体の古DNA分析」の共同研究 ・山形大学 「神奈川県横浜市神隱丸山遺跡の食性分析」の共同研究 ・かながわ考古学財団 「上粕屋・秋山遺跡」「上粕屋・秋山上遺跡第2次調査」動物遺体の鑑定・執筆

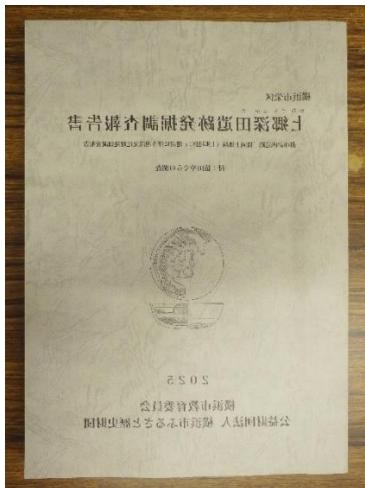
（6）資料利用対応

項目	事業内容
発掘資料・写真資料の貸出・展示・熟覧等	<p>遺物貸出：市内小学校で常設展示 6 件</p> <p>コミュニティハウス等で展示 0 件</p> <p>博物館等の施設 3 件</p> <p>その他 0 件</p>
	<p>写真利用：博物館等の施設 4 件</p> <p>横浜市ほか公共機関等 3 件</p> <p>出版社 7 件</p> <p>テレビ番組 1 件</p> <p>新聞・広報誌等 1 件</p> <p>その他 8 件</p>
	研究者等の資料利用（熟覧・実測等） 14 件

3 発掘調査事業（定款第4条第1項第1号①）

文化財保護法に基づく埋蔵文化財の発掘調査業務を受託しました。

事業略名称	遺跡名	所在地	委託者	備考
旧上瀬谷通信施設地区遺跡 試掘調査・本発掘調査支援	旧上瀬谷通信施設地区遺跡	横浜市瀬谷区	横浜市教育委員会	縄文時代 狩場 古代 集落跡 近代 軍事施設
上郷深田遺跡整理・報告業務	上郷深田遺跡	横浜市栄区	横浜市教育委員会	古代 製鉄遺跡



上郷深田遺跡発掘調査報告書



上郷深田遺跡発掘調査報告書作成のための検討会

4 施設連携事業（定款第4条第1項第1号②）

事業の共催や展示協力など財団他施設との連携を行ないました。

項目	事業内容
中世城郭の研究	小机城の発掘調査を契機に、横浜市歴史博物館と連携して市内中世城郭（主に小机城）の研究を進めた。
戦争遺跡に関する研究	令和7年度に実施する戦後80年をテーマとした連携展示の準備のため、横浜都市発展記念館と連携して市内の戦争遺跡に関する研究を進めた。
お城EXPO2024 12/20（土）・21（日）	お城エキスポ実行委員会が主催した「お城EXPO2024」で横浜市歴史博物館と協力し、小机城の発掘調査成果のパネルを中心に展示した。また、ブースで関連刊行物を販売した。

5 埋蔵文化財センター施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

埋蔵文化財センターの施設維持管理及び運営を行いました。今年度は8/25（日）に発生した体育館水道周りの雨樋落下による負傷事故のため、翌8/26（月）～1/29（水）（※地域利用は～1/10（金））まで施設利用停止措置をとり、雨樋修繕で樋支柱の補強工事を行った他、緊急施設点検を行い対処が必要とされた中庭倉庫の補修、外壁補修工事等を行いました。なお、安全性が確保できない体育館に関しては引き続き利用停止措置をとり、立入りを防止するためのフェンスを設置しています。※上記教育委員会文化財課実施・対応

また、遺物の収蔵状況が建物の耐久性に影響を及ぼしており、床面の歪みや柱・梁等建築部材のたわみを引き起こしている状況があることから、遺物の収蔵状況及び重量をとりまとめ今後の遺物収蔵や受入の検討材料として活用している他、教育委員会文化財課と連絡をとり、収蔵過多による建物の歪み・たわみの状況を共有・把握しています。現状でできる対策として、団体利用に開放していた研

修室を遺物の収蔵場所及び整理作業の場として利用することを、協議のうえ決定しました。今後内部検討により、遺物や図書類の移動及び整理作業場所としての環境整備を行い活用します。

日常的には、中庭樹木の害虫駆除や小学校時代より残置されていた液体廃棄物（体育館ワックス剤等）の処分を行い、収蔵室内のガラス破損や扉の修繕など小破修繕に対応し、施設の適切な管理・維持を行いました。

見学者対応としては、個人・団体の受入れ・案内を継続し、展示室内の清掃及び湿度管理を行いました。また刊行物の通販も引き受け付け、販路拡大に向けて通販サイトの導入を開始しました。

管理対象施設	内 容
埋蔵文化財センター 主な工事及び修繕	雨樋補修：体育館及びB・C棟周囲（文化財課対応）、ガードフェンス設置：体育館・プール周囲（文化財課対応）、外壁・小庇爆裂部補修：A～C棟及び給食棟（文化財課対応）、中庭倉庫軒樋撤去（文化財課対応）、プール鋼材腐食部ネット設置（文化財課対応）、エキスパンション修理：B・C棟渡り廊下の下（文化財課対応）、電線保護管塗装：A・B棟渡り廊下の下（文化財課対応）、スズメバチ駆除、ガラス修繕（A2-4 収蔵室）、B棟屋上扉鍵修繕
見学者対応	個人・団体の受入れを継続。また希望者に展示室の解説やDVDの視聴に対応した。見学者：223名（前年度363名）※施設利用停止 8/29～1/29
研修室利用 ※R7年度より中止	団体を対象に研修室の貸出・利用対応を行った。 利用者：395名（前年度961名）※施設利用停止 8/29～1/29
刊行物販売	試掘調査報告書『小机城跡』、発掘調査報告書『舞岡熊之堂遺跡』、ブックレット『舞岡熊之堂遺跡の戦争遺跡』・『野島貝塚』、『横浜城郭図』他 売上：674,689円

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
埋蔵文化財整備事業	港北ニュータウン地域内遺跡群の整理作業を継続し、 神隱丸山遺跡の貝塚編については学術水準の高い報告書を刊行した。 また、昨年から開始した出土遺物保管再整備事業を継続し、引き続き収納スペースの整理、台帳の整備を行った。	A
普及啓発事業	小机城跡の試掘調査成果の公開を期して展示・講座・講演会を行い、また引き続き遺跡の動画作成・公開を行った。いずれも市民から高評価を得た。 さらにシリーズ「横浜の遺跡」ブックレットの3冊目「北川谷遺跡群」を作成、頒布を行った。昨年度より開始した栄区地域振興課と協働で行う普及啓発事	S

	業（横穴墓見学会・勾玉づくり教室）を予定通り開催した。	
発掘調査事業	文化財業務委託事業外の業務委託による発掘調査・整理作業2件（本調査・試掘支援1件、整理・刊行1件）を受託した。いずれも関係部局との調整を密にして、事業を行った。 県内唯一の古代製鉄遺跡である上郷深田遺跡の報告書を予定通り刊行した。	S
施設連携事業	小机城跡試掘調査報告書作成事業や「お城EXPO2024」ブース出展について横浜市歴史博物館とともに協力した。	B
施設維持事業	近年増加している施設修繕について、市の関係部局と連携して、適切に進めた。とくに 令和6年度は事故の発生を受けて市による全施設点検・補修が行われ、施設の一般利用や地域利用が一定期間停止したが、関係部署と連絡を密にし、適切に対応した。	S

2 史跡等管理事業

横浜市の歴史・文化財関連施設の維持管理・運営を行いました。

1 八聖殿郷土資料館事業（定款第4条第1項第1号）

本牧に関する歴史をより広く知って楽しみながら関心をもっていただくことで、地域のことを好きになってもらえるような取り組みをしています。また、当館には空調機器類が設営されていないため夏季・冬季を通じて当館内での通年の歴史講座を開催することが困難なことから、地域の施設と連携して本牧の歴史に関する講座を実施しています。

1 本牧地域への貢献

項目	事業内容
本牧に関する歴史講座等の開催	(1) 本牧中学校コミュニティハウス定例歴史講座 本牧の歴史 入門編 24回開催 参加者733人 (2) 本牧地区センターワークショップ よもやま夜咄 12回開催 参加者254人 (3) 町内会および近隣施設での講演等 講座・散策・体験学習 19回開催 参加者546人
本牧の歴史に関する配信	(1) タウンニュース 中区・西区版 コラム

等	<p>「本牧きまぐれ歴史散策」 2017年から月1回連載 今年度は第79回から第89回および番外編1回を執筆</p> <p>(2) 横浜市中区老人クラブ連合会 コラム 「横浜もののはじまり」 2024年7月号・2025年1月号に連載</p> <p>(3) YouTube チャンネル 92番組を配信中 再生回数91, 525回</p> <p>(4) Facebook ブログ 令和6年度は19回配信</p>
学校授業支援	<p>(1) 本牧地区その他小学校での授業依頼 28回 出席者数1, 416人</p> <p>(2) 教職員研修 本牧や横浜の歴史についての研修 7校のべ13人</p> <p>(3) 中学生職業体験 大鳥中学校2年生3名を2日間</p>
歴史講座	<p>本牧地域にお住いの方々を中心に、横浜市域に関する歴史を紹介。</p> <p>(1) 歴史講座 歴史に詳しくない方でも、横浜の歴史を理解し、興味をもっていただくことを目的とした講座を開催。 16回開催 参加者487人</p> <p>(2) ゼミ 古文書原本なども読み進めながら解説するなど、専門的な内容も楽しく学んでいただくことを目的とした講座。中世・近世・民俗の3コースを開催。 22回開催 参加者541人</p> <p>(3) 歴史散歩 17回開催 参加者366人</p>
地域との連携	<p>(1) 本牧・根岸地区まちづくりの会活動の支援</p> <p>(2) 大鳥中学校PTA活動への参加</p> <p>(3) 本牧地域の町内会や活動団体と協力した講座・体験イベントの開催</p> <p>(4) 本牧の歴史に関する調査研究、調査研究支援・協力</p>

2 本牧外地域からの依頼・支援

項目	事業内容
博物館実習	これまでの実績から、毎年、博物館実習の受け入れ依頼がある。 令和6年度は実習生12人を受け入れた
講座・散策・体験学習	地区センター、老人福祉施設、各区ボランティアガイド等から講座や散策・体験学習などで講師依頼があり、受託している。 41回開催 参加者数1, 300人

3 資料および施設の維持管理

項目	事業内容
資料収集保管	(1) ご提供いただいた写真資料などはデジタルデータとして受け入れ、整理・保管している。 (2) 歴史博物館の協力を得て、館蔵資料の整理を進めている。
施設維持管理	(1) 常設展示の修繕、リニューアル (2) 施設・設備の維持管理 (3) 清掃および植栽等の管理

4 八聖殿郷土資料館利用者の推移

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
八聖殿郷土資料館利用者数（人）	13,006	12,818	11,331

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
八聖殿事業	当館が本牧の地域博物館として果たしてきた役割が他地域でも求められ、関心を示していただけていることと受け止めている。	A

2 史跡管理事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜市の文化財である、国指定史跡称名寺境内等の維持管理を適切に行いました。

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稻荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
史跡管理事業	委託業者による通常の維持管理に加え、総務課職員によるこまめな見回りや修繕を行いました。所管課への報告・連絡を密にし、所管課で対応すべき修繕等についても積極的に働きかけを行うことで、史跡の適切な維持管理につなげることができました。	A

IV 市史資料委託事業

横浜市総務局行政マネジメント課の委託を受け、総務局が所管する横浜市史資料室所蔵資料の公開・閲覧を行い、あわせて所蔵資料の保存・管理を行いました。昭和期の横浜に関する資料の収集に努め、令和6年度は813点の資料を受け入れました。また所蔵資料を中心に調査研究を進め、その成果を『市史通信』『横浜市史資料室紀要』等の刊行物として公開しました。普及事業では年3回の室内展示を開催して、所蔵資料の紹介に努めたほか、令和6年度は屋外彫刻をテーマにした講演会を開催しました。その他、横浜開港資料館や横浜都市発展記念館など財団運営施設での企画展や、市民利用施設における展示会等に協力し、写真・資料の貸し出しを通じて所蔵資料の公開、普及に努めました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）資料の収集・管理・公開

項目	点 数	事業内容
資料の寄贈	15件263点	資料の寄贈を受け、整理・目録化を行った。 【主な収集資料】小山芳美家資料（追加）、陸軍脛当て、横浜市銃後奉公会顕彰旗、富浜利郎家資料（追加）、（空襲時の）表彰状、池田家資料、ボンバー洋装店資料（追加）、永田家資料、松澤家資料（写真アルバム）、株式会社石橋資料（商店関係）他
図書・刊行物	546点	図書（131冊）、行政刊行物（415冊）の収集・整理を行った。
資料の移管	0件	移管された文書および行政刊行物の整理・目録化を行う（今年度はなし）。
資料の購入	4件4点	以下の資料を購入した。 横浜市川崎市連合防護団資料、（鶴見）商店繁栄双六、『令女界』（第15巻1号）他
複製資料の選定	マイクロフィルム：40,754コマ フィルムスキャン：6,828コマ プリント：6,828枚	マイクロフィルム撮影による複製資料作製のための資料選定をおこなった。 【主な選定資料】内田民蔵資料、横山純也家資料、団

		地通信社『The KEY』他
資料整理・保存		収集資料の整理、目録の作成、および一部資料について、公開に向け再整理を行った。また、中性紙封筒への封入、および再整理資料の中性紙封筒への入れ替えの作業を行った。さらに資料保管先の変更に伴う資料の確認、および保存箱への入れ替え作業を行った。
資料公開	入室者数：414人	資料閲覧、複写、レファレンス対応等を行った。
資料特別利用	提供件数：162件	出版物掲載（48件）、放映等利用（26件）、展示出陳（25件）、HP掲載その他（63件）のために、写真および資料の提供を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）調査研究

項目	事業内容
所蔵資料等についての調査研究	火災保険地図の調査・研究の成果を活かして、室内展示「中区火災保険図」を実施した。また、横浜の洋装関係資料に関する調査・整理の成果を、今年度の報告書に反映させた。
戦前・戦後期の横浜に関する調査研究	昭和期の都市化や教育および市民生活などのテーマに即した調査研究を行う。今年度は、震災復興期の土地区画整理、戦前期の女性たちの活動、昭和期の地図資料に関する調査研究を行い、その成果を『市史通信』や『横浜市史資料室紀要』に反映させた。
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業	令和7年度の戦後80年に向けて、横浜の空襲と戦災関連資料の調査を開港資料館・都市発展記念館・埋蔵文化財センターと連携して進めた。また、開港資料館・都市発展記念館・神奈川県立歴史博物館と連携して「都市横浜『歴史空間』復原への調査研究事業」を進めた。

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）閲覧室運営

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
展示見学者（人）（注1）目標数5,000人	6,498	3,793	4,225
入室者数（人）目標数600人	414	559	496
資料閲覧室利用者数（人）（注2）	44	55	50
複写申込件数（件）	184	218	236
レファレンス件数（注3）目標数200件	202	186	155
電話レファレンス件数（注4）目標数200件	252	285	378

（注1）市史資料室内展示コーナーの見学者数

（注2）資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、開架資料の閲覧室とは別室

(注3) レファレンス件数は、来室者からレファレンスを受け付けた件数

(注4) メールレファレンス含む。

(2) 展示会・講演会・講座の開催

項目	事業内容
室内展示の開催	<p>以下の室内展示を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none">・「遊覧バスでめぐるヨコハマ観光と野毛山」 会期：令和6年4月27日～7月13日 入場者数：873人・「雑誌にみる女性たちの集い」 会期：令和6年7月27日～11月9日 入場者数：1,265人・「中区火災保険図～「野毛山周辺」を中心に～」 会期：令和6年11月23日～令和7年3月22日 入場者数：4,360人
講演会の開催	<p>講演会「野毛界隈影刻巡礼－清正公と井伊直弼と美空ひばり－」 日時：令和6年9月28日（土）14時～16時 会場：横浜市中央図書館地下1階ホール 講師：木下直之（東京大学名誉教授、静岡県立美術館館長） 参加者：79人</p>

(3) 情報発信・普及広報

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』(No. 50～No. 52) を刊行した（各3,200部）。資料提供者（機関）、および関係者（機関）へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容のPDFファイルをホームページ上で公開した。
『紀要』の刊行	所蔵資料の調査を中心とした、横浜の昭和史に関する研究成果を発表するため、『横浜市史資料室紀要』第15号を刊行した（600部）。所蔵資料に関する研究論文や紹介文を掲載した。
報告書の刊行	令和5年度のシリーズ展示「横浜の女性と洋装」の内容とその後の調査結果をまとめ、『横浜市史資料室報告書 令和6年度 横浜の女性と洋装』として刊行した（600部）。
ホームページの公開	ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、刊行物の案内、展示会等の案内、『市史通信』の掲載など情報発信を行った（横浜市総務局行政マネジメント課で作成。随時更新）。 アクセス件数：137,902件
広報宣伝活動	・以下の媒体に展示会や講演会の記事が掲載された。

	<p>『神奈川新聞』(10月12日) 室内展示「雑誌にみる女性たちの集い」</p> <p>『タウンニュース』中・西・南区版(9月5日) 講演会「野毛界隈彫刻巡礼」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内展示のポスター、案内チラシを作成し、掲示・配布した。 ・財団メールマガジンによる情報発信を行った。
その他	<p>講師派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川大学 共通教養科目【横浜まち歩き】「横浜駅の変遷」について(令和6年5月24日) ・横浜市山内図書館 有隣新書で知る講座「横浜・鉄道と都市の150年」(令和6年6月30日) ・保土ヶ谷区東部連合自治会 保土ヶ谷の歴史探訪「保土ヶ谷と鉄道の歴史」(令和6年9月21日) ・片倉三枚地域ケアプラザ「横浜・鉄道と都市の150年」(令和7年1月25日)

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
市史資料室事業	資料収集保管事業では、昭和期の貴重な地域資料が収集でき、市史資料の一層の充実につなげた。調査研究事業・企画普及事業では、これまで取り上げることがなかった女性史・美術史の分野に取り組んだ。また開港資料館・都市発展記念館の事業への資料提供など、指定管理施設との連携もこれまで通りに進めた。	A

【参考:評価の基準】

評価基準については、平成21年6月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価: 目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価: 目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価: 目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価: 目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価: 目標値 80%未満